



WITHCALLPRO[®]

取扱説明書

同時通話型
特定小電力トランシーバー

IC-5030

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた同時通話型特定小電力トランシーバーです。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

本製品の概要

- ◎ 多彩な通話モード(通信方式)
交互通話(単信)、同時通話(2者(複信)/3者/4者/6者)、中継交互通話(半複信)、中継装置、送信専用の8種類
- ◎ 2者同時通話(複信)でのチャンネル自動(MCA)モード
- ◎ 最大チャンネル(Ch)数は、交互通話(単信)は20Ch、2者(複信)/中継交互通話(半複信)/中継装置/送信専用は27Ch、3者/4者同時通話は9Ch、6者同時通話は4Ch
- ◎ 多彩な通話形態(1対1(ペア)同時通話、1対N(複数)同時通話、疑似3者通話、個別呼び出し(複信)、全体呼び出し)
- ◎ 直接給電(別売品:BC-258)による通話
- ◎ Bluetoothヘッドセットによる通話
- ◎ 免許不要・資格不要
- ◎ IP67★の防塵/防水性能
- ★「IP表記」(P.iv)をご覧ください。

通信方式について

本製品は、下記の通信(通話)モードに対応しています。

- ◎ 単信(交互通話)
送信と受信で同じ周波数を使用します。
送信と受信を交互に繰り返して通話する方式です。
 - ◎ 複信(2者同時通話、多者同時通話(3者/4者/6者))
送信と受信で異なる周波数を使用します。
複数人が同時に通話する方式です。
 - ◎ 半複信(中継交互通話)
送信と受信で異なる周波数を使用します。
通話方法は、単信(交互通話)と同じですが、「中継装置」に設定された本製品を中継して、送信と受信を交互に繰り返して通話する方式です。
 - ◎ 送信専用(同報無線)
双方向の通話はできず、一方的に送信(放送)する方式です。
- ※通話相手とチャンネル番号が同じでも、選択したチャンネル番号に登録された周波数が異なると通話できません。

電波法上のご注意

- ◎ 本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎ 他局の通信の妨害、および通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎ 使用できるのは、日本国内に限られています。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバーター回路内蔵のおもな電子機器

- ◎ LED照明器具 ◎ 電磁調理器 ◎ 給湯器
- ◎ 自動車に搭載された電子機器 ◎ 太陽光発電装置

使用後はリサイクルへ



この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、WITHCALL、WITHCALL PROロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。
Bluetoothワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。アイコム株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎ アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎ 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎ 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパック、保護カバー(USBポート、9ピンコネクタ)、別売品の9ピンコネクタ部分を付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎ 蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
- ◎ 無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子、および電源ジャック)、乾電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎ バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。
- ◎ 本製品の故障、誤動作、不具合などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

取扱説明書の構成

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」(別紙)と弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(本書)、で構成されています。

ご使用になる前に(別紙)

はじめて本製品をご使用になる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や本製品の基本操作や充電方法などを説明しています。

取扱説明書(本書)

各通話モードでの使用方法や詳細な機能について説明しています。

現品表示記号の意味

- 「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備
- 「FH」 : FHSS方式
- 「1」 : 想定干渉距離が10m以下
- 「---」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4FH1

2.4GHz帯の電波干渉についてのご注意

Bluetoothの通信では2.4GHz帯の電波を使用するため、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- ◎ この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ◎ 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。
- ◎ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.8-4)へお問い合わせください。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

はじめに

防塵/防水性能

バッテリーパック(BP-319)、保護カバー(USBポート、9ピンコネクタ)を正しく取り付けられた状態でIP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎ 水深1mより深く、または30分より長く水中に放置したとき
- ◎ 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパック、保護カバー、別売品の防水コネクタ部分を付けたり、はずしたりしたとき
- ◎ 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- ◎ 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- ◎ 長時間、高い水圧をかけたとき
- ◎ 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- ◎ IP67より防塵/防水性能の低い別売品を使用したとき
- ◎ 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷した状態で使用したとき
- ◎ -10°C ~ $+50^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき
- ◎ 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- ◎ 本製品を分解、改造したとき
- ◎ 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能

バッテリーパック(BP-319)、保護カバー(USBポート、9ピンコネクタ)を正しく取り付けられた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

※別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

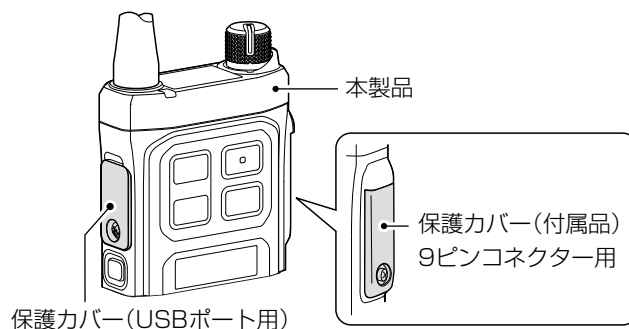
別売品の防塵/防水性能(P.7-1)をご確認の上、ご使用ください。

※別売品の一部は、付属品として同梱されています。

未接続時の保護カバー装着

各端子を保護するため、USBポートや9ピンコネクタを使用しないときは、下図のように保護カバーを正しくすきまができないように取り付けることで防塵/防水性能の維持ができます。

※9ピンコネクタ用の保護カバー(付属品)の取り付けかたは、P.1-1ページで説明しています。



はじめに

IP表記

製品の防塵/防水性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の侵入がないこと

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※バッテリーパック(BP-319)、保護カバー(USBポート、9ピンコネクター)、または別売品(HM-149、HM-163A)の防水コネクターを無線機に正しく取り付け付けた状態で洗浄してください。

※常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- 無線機本体、バッテリーパック、保護カバー(USBポート、9ピンコネクター)、別売品(HM-149★、HM-163A★)の防水コネクター部分が破損している場合
- 落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

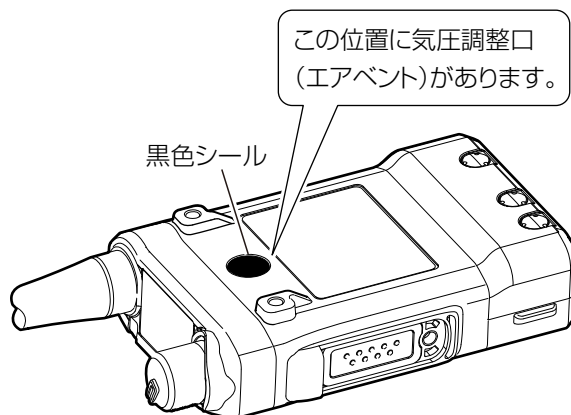
★HM-149、HM-163Aのコネクター部はIPX7相当の防水性能がありますが、マイク部は防水構造ではありません。

気圧調整口(エアイベント)について

◎ 黒色シールの上に、シールなどを貼らないでください。

黒色シールの位置に気圧調整口(エアイベント)があり、この黒色シールの下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

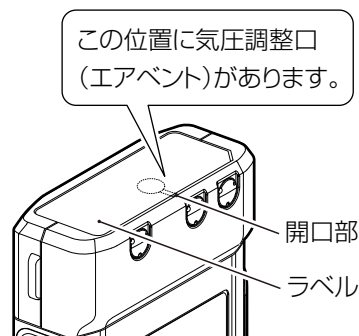
※黒色シールが傷ついたり、ほかのシールを貼ってふさいだりすると、結露が発生する原因となり、防水性能が維持できません。



◎ バッテリーパックの底面に貼られたラベルの上に、シールなどを貼らないでください。

ラベルの端にある開口部に気圧調整口(エアイベント)があり、気圧を調整しています。

※ほかのシールを貼ってふさぐと、結露が発生する原因となり、防水性能が維持できません。



もくじ

はじめに	i	2 各通話モードの概要	2-1
本製品の概要	i	■ 2者同時通話(複信)モード	2-1
通信方式について	i	◇ チャンネル自動(MCA)モード	2-1
登録商標/著作権	i	◇ チャンネル手動モード	2-1
電波法上のご注意	i	◇ 個別番号選択モード	2-2
電磁ノイズについて	i	■ 交互通話(単信)モード	2-2
取り扱い上のご注意	ii	■ 中継交互通話(半複信)モード	2-3
取扱説明書の構成	ii	■ 中継装置モード	2-3
現品表示記号の意味	ii	■ 3者同時通話モード	2-4
2.4GHz帯の電波干渉についてのご注意	ii	■ 4者同時通話モード	2-4
取扱説明書の内容について	ii	■ 6者同時通話モード	2-5
防塵/防水性能	iii	■ 送信専用モード	2-5
別売品の使用による防塵/防水性能	iii	3 通話モードを変更するには	3-1
未接続時の保護カバー装着	iii	■ 2者同時通話(複信)モード	3-1
IP表記	iv	◇ チャンネル自動(MCA)モードで 使用する場合	3-1
海水が付着したときは?	iv	◇ チャンネル手動モードで使用する場合	3-3
気圧調整口(エアイベント)について	iv	◇ 個別番号選択モードで使用する場合	3-5
1 ご使用前の準備	1-1	■ 交互通話(単信)モードで使用する	3-7
■ 付属品の取り付けかた	1-1	■ 中継交互通話(半複信)モードで使用する	3-8
◇ バッテリーパックの着脱	1-1	■ 中継装置モードで使用する	3-9
◇ キャリングケースの取り付けかた	1-1	■ 3者同時通話モードで使用する	3-10
◇ 保護カバーの取り付けかた	1-1	■ 4者同時通話モードで使用する	3-12
■ 各部の名称	1-2	■ 6者同時通話モードで使用する	3-14
■ ベルトクリップの取り付けかた(別売品)	1-2	■ 送信専用モードで使用する	3-16
■ マイクホンとイヤホンの接続(別売品)	1-2	4 通話のしかた	4-1
■ 電源の入れかた	1-2	■ 2者同時通話(複信)モード	4-1
■ 音量調整のしかた	1-2	◇ チャンネル自動(MCA)モードで 通話する場合	4-1
■ 表示部	1-3	◇ チャンネル手動モードで通話する場合	4-3
■ 電池の残量警告音	1-3	◇ 個別番号選択モードで通話する場合	4-5
■ 各キーの動作	1-3	■ 交互通話(単信)モードで通話する	4-9
■ 各通話モードの表示	1-4	◇ グループ番号を使用しない場合	4-9
◇ 2者同時通話(複信)モード	1-4	◇ グループ番号を使用する場合	4-10
◇ 交互通話(単信)モード	1-4	■ 中継交互通話(半複信)モードで通話する	4-12
◇ 中継交互通話(半複信)モード	1-4	◇ グループ番号を使用しない場合	4-12
◇ 3者同時通話モード	1-5	◇ グループ番号を使用する場合	4-13
◇ 4者同時通話モード	1-5	■ 3者同時通話モードで通話する	4-15
◇ 6者同時通話モード	1-5	◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定しない場合	4-15
◇ 中継装置モード	1-5	◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定する場合	4-17
◇ 送信専用モード	1-5	■ 4者同時通話モードで通話する	4-20
		■ 6者同時通話モードで通話する	4-22
		■ 通話するときのアドバイス	4-24
		◇ マイクとイヤホンの接続	4-24
		◇ 通話範囲	4-24
		◇ 混信防止(キャリアセンス)機能	4-24
		◇ 通話時間の制限	4-24
		◇ 電波干渉	4-24

もくじ

5 そのほかの機能	5-1	7 別売品とその使いかた	7-1
■ Bluetooth機能	5-1	■ 別売品一覧	7-1
◇ ペアリングの前に	5-1	■ 運用時間と充電時間の目安	7-2
◇ ペアリングのしかた	5-1	■ バッテリーパックの特性と寿命	7-2
◇ ペアリングリストから接続するには	5-3	■ 正しい充電のために	7-2
◇ Bluetoothオプション	5-3	■ バッテリーパックの膨張	7-2
■ ロック機能	5-5	■ 充電のしかた	7-3
■ オートロック機能	5-5	◇ BC-258(ACアダプター)で充電するには	7-3
■ オートパワーオフ機能	5-5	◇ BC-275(連結可能充電器)を1台で	7-4
■ 疑似3者通話機能	5-6	充電するには	7-4
■ 秘話機能	5-6	◇ BC-275(連結可能充電器)を連結して	7-5
■ 自動再接続機能	5-6	充電するには	7-5
■ パワーON自動接続機能	5-6	■ BP-318(アルカリ乾電池ケース)	7-6
■ 呼び出しベル機能	5-7	◇ アルカリ乾電池ケースの正しい使いかた	7-6
■ LCDバックライト	5-7	◇ アルカリ乾電池ケース使用時の運用時間	7-6
■ 受信専用機能	5-7	■ HM-123(本体取り付け型マイクロホン)	7-6
■ 一時音量切り替え機能	5-7	■ HM-163A(接話タイピン型マイクロホン)	7-6
■ レストア(設定の保存と復元)	5-8	■ OPC-636(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)/	7-7
		OPC-661(接続ケーブル)	7-7
6 各種機能の設定	6-1	■ VS-2SJ(VOXユニット)	7-7
■ 各通話モードに対応する設定項目一覧	6-1	■ HS-92(ヘルメット取り付け型マイクロホン)と	7-8
■ 設定モードに移行するには	6-3	EH-11(イヤープッド型スピーカー)の	7-8
◇ 設定モードの移行操作	6-3	組み立て	7-8
◇ 詳細設定モードの移行操作	6-3	■ HS-94(イヤーフック型ヘッドセット)	7-8
■ 設定を変更するには	6-3	■ HS-95(ネックアーム型ヘッドセット)	7-8
■ 設定項目	6-4	■ HS-97(咽喉マイクロホン)	7-8
		■ HS-99(耳かけ式イヤホンマイクロホン)	7-8
		8 保守	8-1
		■ 日常の保守と点検	8-1
		■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守	8-1
		■ 従来製品との相互使用	8-1
		■ リセット(初期化)のしかた	8-1
		■ 故障かな?と思ったら	8-2
		■ アフターサービスについて	8-4
		9 定格	9-1
		■ 一般仕様	9-1
		■ Bluetooth®部	9-1
		■ BC-258 ACアダプター(別売品)	9-1
		■ BC-275 連結可能充電器(別売品)	9-1

ご注意

- ◎ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパック(付属品：BP-319)を充電してください。
- ◎充電器、またはUSBケーブル(充電用)による充電方法は、「■ 充電のしかた」をご覧ください。(P.7-3)
- ◎充電器、またはUSBケーブル(充電用)は、本製品に付属していませんので、下記の充電方法に合わせて別途ご購入ください。

【充電器を使用して充電する場合】

充電器(BC-275)とACアダプター(BC-216、またはBC-228)を別途ご購入ください。(P.7-1)

※BC-275のACアダプターには、必ずBC-216、またはBC-228をご使用ください。

なお、OPC-2480用のACアダプター(BC-258)は、BC-275(充電器)には接続できません。

【USBケーブルを使用して充電する場合】

USBケーブル(OPC-2480)とACアダプター(BC-258)を別途ご購入ください。(P.7-1)

※OPC-2480に接続するACアダプターには、必ずBC-258をご使用ください。

なお、BC-275用のACアダプター(BC-216、BC-228)は、OPC-2480(USBケーブル)には接続できません。

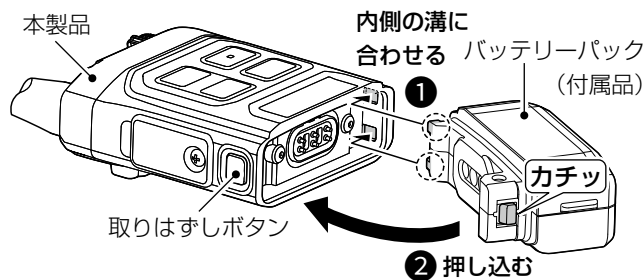
■ 付属品の取り付けかた

◇ バッテリーパックの着脱

下図の手順(①→②)にしたがって着脱します。

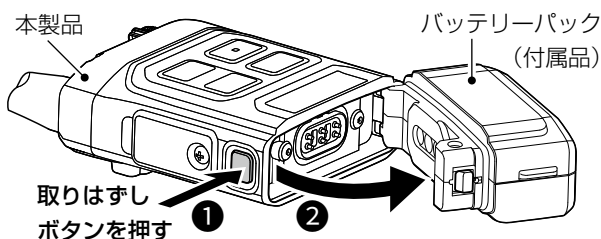
◎ 取り付けかた

バッテリーパックの端(破線で囲んだ部分)を本製品内側の溝(矢印部分：①)に合わせ、矢印(②)の方向に「カチッ」と音がするまでバッテリーパックを押し込むと、無線機側面にある取りはずしボタンがロックされます。



◎ 取りはずしかた

取りはずしボタン(①)を押すとロックがはずれ、矢印(②)の方向にバッテリーパックがはずれます。

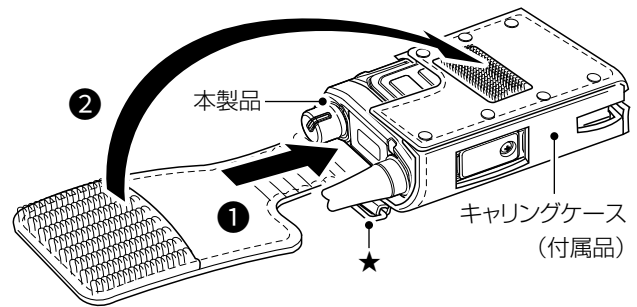


◇ キャリングケースの取り付けかた

バッテリーパックで使用する本製品に、キャリングケースを装着した状態で充電できます。

※アルカリ乾電池ケース(別売品：BP-318)で使用する本製品にも装着できます。

★MB-57L(別売品：ショルダーストラップ)をキャリングケースに取り付けできます。



◇ 保護カバーの取り付けかた

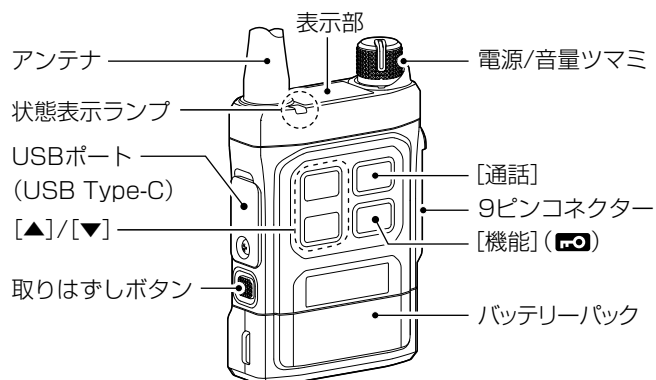
Bluetoothヘッドセットなど(P.5-1)を使用して通話するときは、保護カバーをコネクターに取り付けて端子を保護してください。

※ケーブル接続タイプのマイクロホンとイヤホンを接続して運用するときは、大切に保管してください。



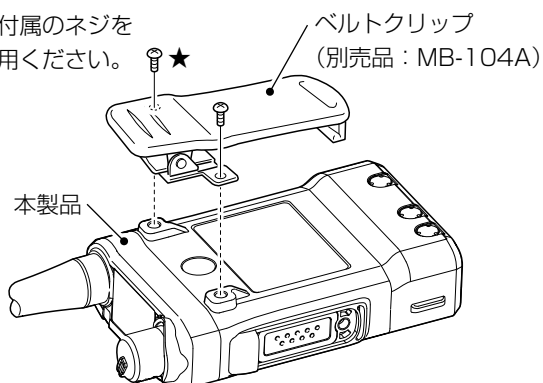
1 ご使用前の準備

■各部の名称



■ベルトクリップの取り付けかた(別売品)

★必ず付属のネジをご使用ください。



※故障の原因になりますので、ベルトクリップに付属するネジ以外は絶対に使用しないでください。

※キャリングケース(付属品: LC-206)と併用できません。
作業ベルトにかけて使用する場合は、革製ベルトハンガー(別売品: MB-96FL)と併せてご用意ください。

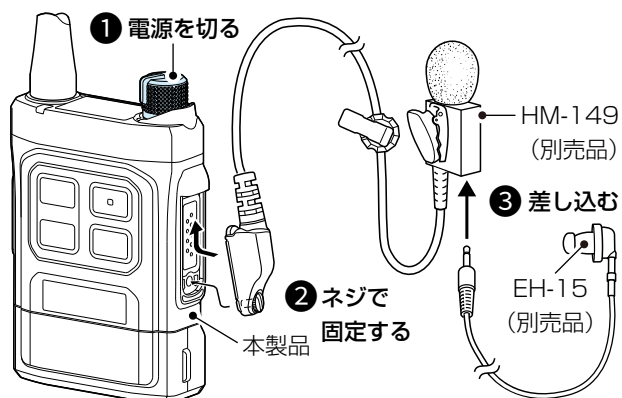
■マイクロホンとイヤホンの接続(別売品)

取り付けていない状態では、通話できません。

用途に応じて、別売品一覧(P.7-1)から選択してください。

【接続の組み合わせ例: HM-149 + EH-15】

電源(①)を切ってから、防水コネクター付きタイピン型マイクロホン(②)とイヤホン(③)を接続します。



■電源の入れかた

電源/音量ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

・「カチッ」と音がして、「ピー」と鳴ります。

※表示部の照明は、電源を入れたときや各部のキーを操作したあと、約5秒点灯します。

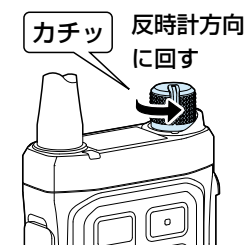
※電源を入れた直後に、設定された通話モードが表示されます。

(P.1-4)



電源を切るときは

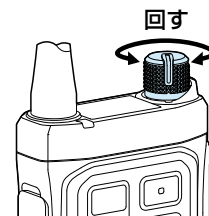
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



■音量調整のしかた

本製品にイヤホンを接続した状態で、電源/音量ツマミを回して、キー操作時のピープ音や相手の声が聞こえる音量に調整します。

※無線機本体から聞こえるキー操作時のピープ音は変更できません。



△警告

下記の事項を守らないと、音量によっては、聴力障害の原因になります。

- ◎ イヤホンなどは、大きな音量で使用しないでください。
- ◎ コネクターの取り付けや取りはずしは、大きな異音が出る場合があります。

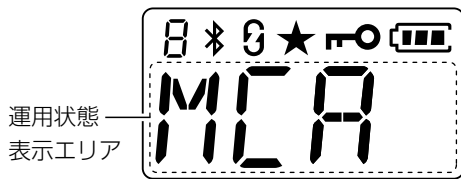
電源を切ってから、取り付けや取りはずしをしてください。

また、イヤホンなどは、耳からはずしてください。

- ◎ 本製品の音量は最小にしておき、イヤホンなどを耳に当ててから、聞きやすい音量に調整してください。
- ※何も音が出ていない状態(待ち受け中)での調整は、無線機を操作したときのピープ音が小さく聞こえはじめる程度にしておき、通話を開始してから聞きやすい音量に調整してください。

1 ご使用前の準備

■表示部



※説明のための表示例で、実際の表示内容とは異なります。

8	設定されている通話(通信)モードを表示(P.6-4)	
	1 交互通話(単信)	6 6者同時通話
	d 2者同時通話(複信)	5 中継交互通話(半複信)
	3 3者同時通話	r 中継装置
	4 4者同時通話	t 送信専用
※Bluetooth機器をペアリングリストから接続するとき、すでに登録されている台数(1～7)が表示されます。		
Bluetooth	Bluetooth機器と接続時(P.5-2) ※設定モードでBluetooth機能が「on」のとき	
3	秘話機能が動作中(P.5-6) ※設定モードで秘話機能が「on」のとき	
★	送信出力が10mWに設定されているとき	
key	ロック機能が動作中(P.5-5)	
Battery	電池の残量(目安)を4段階で表示 バッテリーパック(付属品)の電池残量に応じて変化します。	
	Full	十分に容量があるとき
	3/4	短時間の運用はできる
	1/2	充電、または電池の交換が必要なとき
	Low	ほとんど容量がないとき ※表示が点滅し、残量警告音が鳴ります。

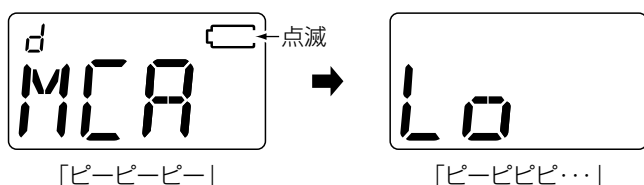
【運用状態表示エリア】

通話モードや運用状態(表示例:MCA)を表示します。
※設定モード(P.6-1)では、各設定項目と設定値を表示します。

■電池の残量警告音

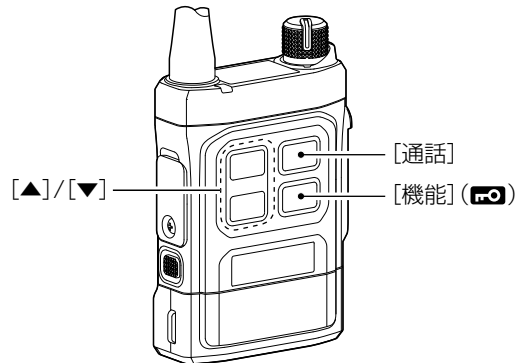
電池の残量表示が「点滅」になると、本製品に接続されたイヤホンと無線機本体から残量警告音(ピーピーピー)が約30秒ごとに鳴ります。

【電池残量が極端に減少したとき】



※「点滅」の状態で使用をつづけると、「Lo」が表示され、残量警告音(ピーピーピー...)が鳴りつづけたあと、電源が自動的に切れます。

■各キーの動作



【通話】	◎ 交互通話(単信)、中継交互通話(半複信)、中継装置のいずれかのモードに設定されている場合は、押しているあいだ送信、はなすと受信に切り替わります。 ◎ 2者同時通話(複信)モードに設定されている場合は、押すごとに送信と受信が切り替わります。 ◎ 多者同時通話(3者/4者/6者)に設定されている場合は、短く押して呼び出し後は、再度短く押すごとにマイクのON/OFFします。切断するときは、長く押します。 ◎ 送信専用モードに設定されている場合は、受信はできず、押しているあいだ送信します。 ◎ 設定モードや詳細設定モードのときに押すと、設定内容が確定され、設定モードや詳細設定モードが解除されます。(P.6-3)
	短押し ◎ 交互通話(単信)、中継交互通話(半複信)、中継装置、送信専用のいずれかのモードに設定されている場合は、グループ番号(01～38)が選択できる状態にします。(例:0102) ◎ 2者同時通話(複信)の個別番号選択モードに設定されている場合は、押すごとに個別番号(例:Sc01)、グループ番号(例:Gr01)、全体呼び出し★(ALL)が選択できる状態に切り替わります。 ★全体呼び出しの選択には、お買い上げの販売店での設定が必要です。 ◎ 3者同時通話に設定されている場合は、押すごとに、端末(例:3-1、3-1A)を選択できる状態に切り替わります。 ◎ 4者/6者同時通話に設定されている場合は、押すごとに、端末(例:4-1A、4-1b)を選択できる状態に切り替わります。
【機能】	長押し ロック機能をON/OFFします。(P.5-5)
【▲】/【▼】	◎ チャンネル番号を変更するときに押します。 ◎ 個別番号(例:Sc01)、グループ番号(例:Gr01)を変更するとき、【機能】を押したあとに押します。 ◎ 設定モードや詳細設定モードのときに押すと、各種設定項目や設定値が変更されます。(P.6-3)

1 ご使用前の準備

■各通話モードの表示

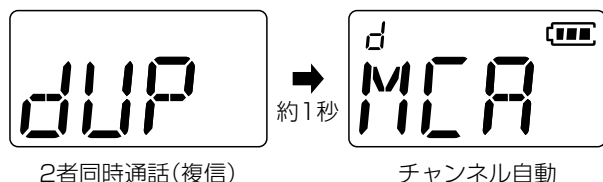
通話(通信)モードは、電源を入れた直後に確認できます。

◇2者同時通話(複信)モード

電話のように、2人で双方向の同時通話ができます。

◎チャンネル自動(MCA)モード

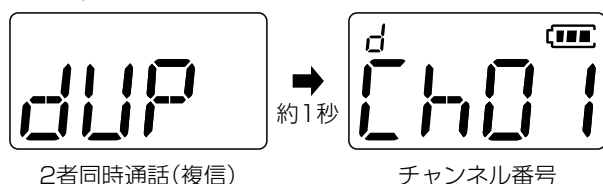
2者同時通話(複信)モード(dUP)、チャンネル(MCA)の順に表示されます。



※手でチャンネルの変更はできません。

◎チャンネル手動モード

2者同時通話(複信)モード(dUP)、チャンネル番号(例: Ch01)が表示されます。

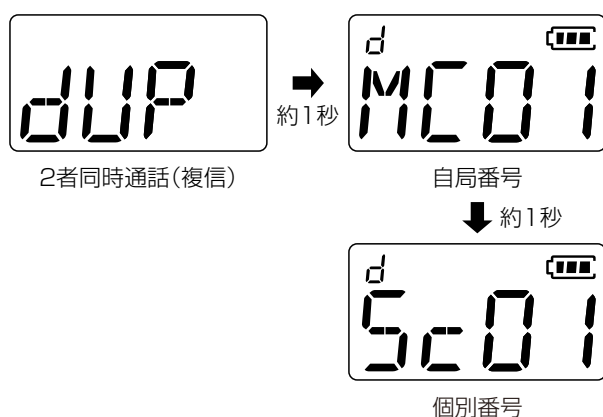


※MCAやチャンネルの変更方法(P.4-3)

◎個別番号選択モード

2者同時通話(複信)モード(dUP)、自局番号(例: MC★01)、個別番号(例: Sc01)が表示されます。

★ MCは、MCAを意味しています。



※強制的にチャンネル自動(MCA)モードとなり、手でチャンネルの変更はできません。

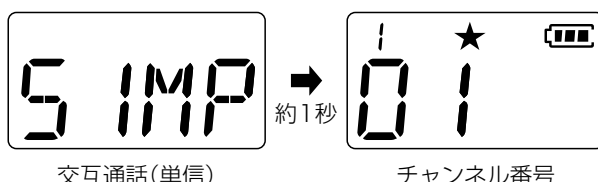
※個別番号の変更方法(P.4-5)

◇交互通話(単信)モード

送信と受信を交互に繰り返して通話できます。

◎グループ番号を使用しない通話

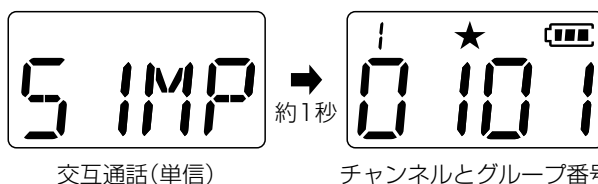
交互通話(単信)モード(SIMP)、チャンネル(例: 01)の順に表示されます。



※チャンネルの選択方法(P.4-9)

◎グループ番号を使用する通話

交互通話(単信)モード(SIMP)、チャンネルとグループ番号(例: 01 01)の順に表示されます。



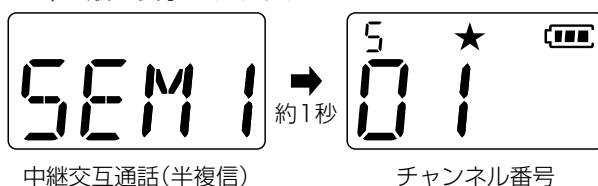
※チャンネルとグループ番号の選択方法(P.4-10)

◇中継交互通話(半複信)モード

中継装置モードに設定された本製品を中継することで、送信と受信を交互に繰り返して通話できます。

◎グループ番号を使用しない通話

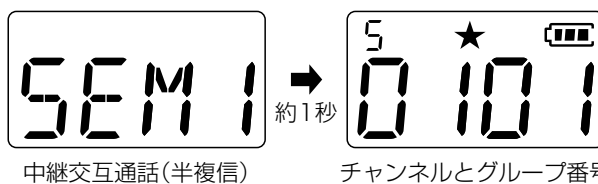
中継交互通話(半複信)モード(SEMI)、チャンネル(例: 01)の順に表示されます。



※チャンネルの選択方法(P.4-12)

◎グループ番号を使用する通話

中継交互通話(半複信)モード(SEMI)、チャンネルとグループ番号(例: 01 01)の順に表示されます。



※チャンネルとグループ番号の選択方法(P.4-13)

1 ご使用前の準備

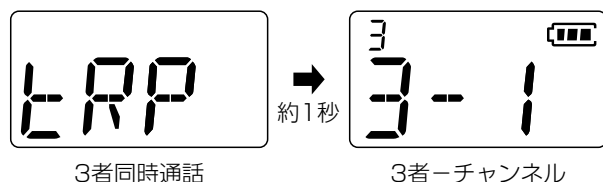
■各通話モードの表示

◇3者同時通話モード

3人で双方向の同時通話ができます。

◎親機(A)、子機(b、C)を指定しない通話

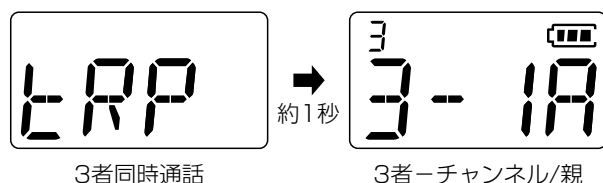
3者同時通話モード(tRP)、チャンネル(例：1)の順に表示されます。



※チャンネルの選択方法(P.4-15)

◎親機(A)、子機(b、C)を指定する通話

3者同時通話モード(tRP)、チャンネル/親/子(例：1A)の順に表示されます。

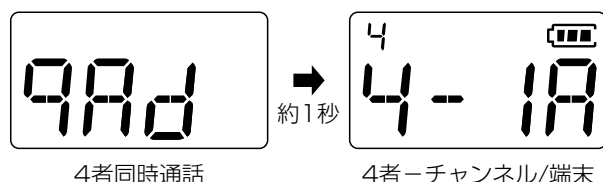


※チャンネル/親/子の選択方法(P.4-17)

◇4者同時通話モード

4人で双方向の同時通話ができます。

4者同時通話モード(qAd)、チャンネル/端末(例：1A)の順に表示されます。

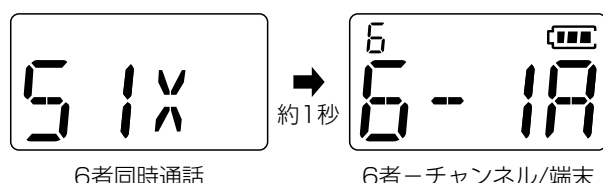


※チャンネル/端末の選択方法(P.4-20)

◇6者同時通話モード

6人で双方向の同時通話ができます。

6者同時通話モード(SIX)、チャンネル/端末(例：1A)の順に表示されます。



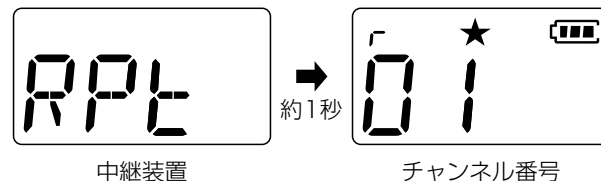
※チャンネル/端末の選択方法(P.4-22)

◇中継装置モード

中継交互通話(半複信)モードに設定された本製品の電波を中継するモードで、レピータとして通話相手の電波が直接届かない場所に設置します。

◎グループ番号を使用しない中継

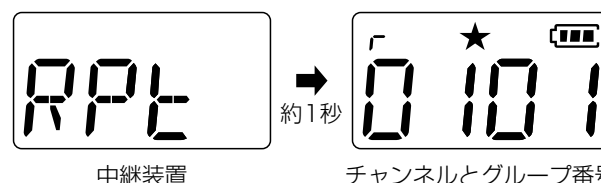
中継装置モード(RPt)、チャンネル(例：01)の順に表示されます。



※チャンネルの選択方法は、中継交互通話(半複信)モードと同じです。(P.4-12)

◎グループ番号を使用する中継

中継装置モード(RPt)、チャンネル(例：01)とグループ番号(例：01 01)の順に表示されます。



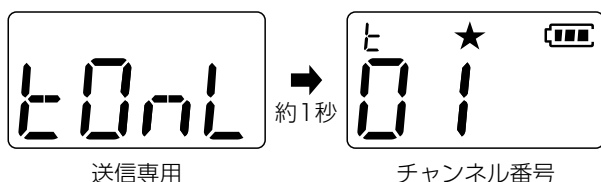
※チャンネルとグループ番号の選択方法は、中継交互通話(半複信)モードと同じです。(P.4-13)

◇送信専用モード

受信用に使用する半複信モードに設定された弊社製無線機と同じチャンネルやグループ番号で送信します。

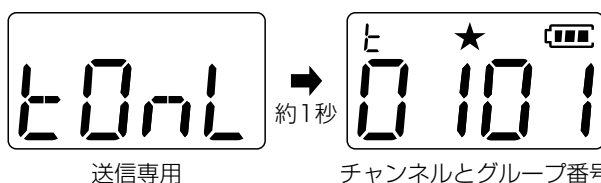
◎グループ番号を使用しない送信

送信専用モード(tOnL)、チャンネル(例：01)の順に表示されます。



◎グループ番号を使用する送信

送信専用モード(tOnL)、チャンネル(例：01)とグループ番号(例：01 01)の順に表示されます。



2 各通話モードの概要

ご使用の用途によって設定できる8種類の通話(通信)モードがあります。

- ◎ 2者同時通話(複信)モード ◎ 交互通話(単信)モード(P.2-2) ◎ 中継交互通話(半複信)モード(P.2-3)
- ◎ 中継装置モード(P.2-3) ◎ 3者同時通話モード(P.2-4) ◎ 4者同時通話モード(P.2-4)
- ◎ 6者同時通話モード(P.2-5) ◎ 送信専用モード(P.2-5)

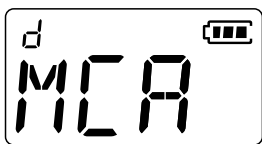
※各通話モードの設定は、「通話モードを変更するには」をご覧ください。(P.3-1)

■ 2者同時通話(複信)モード

同じモードの本製品と、電話のように、2人で双方向の同時通話ができます。

◇ チャンネル自動(MCA)モード

「MCA」を選択している無線機同士が通話できるモードです。チャンネル表示は、「MCA」と表示されます。



※「MCA」は、Ch01～Ch18の範囲で、空きチャンネルを探し出し、その空きチャンネルを自動的に選択して通話できる方式のことです。

通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

◎ 1対1(ペア)同時通話の場合

電話のように通話できます。

※呼び出すと、相手が自動的に送信状態(自動応答)になり、同時通話できます。

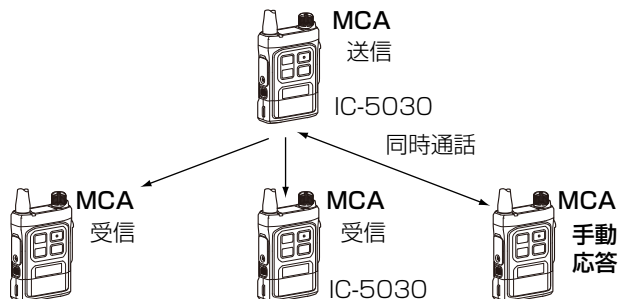


◎ 1対N(複数)同時通話の場合

グループに所属する相手が一斉に呼び出され、応答した人とだけ、電話のように通話できます。

※応答した人が通話を切ると、ほかの人が応答できます。

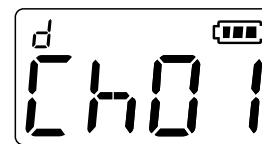
※同時通話中、同じグループのほかの人は、呼び出し(送信)をした局だけの音声聞えます。



※疑似3者通話(P.5-6)は、呼び出しをする無線機に設定すると、同じグループのほかの人が、同時通話中の両者の音声を聞けるようになります。

◇ チャンネル手動モード

チャンネル(Ch01～Ch27)を選択できるモードです。同じチャンネル(例：Ch01)の相手を呼び出せます。



※チャンネルを選択するのと同じ操作で、「MCA」を選択することもできます。

「MCA」を選択したときは、Ch01～Ch18の範囲で、空きチャンネルを探し出し、その空きチャンネルを自動的に選択して通話できます。

※初期設定では、Ch01～Ch18、MCAが選択できます。設定を変更すると、Ch19～Ch27も選択できます。

通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

◎ 1対1(ペア)同時通話の場合

電話のように通話できます。

※呼び出すと、相手が自動的に送信状態(自動応答)になり、同時通話できます。

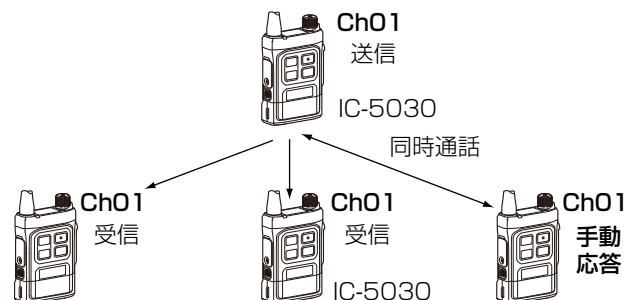


◎ 1対N(複数)同時通話の場合

グループに所属する相手が一斉に呼び出され、応答した人とだけ、電話のように通話できます。

※応答した人が通話を切ると、ほかの人が応答できます。

※同時通話中、同じグループのほかの人は、呼び出し(送信)をした局だけの音声聞えます。



※疑似3者通話(P.5-6)は、呼び出しをする無線機に設定すると、同じグループのほかの人が、同時通話中の両者の音声を聞けるようになります。

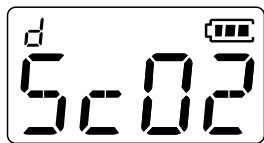
2 各通話モードの概要

■ 2者同時通話(複信)モード

◇ 個別番号選択モード

個別番号(Sc01～Sc99)を選択するモードです。

呼び出したい相手(例: Sc02)だけを個別に呼び出せます。



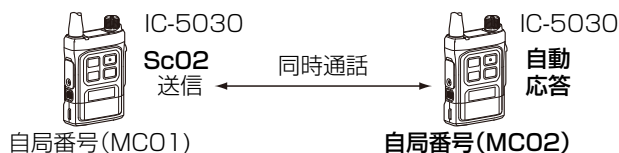
※個別番号とは、各無線機を識別するため、相手側に設定された自局番号のことです。

※チャンネル選択は、強制的にMCA方式になり、Ch01～Ch18の範囲で、自動的に空きチャンネルを探し出し、その空きチャンネルへ自動で移動して通話できます。

通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

◎ 1対1(ペア)同時通話の場合

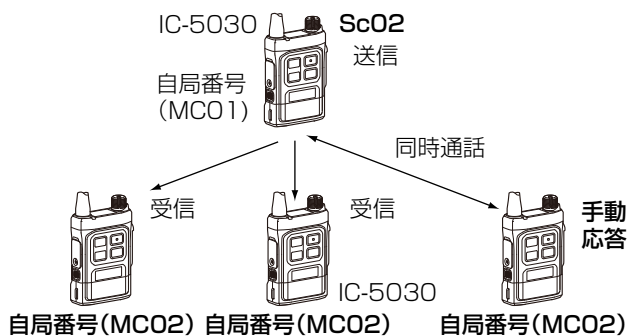
個別番号(例: Sc02)を選択して呼び出すと、相手(例: 自局番号 MC02)が自動的に送信状態(自動応答)になり、電話のように通話できます。



◎ 1対N(複数)同時通話の場合

選択した個別番号(例: Sc02)と同じ番号(例: 自局番号 MC02)の相手が一齐に呼び出され、応答した人とだけ、電話のように通話できます。

※応答した人が通話を切ると、ほかの人が応答できます。



※同時通話中、同じ番号のほかの人は、呼び出し(送信)をした局だけの音声聞こえます。

※各無線機に異なる自局番号を設定する場合は、グループ呼び出し、全体呼び出しを使用すると、一齐に呼び出しできます。グループ呼び出し、全体呼び出しをご使用になるには、設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

※疑似3者通話(P.5-6)は、呼び出しをする無線機に設定すると、同じ自局番号のほかの人が、同時通話中の両者の音声を聞けるようになります。

■ 交互通話(単信)モード

チャンネルが同じ相手と、「話す」、「聞く」が交互にできます。

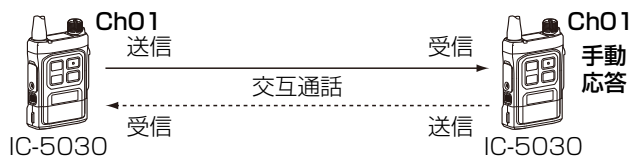
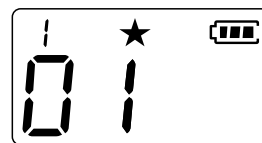
チャンネルは、Ch01～Ch20が使用できます。

※グルーブトーン機能(CTCSS)により、グループ番号(01～38)と併せて選択すると、同じグループの相手とだけ通話できます。

グループ番号が設定できます。
(通話相手と同じ番号に設定してください。)

◎ グループ番号を使用しない場合

同じチャンネル(例: Ch01)に設定した相手を一齐に呼び出します。



※グループ番号を使用している相手の通話は聞こえます。

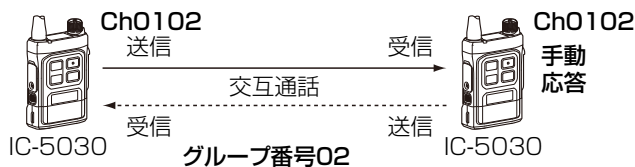
◎ グループ番号を使用する場合

同じチャンネル(例: Ch01)とグループ番号(例: 02)に設定された相手だけを呼び出します。



(表示例: 0102)

※グループ番号(01～38)は、各無線機を識別するため、呼び出す相手と同じ番号(例: 02)に設定します。



※相手がグループ番号(01～38)を使用していない、または相手と異なるグループ番号の通話は聞こえません。

2 各通話モードの概要

■中継交互通話(半複信)モード

通話方法は、交互通話(単信)モードと同じですが、中継装置モードに設定された本製品など★を中継させることで、電波が直接届かない場所にいる相手と、同じチャンネルで「話す」、「聞く」が交互にできます。

チャンネルは、Ch01～Ch27が使用できます。

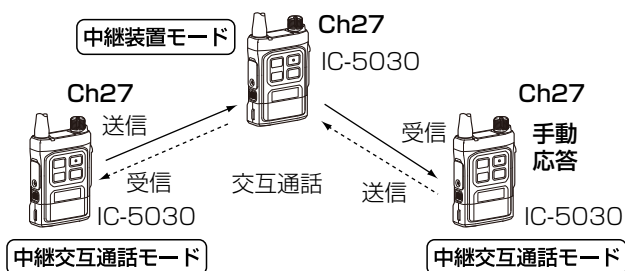
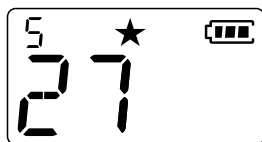
※ グループトーン機能(CTCSS)により、グループ番号(01～38)と併せて選択すると、同じグループの相手とだけ通話できます。

★本製品以外の機器では、IC-MS5010(中継装置モード)、およびIC-RP4130GW(中継CH)を中継装置として使用できます。(2026年9月現在)

グループ番号が設定できます。
(通話相手と同じ番号に設定にしてください。)

◎ グループ番号を使用しない場合

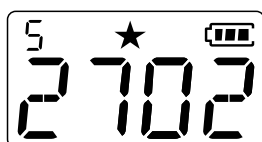
中継装置モードに設定されたチャンネルと同じチャンネル(例：Ch27)に設定された相手を一斉に呼び出します。



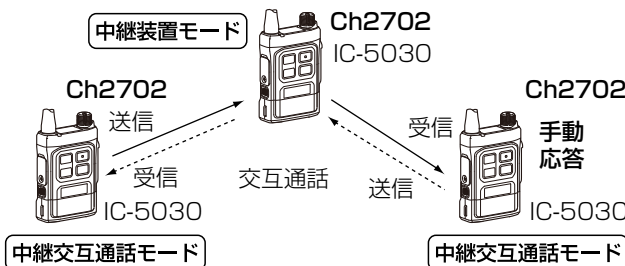
※グループ番号を使用している相手の通話は聞こえます。

◎ グループ番号を使用する場合

中継装置モードに設定されたチャンネルと同じチャンネル(例：Ch27)とグループ番号(例：02)に設定された相手だけを呼び出します。(表示例：2702)



※グループ番号(01～38)は、各無線機を識別するため、呼び出す相手と同じ番号(例：02)に設定します。



※相手がグループ番号(01～38)を使用していない、または相手と異なるグループ番号の通話は聞こえません。

■中継装置モード

本製品(IC-5030)を中継装置として使用するモードです。チャンネルは、Ch01～Ch27が使用できます。

※中継装置モードでは、相手の通話は聞けません。

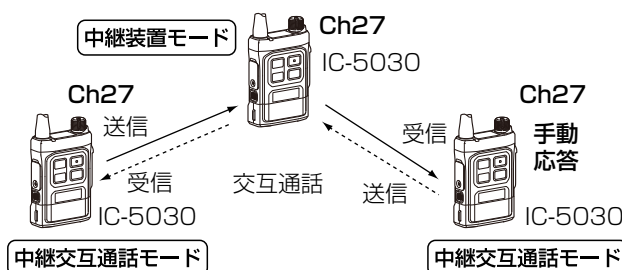
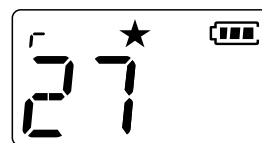
※中継装置モードに設定した本製品を複数台連結して使用することはできません。

※同じグループの通話だけを中継する場合は、グループ番号(CTCSS：01～38)と併せて選択してください。

グループ番号が設定できます。
(中継交互通話モードの本製品と同じ番号に設定します。)

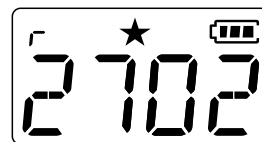
◎ グループ番号を使用しない場合

中継交互通話モードに設定されたチャンネルと同じチャンネル(例：Ch27)に設定された相手の通話の中継します。

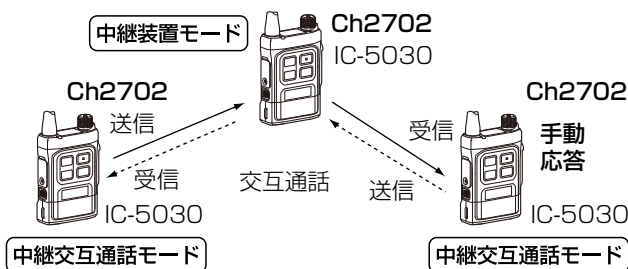


◎ グループ番号を使用する場合

中継交互通話モードに設定されたチャンネルと同じチャンネル(例：Ch27)とグループ番号(例：02)に設定された相手だけを呼び出します。(表示例：2702)



※グループ番号(01～38)は、各無線機を識別するため、中継交互通話モードの本製品と同じ番号(例：02)に設定します。



※相手がグループ番号(01～38)を使用していない、または相手と異なるグループ番号の通話は中継しません。

2 各通話モードの概要

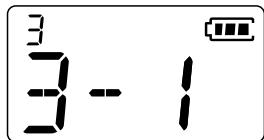
■ 3者同時通話モード

3人が電話の感覚で、双方向の同時通話ができます。
チャンネルは、Ch3-1～Ch3-9が使用できます。

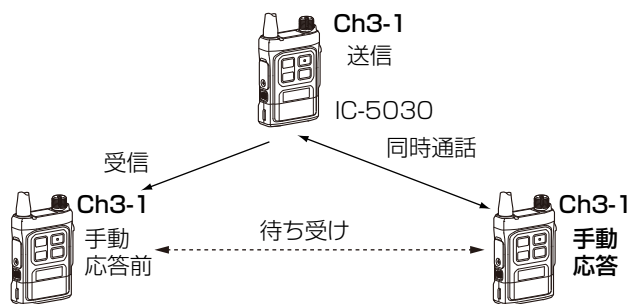
通話形態は、下記のどちらかに設定できます。
(通話相手と同じ通話形態に設定してください。)

◎ 親機(A)、子機(b、C)を指定しない場合

同じチャンネル(A、b、Cの指定なし)で応答した人とだけ、電話のように通話できます。

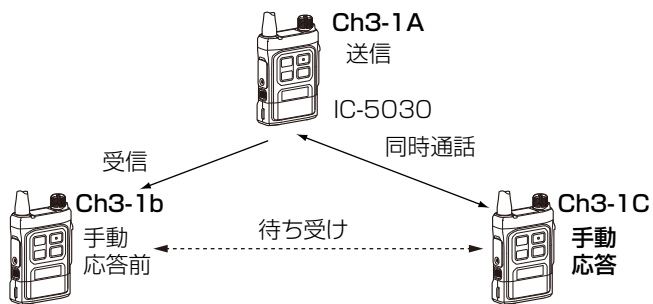
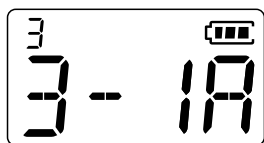


※親機(A)、子機(b、C)を選択しないときは、同じチャンネルであれば、自動で親子関係が決定されます。



◎ 親機(A)、子機(b、C)を指定する場合

親機(A)、子機(b、C)と併せて選択すると、親機(A)の電波が受信できる状態のときだけ、同じチャンネルの子機(b、C)同士や親機(A)を交えて電話のように通話できます。



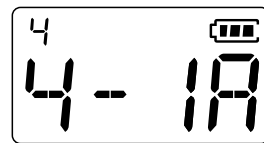
ご参考: 4台以上が3者同時通話モードで使ったときは

4台以上の本製品が同じチャンネル(A、b、Cは非表示)で電源を入れた場合は、すべてが待ち受け状態になり、早く[通話]を押した順に、3台目まで同時通話ができます。
残りの本製品は、3者同時通話の会話を聞けます。
A、b、Cを指定しないときは、自動で本製品の親子関係が決定されるため、3者同時通話中の1台が待ち受け状態に戻しても、残りの本製品が[通話]を押すことで、3者同時通話できます。
※3者同時通話中に待ち受けしているとき、だれかが通話をやめると、状態表示ランプが緑色に点灯から点滅に切り替わりますので、[通話]を押すことで、3者同時通話に参加できます。

■ 4者同時通話モード

4人が電話の感覚で、双方向の同時通話ができます。

チャンネルは、Ch4-1(A、b、C、d)～Ch4-9(A、b、C、d)が使用できます。



※各無線機の電源を入れたあと、同じチャンネルでA、b、C、dが重複しないように選択してください。

1台でも重複していると、4者同時通話できません。

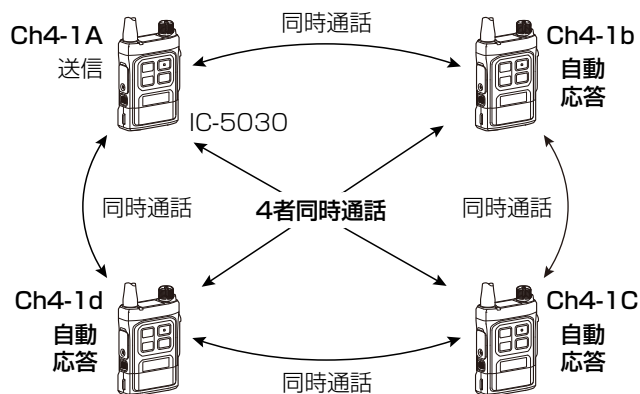
※通話中は、自身と相手の3者の音声と同時に聞こえます。

※通話には指定(A、b、C、d)が必要ですが、4者が自動応答した状態で最初に呼び出しをした本製品を使用する人が親になります。

親以外の3者の中でだれかが通話を切断したときは、一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約4秒後に最初に呼び出しをした局(親機)が自動で再接続して4者同時通話を開始します。

(P.5-6)



※4者同時通話モードでは、ほかの通話モードとは異なり、待ち受け動作(状態表示ランプが緑色に点灯)はありません。

ご参考: 各無線機(A、b、C、d)での受信音量について

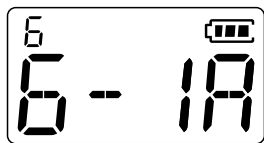
各無線機が1回ずつアンサーバック(Aはd、bはA、Cはb、dはCが通話圏内かどうかを確認する)信号を受信すると、4者が同時に自動応答して同時通話できます。
通話中は、通話相手に関係なく、「端末A→端末b→端末C→端末d→端末A→…」の順番で接続されるため、自端末からはなれている端末の音量が小さくなります。
たとえば、端末Aが受信する音声の大きさは、「端末D>端末C>端末B」となります。

2 各通話モードの概要

■6者同時通話モード

6人が電話の感覚で、双方向の同時通話ができます。

チャンネルは、Ch6-1(A、b、C、d、E、F)～Ch6-4(A、b、C、d、E、F)が使用できます。



※各無線機の電源を入れたあと、同じチャンネルでA、b、C、d、E、Fが重複しないように選択してください。

1台でも重複していると、6者同時通話できません。

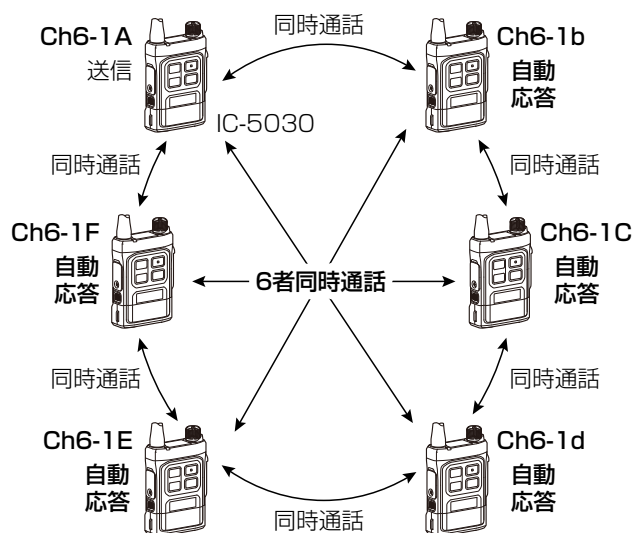
※通話中は、自身と相手の5者の音声が同時に聞こえます。

※通話には指定(A、b、C、d、E、F)が必要ですが、6者が自動応答した状態で最初に呼び出しをした本製品を使用する人が親になります。

親以外の5者の中でだれかが通話を切断したときは、一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約4秒後に最初に呼び出しをした局(親機)が自動で再接続して6者同時通話を開始します。

(P.5-6)



※6者同時通話モードでは、ほかの通話モードと異なり、待ち受け動作(状態表示ランプが緑色に点灯)はありません。

ご参考：各無線機(A、b、C、d、E、F)での受信音量について
各無線機が1回ずつアンサーバック(AはF、bはA、Cはb、dはC、Eはd、FはEが通話圏内かどうかを確認する)信号を受信すると、6者が同時に自動応答して同時通話できます。通話中は、通話相手に関係なく、「端末A→端末B→端末C→端末D→端末E→端末F→端末A→…」の順番で接続されるため、自端末からはなれている端末の音量が小さくなります。たとえば、端末Aが受信する音声の大きさは、「端末F>端末E>端末D>端末C>端末B」となります。

■送信専用モード

館内の案内など、音声を一方的に送信できます。

チャンネルは、Ch01～Ch27が使用できます。

※送信専用モードでは、受信できません。

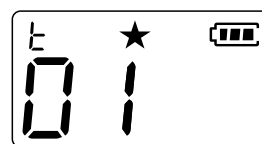
受信機には、半受信モードに設定された弊社製無線機(IC-4350/IC-4400/IC-4120など)をご用意ください。
※グルーブトーン機能(CTCSS)により、グループ番号(01～38)と併せて選択すると、同じグループ番号の受信機で音声がかかります。

グループ番号が設定できます。

(受信機と同じ番号に設定にしてください。)

◎ グループ番号を使用しない場合

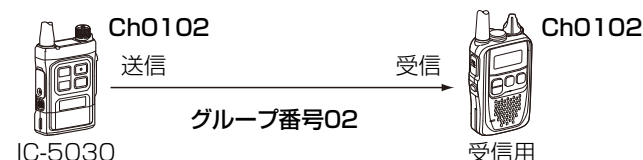
同じチャンネル(例：Ch01)に設定された受信機に音声を送信します。



◎ グループ番号を使用する場合

同じチャンネル(例：Ch01)とグループ番号(例：02)に設定された受信機に音声を送信します。(表示例：0102)

※グループ番号(01～38)は、各無線機を識別するため、受信機と同じ番号(例：02)に設定します。



3 通話モードを変更するには

通話をする前に、本製品を使用する通話(通信)モードに設定します。

◎ 2者同時通話(複信)モード

チャンネル自動(MCA)モードで使用する場合
チャンネル手動モードで使用する場合(P.3-3)
個別番号選択モードで使用する場合(P.3-5)

◎ 交互通話(単信)モードで使用する(P.3-7)

◎ 中継交互通話(半複信)モードで使用する(P.3-8)

◎ 中継装置モードで使用する(P.3-9)

◎ 3者同時通話モードで使用する(P.3-10)

◎ 4者同時通話モードで使用する(P.3-12)

◎ 6者同時通話モードで使用する(P.3-14)

◎ 送信専用モードで使用する(P.3-16)

■ 2者同時通話(複信)モード

◇ チャンネル自動(MCA)モードで使用する場合

1. 電源を切る

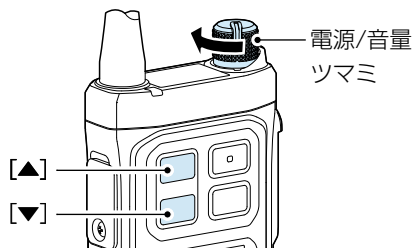
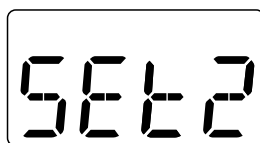
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2. 詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

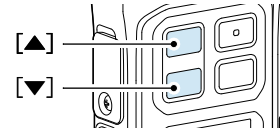
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3. 設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。



※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「dU」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	Md dU	P.6-4
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択	Cb SW	P.6-4
複信時の個別呼び出し(lc) ※「oF」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	lc oF	P.6-5
自局グループ番号(Gr) ※通話相手に合わせて、「00」～「99」を選択	Gr 01	P.6-5
疑似3者通話(P3) ※使用状況に合わせて、「oF」か「on」を選択	P3 oF	P.6-5
複信チャンネル(Ch) ※「M」を選択	Ch M	P.6-5
1対N(複数)同時通話(1n) ※設定が異なる相手とは通話できません。 ※疑似3者通話を「on」に設定したときは、「n」を選択	1n 1	P.6-5
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択	bt oF	P.6-9

(次のページへつづく)

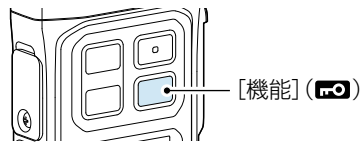
3 通話モードを変更するには

■ 2者同時通話(複信)モード

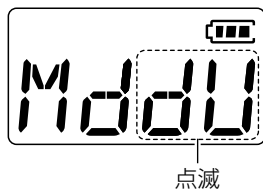
◇チャンネル自動(MCA)モードで使用する場合

4.設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

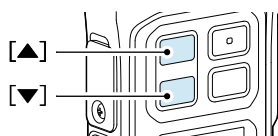


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5.設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

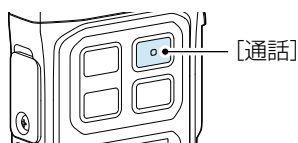


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6.設定を終了する

[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

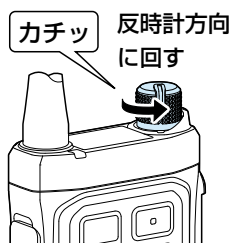
3 通話モードを変更するには

■ 2者同時通話(複信)モード

◇ チャンネル手動モードで使用する場合

1.電源を切る

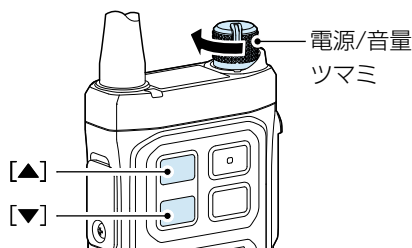
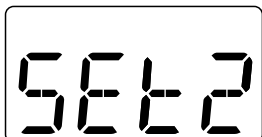
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2.詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

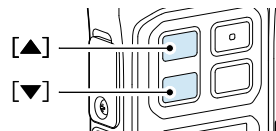
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



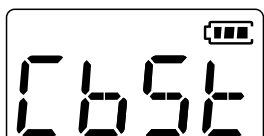
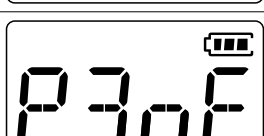
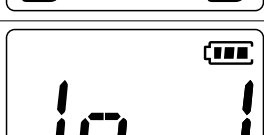
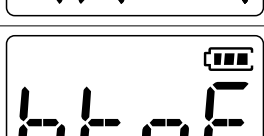
3.設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。



※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「dU」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)		P.6-4
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択		P.6-4
複信時の個別呼び出し(lc) ※「oF」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)		P.6-5
自局グループ番号(Gr) ※通話相手に合わせて、「00」～「99」を選択		P.6-5
疑似3者通話(P3) ※使用状況に合わせて、「oF」か「on」を選択		P.6-5
複信チャンネル(Ch) ※使用状況に合わせて、「18」か「27」を選択		P.6-5
1対N(複数)同時通話(1n) ※設定が異なる相手とは通話できません。 ※疑似3者通話を「on」に設定したときは、「n」を選択		P.6-5
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択		P.6-9

(次のページへつづく)

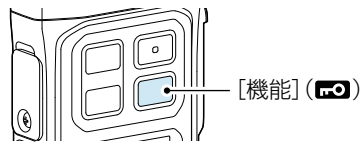
3 通話モードを変更するには

■ 2者同時通話(複信)モード

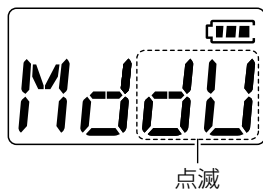
◇チャンネル手動モードで使用する場合

4.設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

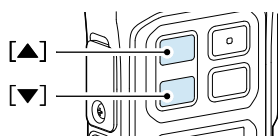


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5.設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

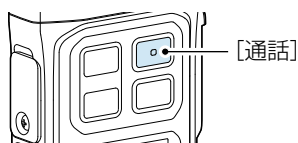


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6.設定を終了する

[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

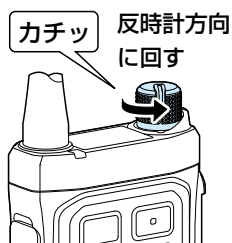
3 通話モードを変更するには

■ 2者同時通話(複信)モード

◇ 個別番号選択モードで使用する場合

1. 電源を切る

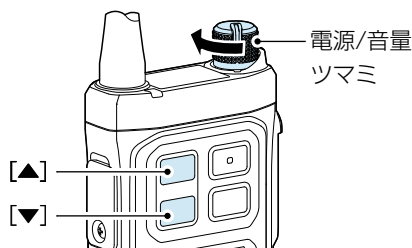
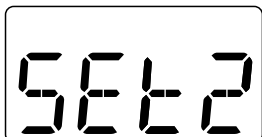
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2. 詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

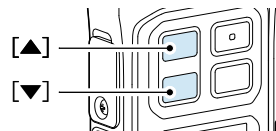
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3. 設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。



※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「dU」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	Md dU	P.6-4
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択	Cb SW	P.6-4
複信時の個別呼び出し(lc) ※「on」★を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	lc on	P.6-5
自局番号(ld) ※使用状況に合わせて、「01」～「99」を選択	ld 01	P.6-5
自局グループ番号(Gr) ※「00」～「99」を選択 (設定が異なる相手とは通話できません。)	Gr 01	P.6-5
疑似3者通話(P3) ※使用状況に合わせて、「oF」か「on」を選択	P3 oF	P.6-5
1対N(複数)同時通話(1n) ※設定が異なる相手とは通話できません。 ※疑似3者通話を「on」に設定したときは、「n」を選択	1n 1	P.6-5
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択	bt oF	P.6-9

★複信時の個別呼び出しが「on」に設定されているときは、複信チャンネル(Ch)の設定に関わらず「MCA」チャンネルで動作します。

(次のページへつづく)

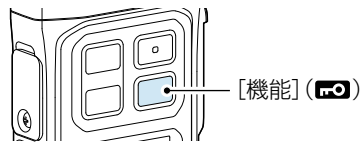
3 通話モードを変更するには

■ 2者同時通話(複信)モード

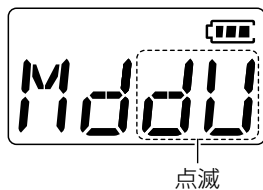
◇ 個別番号選択モードで使用する場合

4. 設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

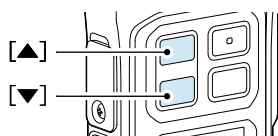


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5. 設定値を変更する

[▲]/[▼] を押して、設定値を選択します。

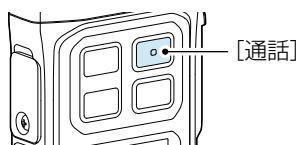


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6. 設定を終了する

[通話] を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■ 交互通話(単信)モードで使用する

1. 電源を切る

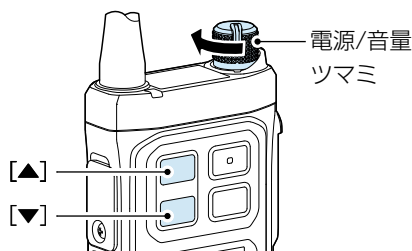
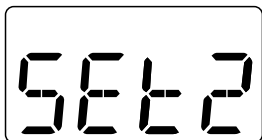
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2. 詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

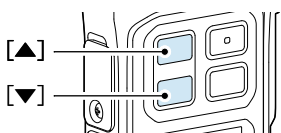
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



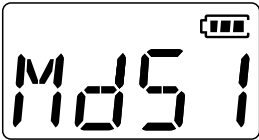
3. 設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

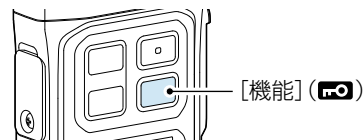


※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

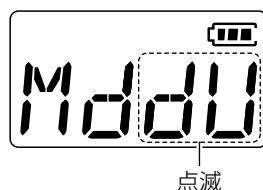
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「SI」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)		P.6-4
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択		P.6-4
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択		P.6-9

4. 設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

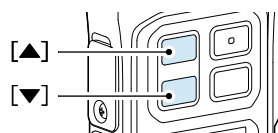


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5. 設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

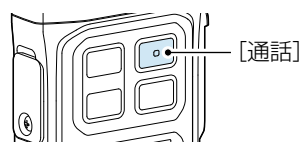


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6. 設定を終了する

[通話]を押します。



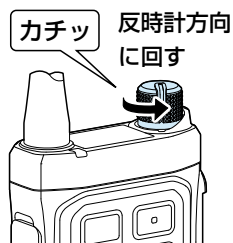
- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■中継交互通話(半複信)モードで使用する

1.電源を切る

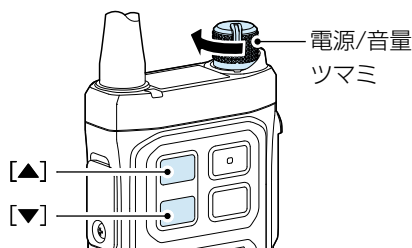
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2.詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

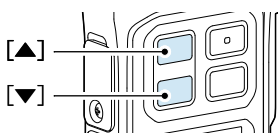
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3.設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

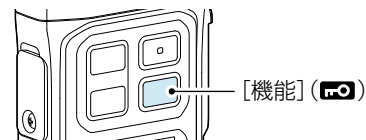


※下表以外で使用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

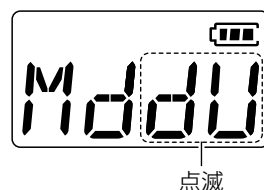
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「SE」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)		P.6-4
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択		P.6-4
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択		P.6-9

4.設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

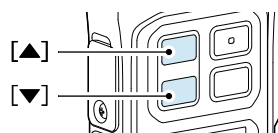


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5.設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

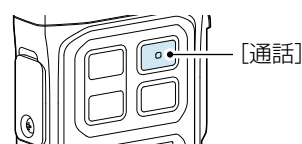


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6.設定を終了する

[通話]を押します。



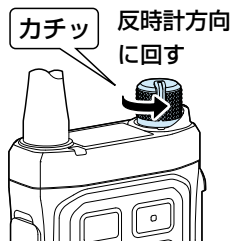
- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■中継装置モードで使用する

1.電源を切る

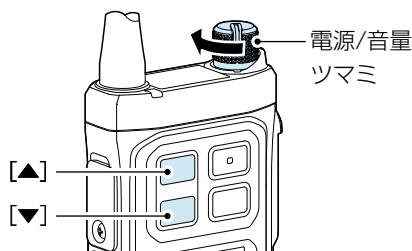
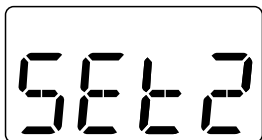
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2.詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

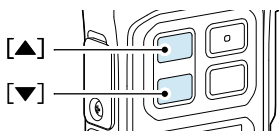
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3.設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

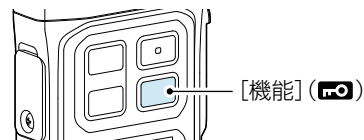


※下表以外で使用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

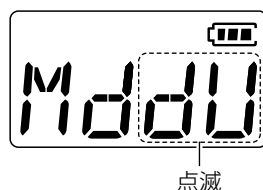
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「RP」を選択		P.6-4

4.設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

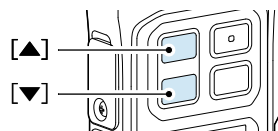


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5.設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

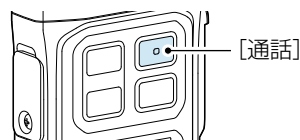


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6.設定を終了する

[通話]を押します。



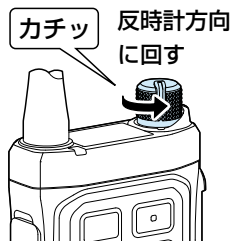
- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■ 3者同時通話モードで使用する

1. 電源を切る

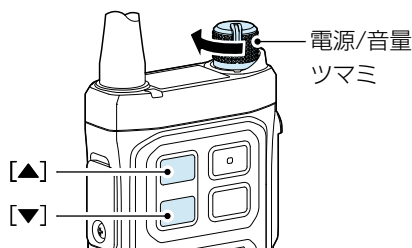
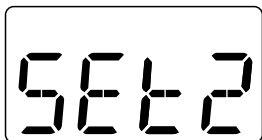
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2. 詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

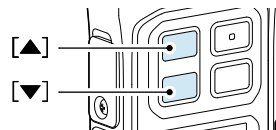
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3. 設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

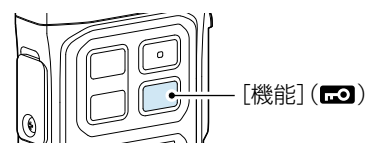


※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

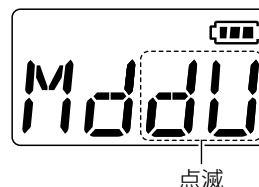
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「3」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	Md 3	P.6-4
自局グループ番号(Gr) ※「00」～「99」を選択 (設定が異なる相手とは通話できません。)	Gr 01	P.6-5
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択	Cb SW	P.6-4
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択	bt of	P.6-9

4. 設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。



- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)

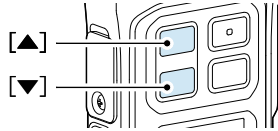


3 通話モードを変更するには

■ 3者同時通話モードで使用する

5. 設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

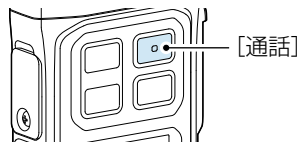


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6. 設定を終了する

[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■ 4者同時通話モードで使用する

1. 電源を切る

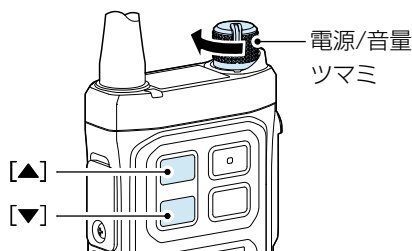
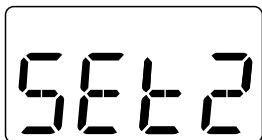
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2. 詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

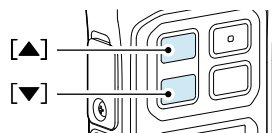
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3. 設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

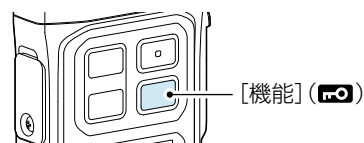


※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

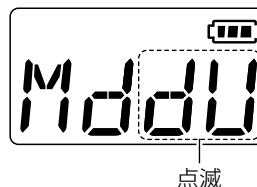
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「4」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	Md 4	P.6-4
自局グループ番号(Gr) ※「00」～「99」を選択 (設定が異なる相手とは通話できません。)	Gr-01	P.6-5
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択	CbSE	P.6-4
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択	bt of	P.6-9

4. 設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。



- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)

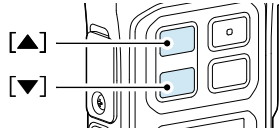


3 通話モードを変更するには

■ 4者同時通話モードで使用する

5. 設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

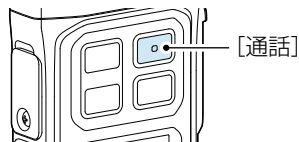


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6. 設定を終了する

[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■ 6者同時通話モードで使用する

1. 電源を切る

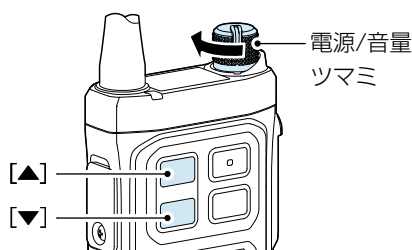
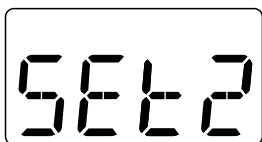
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2. 詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

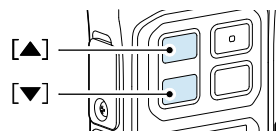
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3. 設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

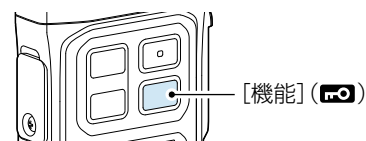


※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

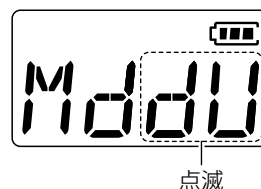
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「6」を選択(設定が異なる相手とは通話できません。)	Md 6	P.6-4
自局グループ番号(Gr) ※「00」～「99」を選択 (設定が異なる相手とは通話できません。)	Gr 01	P.6-5
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択	Cb SW	P.6-4
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択	bt of	P.6-9

4. 設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。



- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)

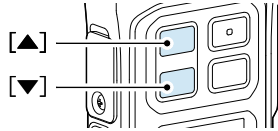


3 通話モードを変更するには

■ 6者同時通話モードで使用する

5. 設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

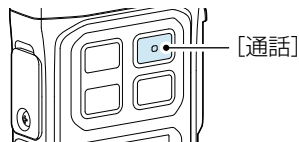


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6. 設定を終了する

[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

3 通話モードを変更するには

■送信専用モードで使用する

1.電源を切る

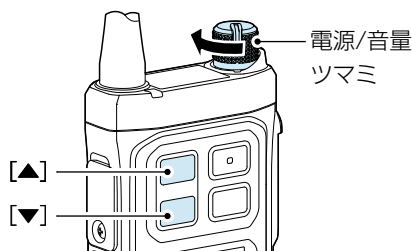
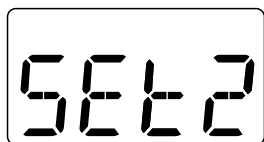
電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。



2.詳細設定モードに移行する

[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

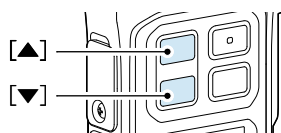
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約 1 秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



3.設定項目を選択する

[▲]/[▼]を押して、設定を変更する項目を選択します。

- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。

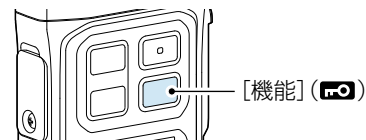


※下表以外で利用できる項目は、「各通話モードに対応する設定項目一覧」(P.6-1)でご確認ください。

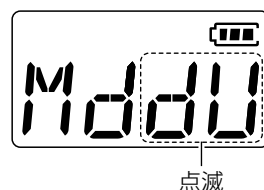
設定項目	設定値	詳細
通話モード(Md) ※「t0」を選択(半受信モードの無線機で受信できます。)		P.6-4
接続ケーブル(Cb) ※内蔵のマイクスイッチの操作を有効にするときは、「SW」を選択		P.6-4
Bluetooth機能(bt) ※ペアリング操作を許可するときは、「on」を選択		P.6-9

4.設定値を変更できる状態にする

[機能] (機能) を短く押します。

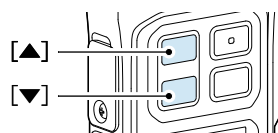


- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。
(例：通話モード)



5.設定値を変更する

[▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。

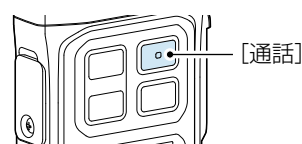


※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順3～5を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

6.設定を終了する

[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

4 通話のしかた

ご注意

本章では、あらかじめ通話(通信)モードが設定されている前提で説明しています。
通話モードを設定することで、同じ通話モードの相手と通話ができます。(P.3-1)

各通話(通信)モードでの通話のしかたです。

◎ 2者同時通話(複信)モード

- チャンネル自動(MCA)モードで通話する場合
- チャンネル手動モードで通話する場合(P.4-3)
- 個別番号選択モードで通話する場合(P.4-5)

◎ 交互通話(単信)モードで通話する(P.4-9)

◎ 中継交互通話(半複信)モードで通話する(P.4-12)

◎ 3者同時通話モードで通話する(P.4-15)

◎ 4者同時通話モードで通話する(P.4-20)

◎ 6者同時通話モードで通話する(P.4-22)

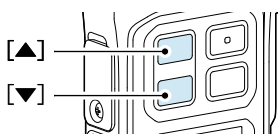
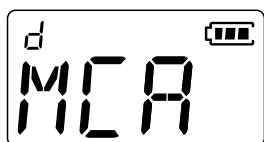
■ 2者同時通話(複信)モード

◇ チャンネル自動(MCA)モードで通話する場合

1. チャンネルをMCAにする

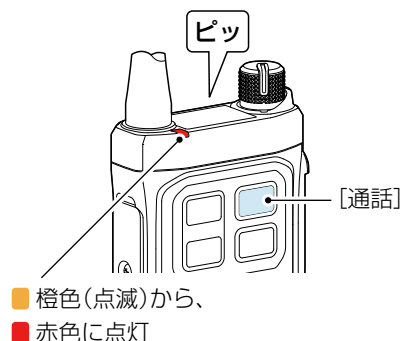
「MCA」が表示されていないときは、[▲]/[▼]を押して、「MCA」表示にします。

※グループ番号(例: Gr01)、または全体呼び出し(例: ALL)が表示されている場合は、[機能] (📞) を短く押して、チャンネル表示に切り替えてください。



2. 相手を呼び出す

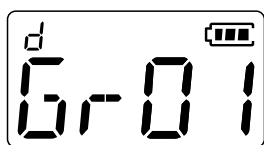
- [通話] を短く押します。
 - ・「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
- 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって呼びかけます。
 - ※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「ブッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。



下記の操作は、あらかじめお買い上げの販売店で、呼び出し先グループ番号が設定されている場合に動作します。

【グループ番号の選択】

◎ [機能] (📞) を短く押して、グループ番号(表示例: Gr01)が表示される場合は、通話相手のグループ番号も選択してください。



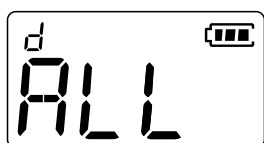
[▲]/[▼]で選択できます。

※選択したグループ番号と異なる自局グループ番号(P.6-5)が設定された相手は、呼び出しできません。

◎ [機能] (📞) を短く押して、グループ番号が表示されない場合は、「MCA」表示の状態、同じ自局グループ番号(P.6-5)に設定された相手だけを呼び出しできます。

【全体呼び出しについて】

[機能] (📞) を短く押して、「ALL」が選択できる場合、グループ番号に関係なく、すべての相手を呼び出しできます。



4 通話のしかた

■ 2者同時通話(複信)モード

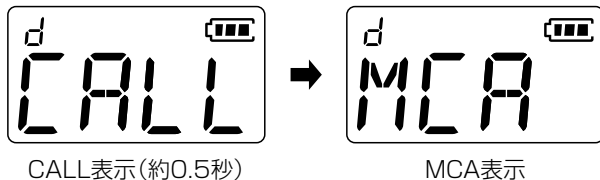
◇チャンネル自動(MCA)モードで通話する場合

3.呼び出しに応答する

◎ 1対1(ペア)同時通話の場合

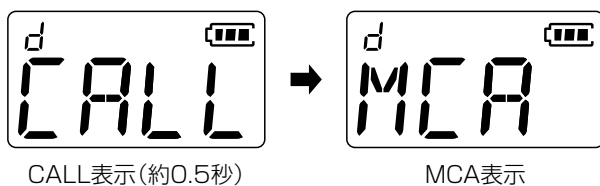
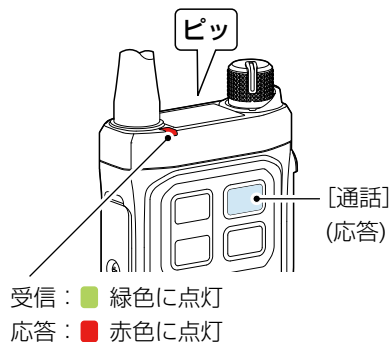
呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクに向かって、話しかけます。

※全体呼び出し(表示:ALL)に応答するときは、状態表示ランプが緑色に点灯しますので、[通話]を押します。



◎ 1対N(複数)同時通話の場合

1. 呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
 - ・状態表示ランプは、緑色に点灯します。
2. 応答するときは、[通話]を短く押します。
 - ・「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
3. マイクに向かって、話しかけます。

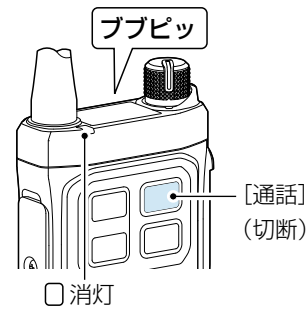


4.通話を切断する

◎ 呼び出した局が[通話]を押したとき

状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。

※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



◎ 応答した局が[通話]を押したとき

1対1(ペア)同時通話の場合

一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約2秒後に呼び出した局が自動で再接続を開始します。(P.5-6)

※応答した局は、自動的に送信状態(自動応答)に戻ります。

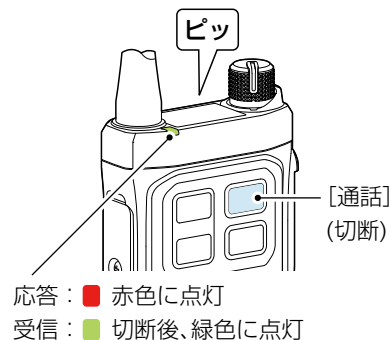


1対N(複数)同時通話の場合

通話は切れません。

※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻ります。

※ほかの局は、呼び出した局が通話を切断するまで、何度でも応答できます。



4 通話のしかた

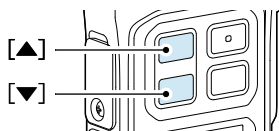
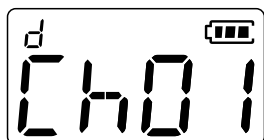
■ 2者同時通話(複信)モード

◇ チャンネル手動モードで通話する場合

1. チャンネル番号を選択する

[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じチャンネル番号(表示例: Ch01)を選択します。

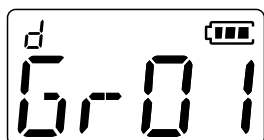
※グループ番号(例: Gr01)、または全体呼び出し(例: ALL)が表示されている場合は、[機能] (機能ボタン)を短く押して、チャンネル表示に切り替えてください。



下記の操作は、あらかじめお買い上げの販売店で、呼び出し先グループ番号が設定されている場合に動作します。

【グループ番号の選択】

◎ [機能] (機能ボタン)を短く押して、グループ番号(表示例: Gr01)が表示される場合は、通話相手のグループ番号も選択してください。



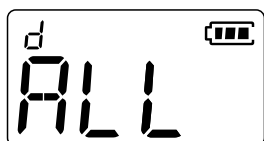
[▲]/[▼]で選択できます。

※選択したグループ番号と異なる自局グループ番号(P.6-5)が設定された相手は、呼び出しできません。

◎ [機能] (機能ボタン)を短く押して、グループ番号が表示されない場合は、「MCA」表示の状態で、同じ自局グループ番号(P.6-5)に設定された相手だけを呼び出しできます。

【全体呼び出しについて】

[機能] (機能ボタン)を短く押して、「ALL」が選択できる場合、グループ番号に関係なく、すべての相手を呼び出しできます。



2. 相手を呼び出す

1. [通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
2. 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって呼びかけます。
 - ※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「ブツ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。



4 通話のしかた

■ 2者同時通話(複信)モード

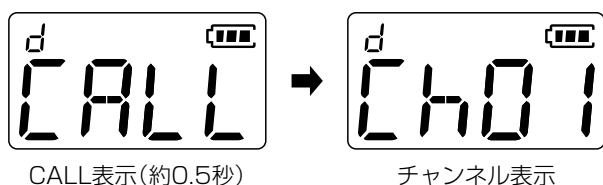
◇チャンネル手動モードで通話する場合

3.呼び出しに応答する

◎ 1対1(ペア)同時通話の場合

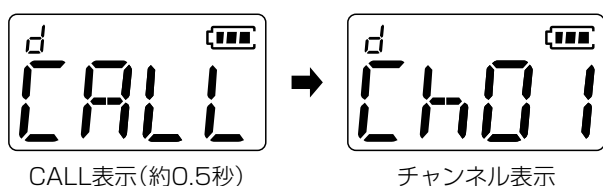
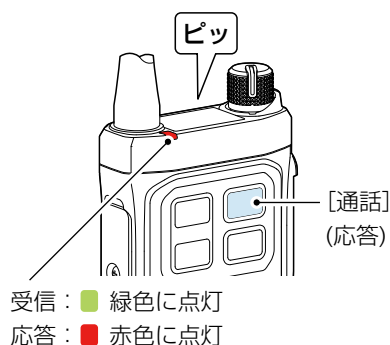
呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクに向かって、話しかけます。

※全体呼び出し(表示:ALL)に応答するときは、状態表示ランプが緑色に点灯しますので、[通話]を押します。



◎ 1対N(複数)同時通話の場合

1. 呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
 - ・状態表示ランプは、緑色に点灯します。
2. 応答するときは、[通話]を短く押します。
 - ・「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
3. マイクに向かって、話しかけます。

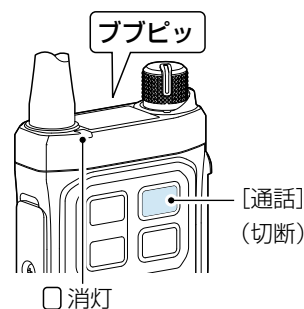


4.通話を切断する

◎ 呼び出した局が[通話]を押したとき

状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。

※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



◎ 応答した局が[通話]を押したとき

1対1(ペア)同時通話の場合

一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約2秒後に呼び出した局が自動で再接続を開始します。(P.5-6)

※応答した局は、自動的に送信状態(自動応答)に戻ります。

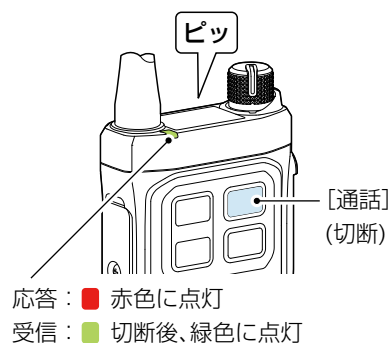


1対N(複数)同時通話の場合

通話は切れません。

※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻ります。

※ほかの局は、呼び出した局が通話を切断するまで、何度でも応答できます。



4 通話のしかた

■ 2者同時通話(複信)モード

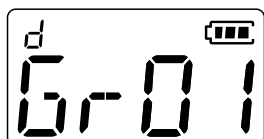
◇ 個別番号選択モードで通話する場合

1. 相手局番号を合わせる

◎ 個別呼び出しする場合

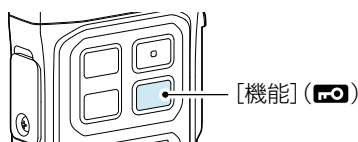
お買い上げ時の設定によって、①と②の操作が不要な場合は、③から操作します。

- ① [機能] (機能) を短く押して、グループ番号(表示例: Gr01)表示に切り替えます。

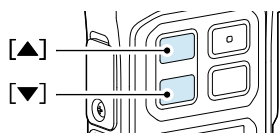
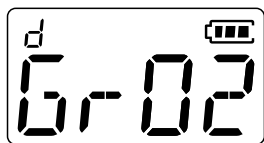


※押すごとに、個別番号表示(表示例: Sc01)とグループ表示(表示例: Gr01)が切り替わります。

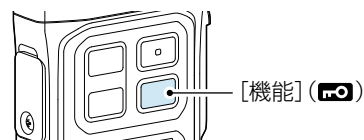
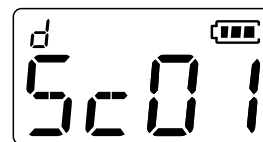
※全体呼び出し(P.4-3)が設定されている場合は、押すごとに、個別番号表示(例: Sc01)→グループ表示(例: Gr01)→全体表示(例: ALL)の順に切り替わります。



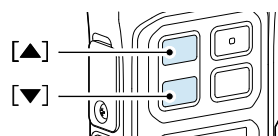
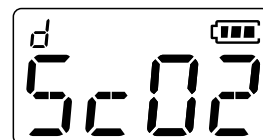
- ② [▲]/[▼]を押して、個別呼び出しをする通話相手のグループ番号(表示例: Gr02)を選択します。



- ③ [機能] (機能) を短く押して、個別番号(表示例: Sc01)表示に切り替えます。



- ④ [▲]/[▼]を押して、通話相手の個別番号(表示例: Sc02)を選択します。



【Sc0-～Sc9-、Sc-0～Sc-9の個別番号について】

先頭共通番号や末尾共通番号だけを一齐に呼び出しできます。

個別番号の一齐呼び出しをご使用になるには、設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

設定された無線機では、下記のような一齐呼び出しができません。

「-」部分は、0～9のすべての番号を意味します。

◎ 「Sc0-」: 01～09の9局

◎ 「Sc9-」: 90、91、92、93、94、95、96、97、98、99の10局

◎ 「Sc-0」: 10、20、30、40、50、60、70、80、90の9局

◎ 「Sc-9」: 09、19、29、39、49、59、69、79、89、99の10局

4 通話のしかた

■ 2者同時通話(複信)モード

◇ 個別番号選択モードで通話する場合

1. 相手局番号を合わせる

◎ 全体呼び出しをする場合

全体呼び出しをご使用になるには、設定が必要です。
お買い上げの販売店にご依頼ください。

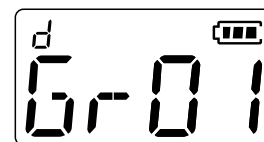
グループ番号や個別番号に関係なく、すべての相手を一斉
に呼び出しできます。

[機能] (F0) を短く押して、全体
表示(例: ALL)に切り替えます。



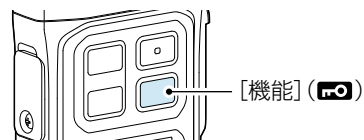
◎ グループ呼び出しする場合

- ① [機能] (F0) を短く押して、グ
ループ番号(表示例: Gr01)
表示に切り替えます。

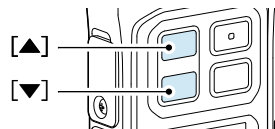
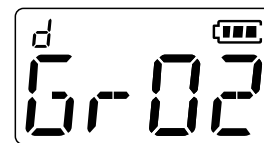


※押すごとに、個別番号表示(表示例: Sc01)とグループ表示
(表示例: Gr01)が切り替わります。

※全体呼び出し(P.4-3)が設定されている場合は、押すごと
に、個別番号表示(例: Sc01)→グループ表示(例: Gr01)
→全体表示(例: ALL)の順に切り替わります。



- ② [▲]/[▼] を押して、個別呼
び出しをする通話相手のグ
ループ番号(表示例: Gr02)
を選択します。



※自局グループ番号と異なるグループ番号の選択には、設定が
必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

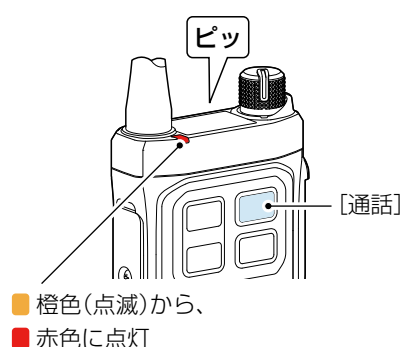
4 通話のしかた

■ 2者同時通話(複信)モード

◇ 個別番号選択モードで通話する場合

2. 相手を呼び出す

1. [通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
2. 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって呼びかけます。
 - ※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「プッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。

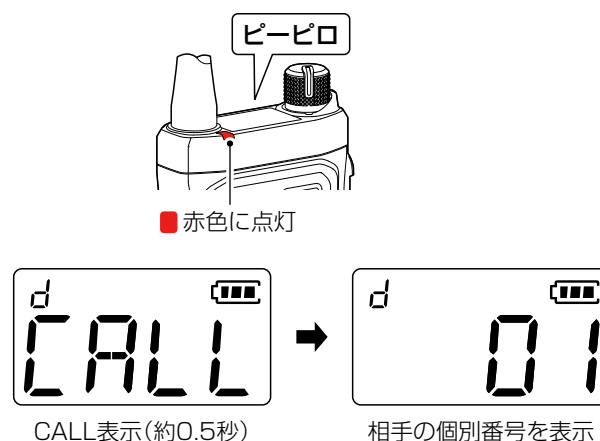


3. 呼び出しに応答する

◎ 1対1(ペア)同時通話の場合

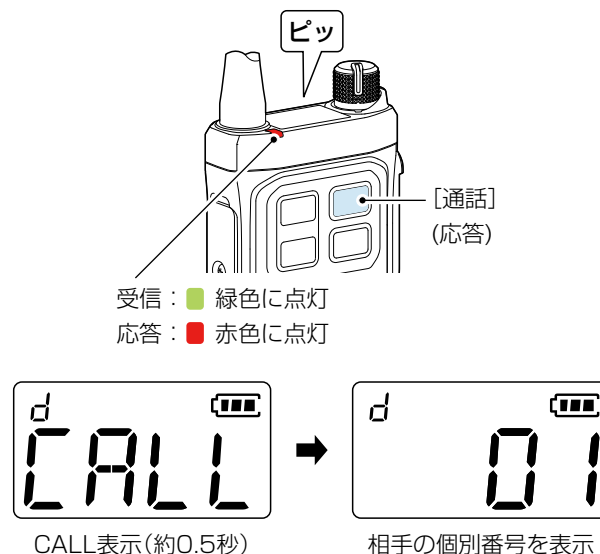
個別呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクに向かって、話しかけます。

※グループ呼び出し(表示: Gr)、全体呼び出し(表示: ALL)に応答するときは、状態表示ランプが緑色に点灯しますので、[通話]を押します。



◎ 1対N(複数)同時通話の場合

1. 呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
 - 状態表示ランプは、緑色に点灯します。
2. 応答するときは、[通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
3. マイクに向かって、話しかけます。



4 通話のしかた

■ 2者同時通話(複信)モード

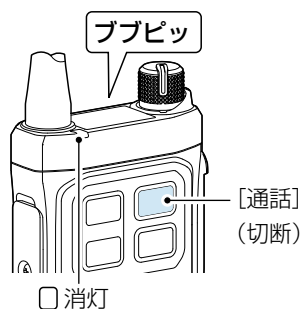
◇ 個別番号選択モードで通話する場合

4.通話を切断する

◎ 呼び出した局が[通話]を押したとき

状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。

※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



◎ 応答した局が[通話]を押したとき

1対1(ペア)同時通話の場合

一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約2秒後に呼び出した局が自動で再接続を開始します。(P.5-6)

※応答した局は、自動的に送信状態(自動応答)に戻ります。

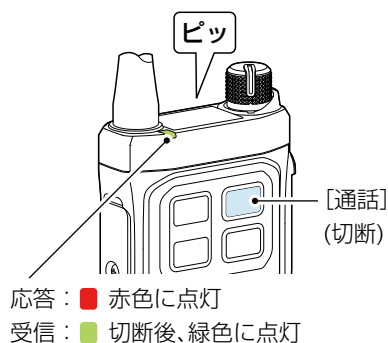


1対N(複数)同時通話の場合

通話は切れません。

※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻ります。

※ほかの局は、呼び出した局が通話を切断するまで、何度でも応答できます。



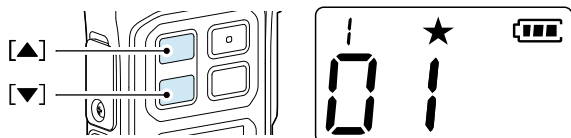
4 通話のしかた

■ 交互通話(単信)モードで通話する

◇ グループ番号を使用しない場合

1. チャンネル番号を選択する

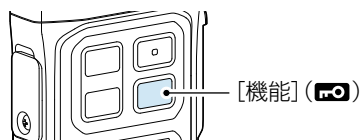
[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じチャンネル番号(表示例：01)を選択します。



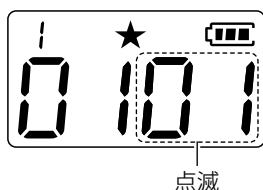
グループ番号と併せて表示(表示例：0101)されている場合は、下記の操作でチャンネル表示(表示例：01)にしてください。

【グループ番号表示を消すには】

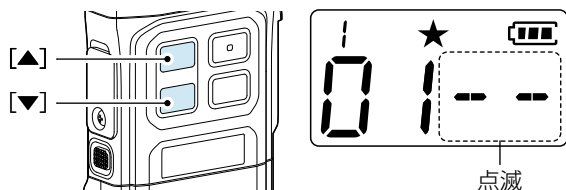
1. [機能] (機能) を短く押します。



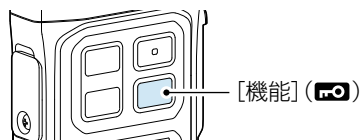
- グループ番号(表示例：01)の表示が点滅します。



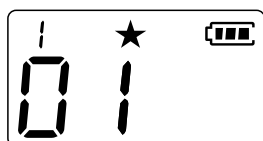
2. [▲]/[▼]を押して、「-」(点滅)を選択します。



3. [機能] (機能) を短く押します。



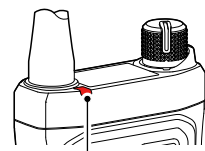
- グループ番号を使用しない場合の表示(例：01)になります。



2. 相手を呼び出す

[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

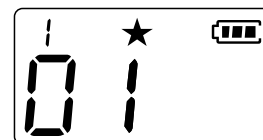
- [通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



■ 赤色に点灯

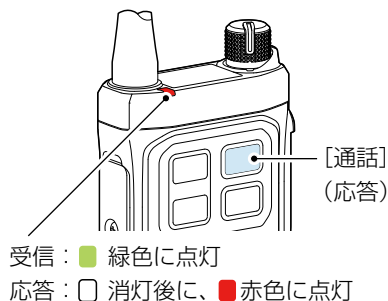
3. 呼び出しに応答する

呼び出しを受けると、状態表示ランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の音声聞こえます。



応答するときは、状態表示ランプの消灯後に、[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



※状態表示ランプが緑色に点灯中は、[通話]を押しても「ブッブッ…」と鳴りつづき、送信できません。
混信防止(キャリアセンス)機能(P.4-24)が動作していますので、状態表示ランプが消灯(相手の通話が終了)してから応答してください。

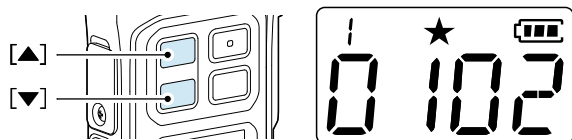
4 通話のしかた

■ 交互通話(単信)モードで通話する

◇ グループ番号を使用する場合

1. チャンネル番号を選択する

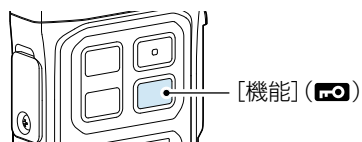
[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じチャンネル番号(表示例：01)を選択します。(グループ番号例：02)



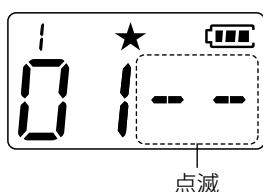
グループ番号と併せて表示(表示例：0102)されていない場合は、下記の操作でグループ番号を表示させることで、通話相手のグループ番号が選択できます。

【グループ番号が表示されていないときは】

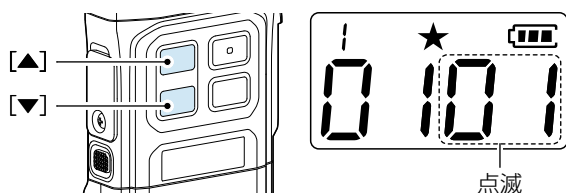
1. [機能] (機能) を短く押します。



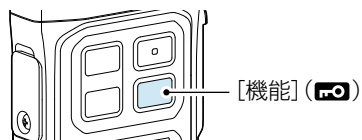
- 「-」表示が点滅します。



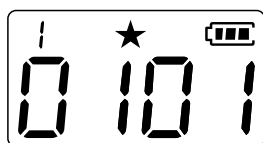
2. [▲]/[▼]を押して、グループ番号(表示例：01)を表示(点滅)させます。



3. [機能] (機能) を短く押します。



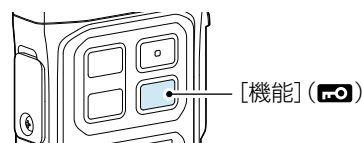
- グループ番号を使用する場合の表示(例：0101)になります。



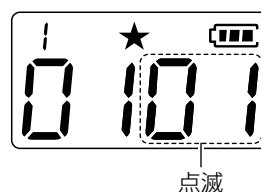
2. グループ番号を選択する

通話相手と同じグループ番号(01～38)を選択します。

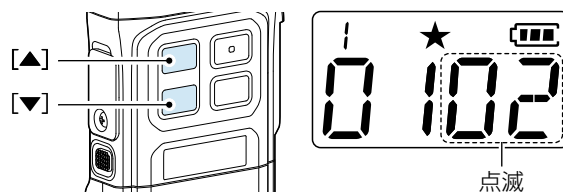
1. [機能] (機能) を短く押します。



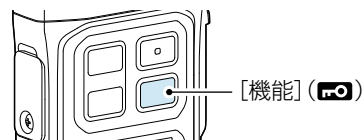
- グループ番号(表示例：01)の表示が点滅します。



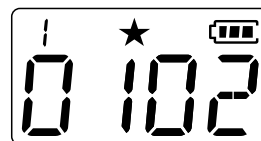
2. [▲]/[▼]を押して、通話相手と同じグループ番号(表示例：02)を選択します。



3. [機能] (機能) を短く押します。



- 選択したグループ番号(例：0102)が表示されます。



4 通話のしかた

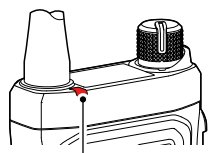
■ 交互通話(単信)モードで通話する

◇ グループ番号を使用する場合

3. 相手を呼び出す

[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

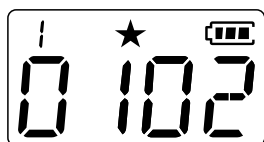
- [通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



■ 赤色に点灯

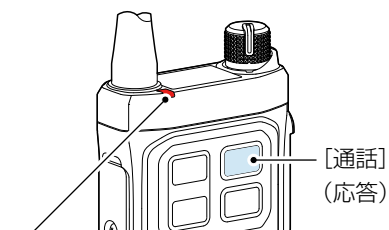
4. 呼び出しに応答する

呼び出しを受けると、状態表示ランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の音声聞こえます。



応答するときは、状態表示ランプの消灯後に、[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



受信：■ 緑色に点灯

応答：□ 消灯後に、■ 赤色に点灯

※状態表示ランプが緑色に点灯中は、[通話]を押しても「ブッ…」と鳴りつづき、送信できません。

混信防止(キャリアセンス)機能(P.4-24)が動作していますので、状態表示ランプが消灯(相手の通話が終了)してから応答してください。

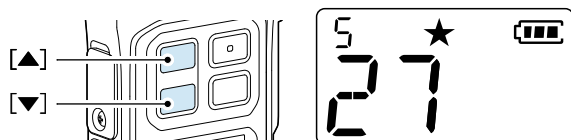
4 通話のしかた

■中継交互通話(半複信)モードで通話する

◇グループ番号を使用しない場合

1.チャンネル番号を選択する

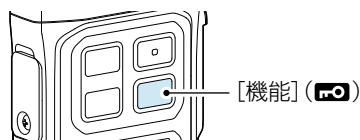
[▲]/[▼]を押して、通話相手(中継装置モードの本製品を含む)と同じチャンネル番号(表示例：27)を選択します。



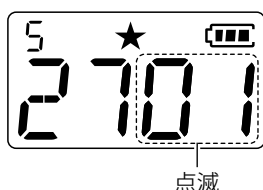
グループ番号と併せて表示(表示例：2701)されている場合は、下記の操作でチャンネル表示(表示例：27)にしてください。

【グループ番号表示を消すには】

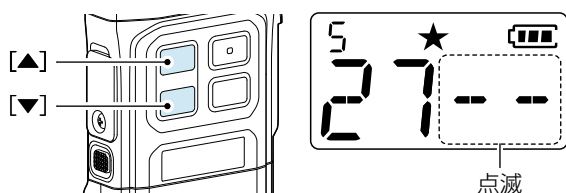
1. [機能] (機能) を短く押します。



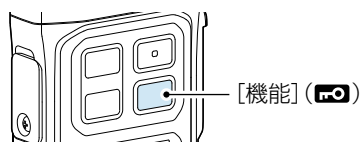
- ・グループ番号(表示例：01)の表示が点滅します。



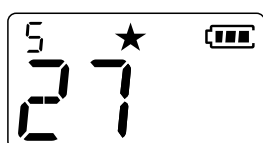
2. [▲]/[▼]を押して、[- -](点滅)を選択します。



3. [機能] (機能) を短く押します。



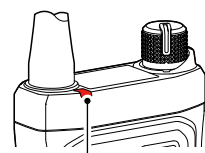
- ・グループ番号を使用しない場合の表示(例：27)になります。



2.相手を呼び出す

[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- ・[通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



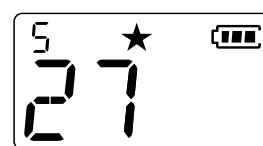
赤色に点灯

※電波が中継装置に届かない場所、または中継装置の電源が入っていないなどで、中継装置と接続できないときは、「ブツ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。

※中継装置モードに設定された本製品は、中継交互通話(半複信)モードの電波を受信すると、中継先の中継交互通話(半複信)モードに設定された本製品の状態に関係なく中継状態となり、状態表示ランプが橙色に点灯します。

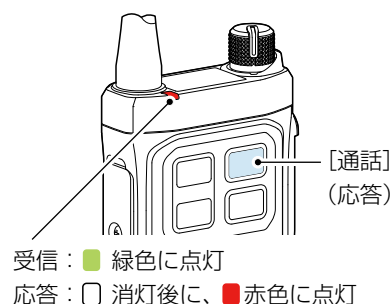
3.呼び出しに応答する

呼び出しを受けると、状態表示ランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の音声聞こえます。



応答するときは、状態表示ランプの消灯後に、[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- ・[通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



※状態表示ランプが緑色に点灯中は、[通話]を押しても「ブツブツ…」と鳴りつづけ、送信できません。
混信防止(キャリアセンス)機能(P.4-24)が動作していますので、状態表示ランプが消灯(相手の通話が終了)してから応答してください。

4 通話のしかた

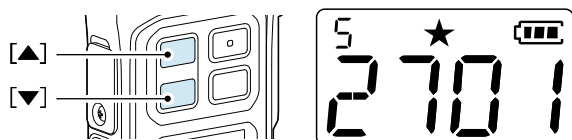
■中継交互通話(半複信)モードで通話する

◇グループ番号を使用する場合

1.チャンネル番号を選択する

[▲]/[▼]を押して、通話相手(中継装置モードの本製品を含む)と同じチャンネル番号(表示例：27)を選択します。

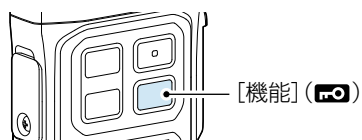
(グループ番号例：01)



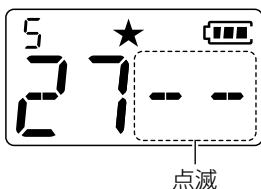
グループ番号と併せて表示(表示例：2701)されていない場合は、下記の操作でグループ番号を表示させることで、通話相手(中継装置モードの本製品を含む)のグループ番号が選択できます。

【グループ番号が表示されていないときは】

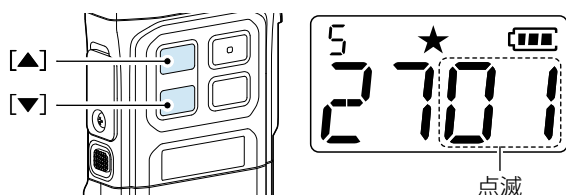
1. [機能] (機能) を短く押します。



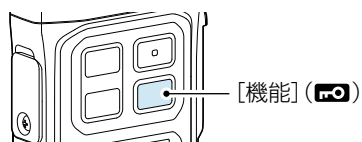
- 「--」表示が点滅します。



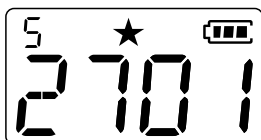
2. [▲]/[▼]を押して、グループ番号(表示例：01)を表示(点滅)させます。



3. [機能] (機能) を短く押します。



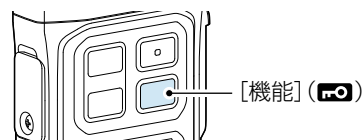
- グループ番号を使用する場合の表示(例：2701)になります。



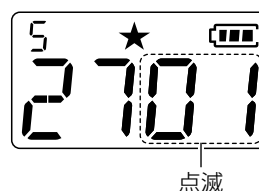
2.グループ番号を選択する

通話相手(中継装置モードの本製品を含む)と同じグループ番号(01～38)を選択します。

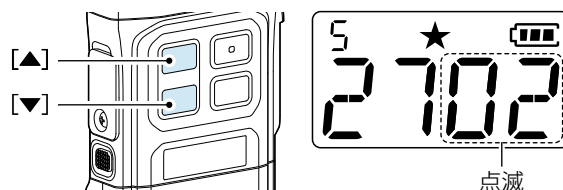
1. [機能] (機能) を短く押します。



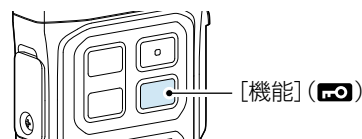
- グループ番号(表示例：01)の表示が点滅します。



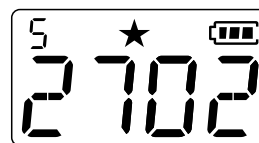
2. [▲]/[▼]を押して、通話相手と同じグループ番号(表示例：02)を選択します。



3. [機能] (機能) を短く押します。



- 選択したグループ番号(例：2702)が表示されます。



4 通話のしかた

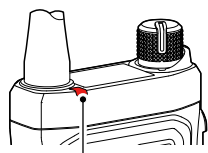
■中継交互通話(半複信)モードで通話する

◇グループ番号を使用する場合

3.相手を呼び出す

[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



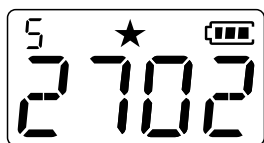
■ 赤色に点灯

※電波が中継装置に届かない場所、または中継装置の電源が入っていないなどで、中継装置と接続できないときは、「プツ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。

※中継装置モードに設定された本製品は、中継交互通話(半複信)モードの電波を受信すると、中継先の中継装置モードに設定された本製品の状態に関係なく中継状態となり、状態表示ランプが橙色に点灯します。

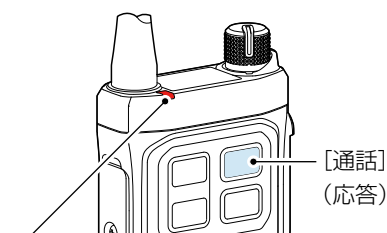
4.呼び出しに応答する

呼び出しを受けると、状態表示ランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の音声聞こえます。



応答するときは、状態表示ランプの消灯後に、[通話]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [通話]を押しているあいだは、状態表示ランプが赤色に点灯します。



受信：■ 緑色に点灯

応答：□ 消灯後に、■ 赤色に点灯

※状態表示ランプが緑色に点灯中は、[通話]を押しても「プツプツ…」と鳴りつづき、送信できません。

混信防止(キャリアセンス)機能(P.4-24)が動作していますので、状態表示ランプが消灯(相手の通話が終了)してから応答してください。

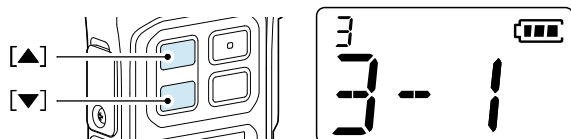
4 通話のしかた

■ 3者同時通話モードで通話する

◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定しない場合

1. チャンネル番号を選択する

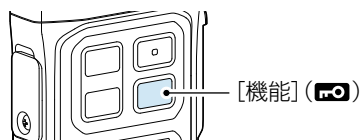
[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じチャンネル番号(表示例：3-1)を選択します。



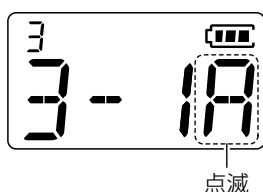
親機(A)、子機(b、C)と併せて表示(表示例：3-1A)されている場合は、下記の操作でチャンネル表示(表示例：3-1)にしてください。

【親機(A)、子機(b、C)の表示を消すには】

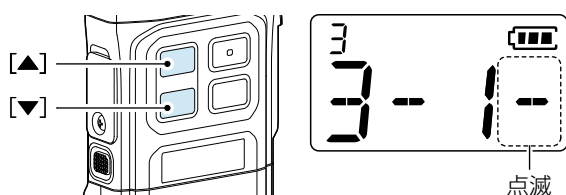
1. [機能] (機能) を短く押します。



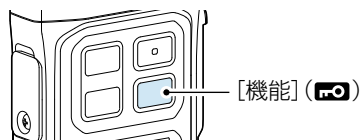
- 親機(A)、子機(b、C)の表示が点滅(表示例：A)します。



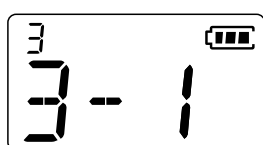
2. [▲]/[▼]を押して、[-] (点滅) を選択します。



3. [機能] (機能) を短く押します。



- 親機(A)、子機(b、C)を指定しない場合の表示(例：3-1)になります。



2. 相手を呼び出す

1. 状態表示ランプが消灯している(3者が待ち受け)状態で、[通話]を短く押します。

- 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。

※状態表示ランプが消灯している状態から呼び出すことで、自動的に3者の親機として動作します。

2. 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって呼びかけます。

※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「プッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。



ご参考

自局の周囲の騒音などで、相手が聞き取りにくいとき

[通話]を短く押すと、自局が返答するまでのあいだマイクをOFF(状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅)にできます。

応答するときは、再度[通話]を短く押すと、マイクがON(状態表示ランプが赤色に点灯)になります。

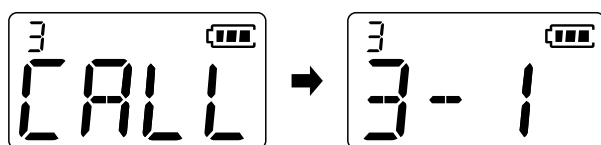
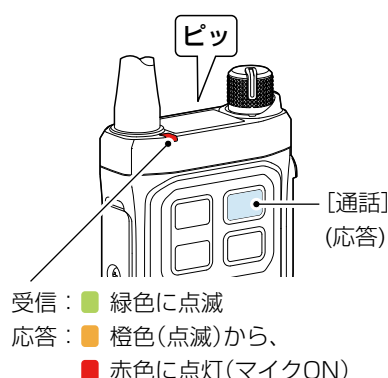
4 通話のしかた

■ 3者同時通話モードで通話する

◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定しない場合

3. 呼び出しに応答する

1. 呼び出しを受けると、表示が下図のように変化します。
 - ・ 状態表示ランプは、緑色に点滅します。
2. 応答するときは、[通話]を短く押します。
 - ・ 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
3. マイクに向かって、話しかけます。



CALL表示(約0.5秒)

チャンネル表示

※状態表示ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押すと、応答する前の状態(状態表示ランプが緑色に点滅)に戻ります。

ご参考

◎ 自局の周囲の騒音などで、相手が聞き取りにくいとき

[通話]を短く押すと、自局が返答するまでのあいだマイクをOFF(状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅)にできます。

応答するときは、再度[通話]を短く押すと、マイクがON(状態表示ランプが赤色に点灯)になります。

◎ 応答中(赤色に点灯)に、最初に呼び出しをした相手が通話を切断したとき

呼び出してきた相手との通話は切れますが、自動的に通話状態(マイクON)に戻ると、自動的に3者の親機として動作します。★

このとき、最初に呼び出してきた相手は、親機から呼び出しを受けた状態(子機)に切り替わります。

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、親機として約2秒後に自動で再接続を開始します。(P.5-6)

◎ 応答するときのマイク操作

呼び出しを受けたときは、マイクがOFFになるように変更が必要な場合は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

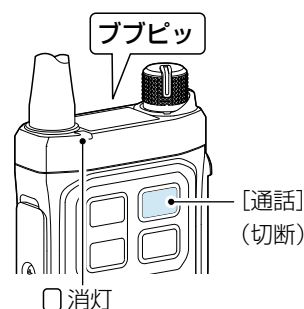
4. 通話を切断する

◎ 呼び出した局(親機)が操作をしたとき

呼び出した局は、呼び出しを受けた2局(子機)が待ち受け状態(緑色に点滅)に戻った状態で、状態表示ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押します。

- ・ 状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。

※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



※相手の2局、またはどちらか1局が応答している状態(赤色に点灯)のときに、状態表示ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押したときは、通話を切断せずに、子機として呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点滅)に戻ります。

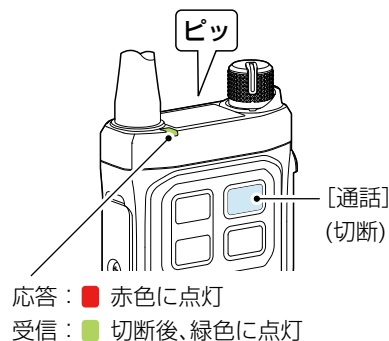
※OPC-636/OPC-2277/VS-2SJ(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)を使用している場合についても子機との通話の切断は、無線機本体の[通話]の操作が必要です。

◎ 呼び出した局以外の2者(子機)が操作をしたとき

親機と同様の操作をしても、応答した局の通話は切れません。

※応答した局は、呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻ります。

※最初に呼び出した局が通話を切断するまで、何度でも応答できます。



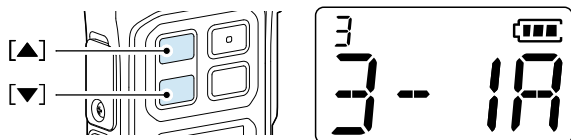
4 通話のしかた

■ 3者同時通話モードで通話する

◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定する場合

1. チャンネル番号を選択する

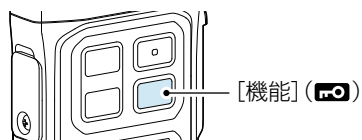
[▲]/[▼]を押して、通話相手と同じチャンネル番号(表示例：3-1)を選択します。(親機の表示例：A)



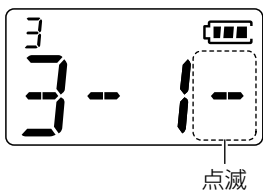
親機(A)、子機(b、C)と併せて表示(表示例：3-1A)されていない場合は、下記の操作で親機と子機を指定できます。

【親機(A)、子機(b、C)が表示されていないときは】

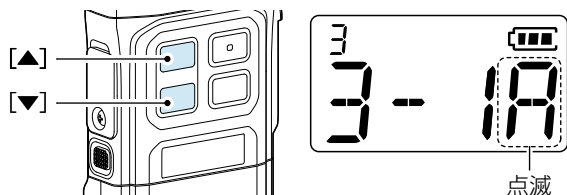
1. [機能] (機能) を短く押します。



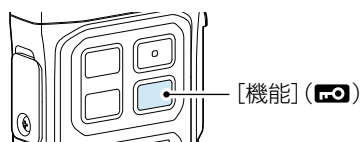
- 「-」表示が点滅します。



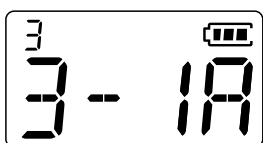
2. [▲]/[▼]を押して、親機(A)、子機(b、C)の表示(点滅)を選択します。(表示例：A)



3. [機能] (機能) を短く押します。



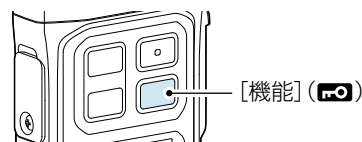
- 親機(A)、子機(b、C)を指定する場合の表示(例：3-1A)になります。



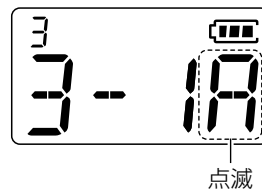
2. 親機(A)、子機(b、C)を指定する

3者同時通話の対象となる各無線機に、親機(A)と子機(b、C)が重複しないように指定します。

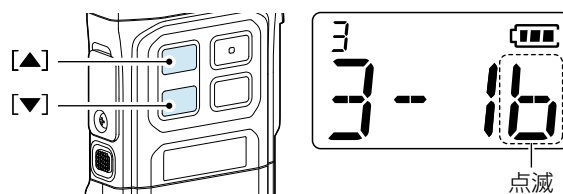
1. [機能] (機能) を短く押します。



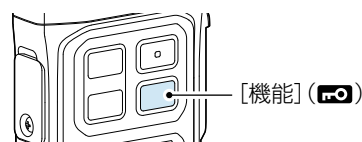
- 親機(A)、子機(b、C)の表示が点滅(表示例：A)します。



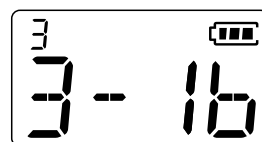
2. [▲]/[▼]を押して親機(A)、子機(b、C)を、相手と重複しないように選択します。(表示例：b)



3. [機能] (機能) を短く押します。



- 選択した親機、または子機の指定(例：3-1b)が表示されます。



ご参考

親機(A)が選択された電波が受信できる状態のときだけ、子機(b、C)と3者同時通話できます。

子機(b、C)の指定が重複している場合、どちらかの子機が親機と通話中は、待ち受け中の子機は応答できません。

また、3台とも親機(A)、または3台とも子機(bやC)に指定したときは、通話できません。

4 通話のしかた

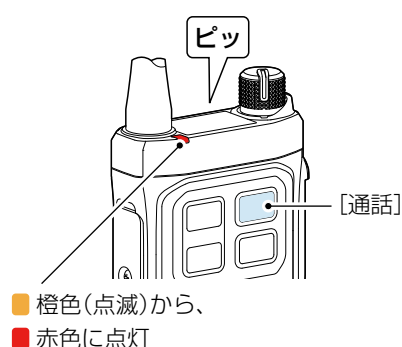
■ 3者同時通話モードで通話する

◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定する場合

3. 相手を呼び出す

1. 状態表示ランプが消灯している(3者が待ち受け)状態で、親機、または子機の[通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
2. 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって呼びかけます。

※相手が通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「プッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。



ご参考

◎ 自局の周囲の騒音などで、相手が聞き取りにくいとき

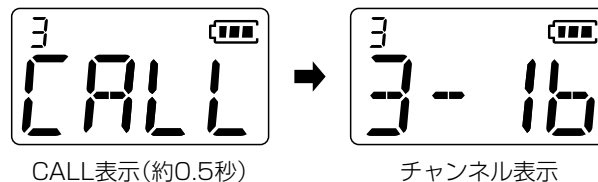
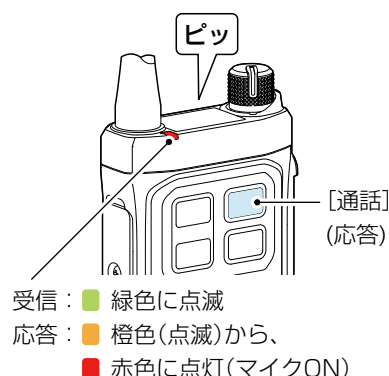
[通話]を短く押すと、自局が返答するまでのあいだマイクをOFF(状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅)にできます。

応答するときは、再度[通話]を短く押すと、マイクがON(状態表示ランプが赤色に点灯)になります。

4. 呼び出しに応答する

◎ 親機(A)からの呼び出しの場合

1. 呼び出しを受けると、子機(例：b)の表示が下図のように変化します。
 - 状態表示ランプは、緑色に点滅します。
2. 応答するときは、[通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
3. マイクに向かって、話しかけます。



ご参考

◎ 自局の周囲の騒音などで、相手が聞き取りにくいとき

[通話]を短く押すと、自局が返答するまでのあいだマイクをOFF(状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅)にできます。

応答するときは、再度[通話]を短く押すと、マイクがON(状態表示ランプが赤色に点灯)になります。

◎ 応答するときのマイク操作

呼び出しを受けたときは、マイクがOFFになるように変更が必要な場合は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

◎ 子機(b、C)が応答中(赤色に点灯)に、最初に呼び出しをした相手(親機)が通話を切断したとき

子機(b、C)が応答中でも親機との通話は、切断されます。

4 通話のしかた

■ 3者同時通話モードで通話する

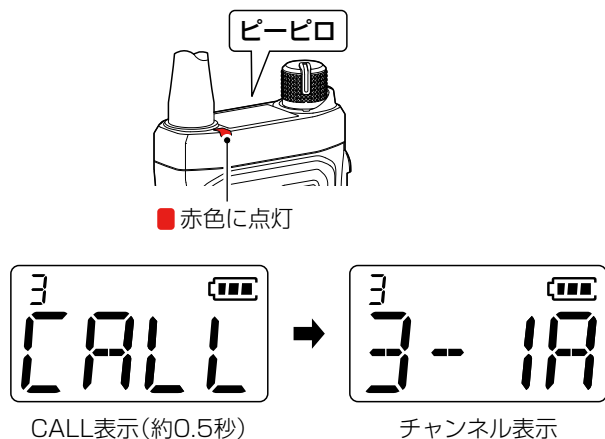
◇ 親機(A)、子機(b、C)を指定する場合

4. 呼び出しに応答する

◎ 子機(b、C)からの呼び出しの場合

呼び出しを受けると、親機(A)の表示が下図のように変化します。(A局の表示例：3-1A)

状態表示ランプが赤色に点灯して、自動的に送信状態になりますので、マイクに向かって、話しかけます。



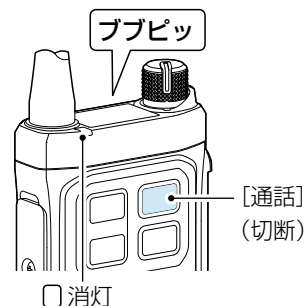
5. 通話を切断する

◎ 親機(A)が操作をしたとき

状態表示ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押します。

- ・ 状態表示ランプが消灯し、通話が切れます。

※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



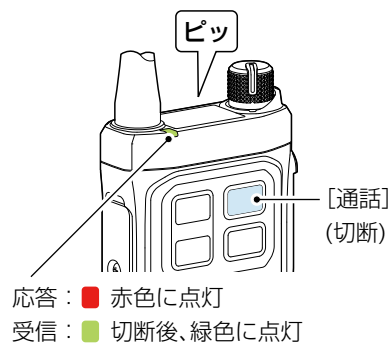
※通話は、子機(b、C)が応答中でも切断されます。

※OPC-636/OPC-2277/VS-2SJ(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)を使用している場合についても子機との通話の切断は、無線機本体の[通話]操作が必要です。

◎ 子機(b、C)が操作をしたとき

親機(A)と同様の操作をしても、通話は切れません。

※親機(A)は自動応答の状態のままで、子機(b、C)を呼び出したときと同じ状態に戻りますので、親機が通話を切断するまで、子機(b、C)は何度でも応答できます。

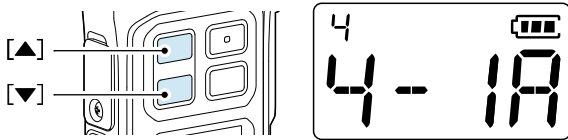


4 通話のしかた

■ 4者同時通話モードで通話する

1. チャンネル番号を選択する

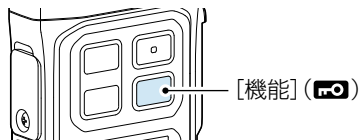
[▲]/[▼]を押して、4者同時通話のすべての相手と同じチャンネル番号(表示例：4-1)を選択します。



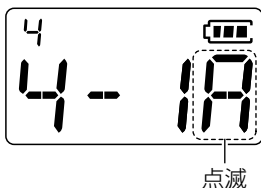
2. 各無線機を指定(A、b、C、d)する

4者同時通話の対象となる各無線機への指定(A、b、C、d)が重複しないように選択します。

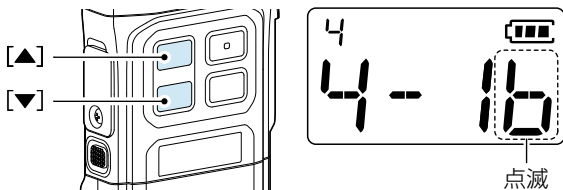
1. [機能] (機能)を短く押します。



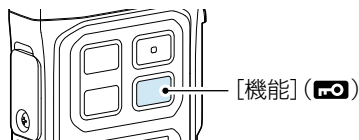
- 指定(A、b、C、d)の表示が点滅(表示例：A)します。



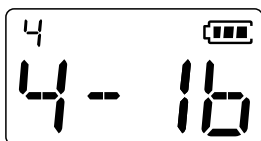
2. [▲]/[▼]を押して、各無線機への指定(A、b、C、d)が重複しないように選択します。(表示例：b)



3. [機能] (機能)を短く押します。

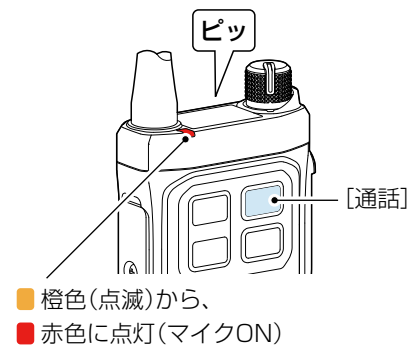


- 選択した各無線機への指定(A、b、C、d)が表示されます。(表示例：b)



3. 相手を呼び出す

- 状態表示ランプが消灯している(4者が待ち受け)状態で、[通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
- 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって、3者へ同時に呼びかけます。
※4台の中で1台でも通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「ブッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。



ご参考

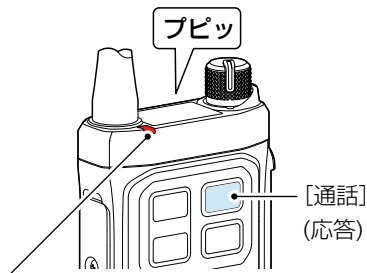
- ◎ 下記の場合は、通話圏内でも全員が通話を開始できません。
 - 全員が同じチャンネルでも指定(A、b、C、d)が重複しているとき
 - 他局の4者同時通話と同じチャンネルのとき
- ◎ 通話には指定(A、b、C、d)が必要ですが、4者が自動応答した状態で最初に呼び出しをした本製品を使用する人が親になります。
親以外の3者の中でだれかが通話を切断したときは、一度通話は切れます。★
★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約4秒後に最初に呼び出しをした局(親機)が自動で再接続して4者同時通話を開始します。(P.5-6)
- ◎ 自局の周囲の騒音などで、相手が聞き取りにくいときは、[通話]を短く押すと、自局が返答するまでのあいだマイクをOFF(状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅)にできます。
応答するときは、再度[通話]を短く押すと、マイクがON(状態表示ランプが赤色に点灯)になります。
- ◎ 電波干渉や受信環境により、状態表示ランプが赤色と緑色が交互に点滅する場合があります。
- ◎ 状態表示ランプが赤色に点灯している状態でも、電波干渉やノイズにより、4者同時通話が継続できていない場合があります。
自分の通話音声がいやホンから聞こえない、またはいやホンからビーブ音が聞こえるときは、一度通話を切断して、再接続を試みてください。

4 通話のしかた

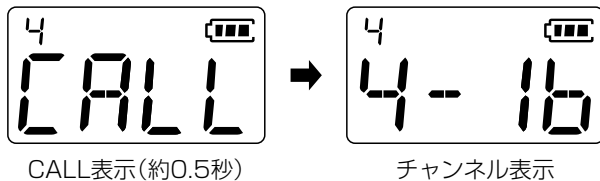
■ 4者同時通話モードで通話する

4.呼び出しに応答する

1. 呼び出しを受けると、呼び出しを受けた本製品の表示が下図のように変化します。(b局の表示例：4-1b)
 - ・状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅します。
2. 応答するときは、[通話]を短く押します。
 - ・「プピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
3. マイクに向かって、話しかけます。



通話：■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(マイクOFF時)
応答：■ 赤色に点灯(マイクON時)



CALL表示(約0.5秒)

チャンネル表示

ご参考：応答するときのマイク操作

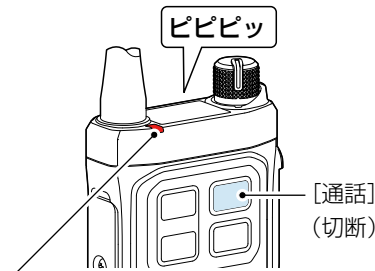
呼び出しを受けると同時に、マイクがONになるように変更が必要な場合は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

5.通話を切断する

◎ 呼び出した局(親機)が操作をしたとき

状態表示ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押します。

- ・状態表示ランプが消灯し、4者の通話が同時に切れます。
- ※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



通話：■ 赤色に点灯(マイクON時)
■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(マイクOFF時)
切断：■ に点灯するまで[通話]を押すと、□ 消灯(切断)

※親機以外同士で通話中の場合も通話が切断されます。

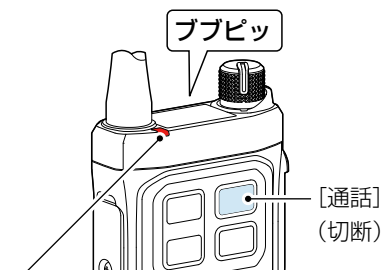
※OPC-636/OPC-2277/VS-2SJ(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)を使用している場合についても子機との通話の切断は、無線機本体の[通話]の操作が必要です。

◎ 呼び出した局以外の3者(子機)が操作をしたとき

親局と同様の操作をすると、一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約4秒後に呼び出した局(親機)が自動で再接続を開始します。(P.5-6)

※応答した局は、自動的に通話状態(マイクOFF)に戻ります。



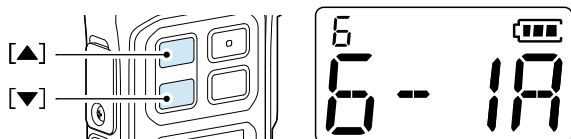
通話：■ 赤色に点灯(マイクON時)
■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(マイクOFF時)
切断：■ に点灯するまで[通話]を押すと、□ 消灯(切断)後に
■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(再接続)

4 通話のしかた

■ 6者同時通話モードで通話する

1. チャンネル番号を選択する

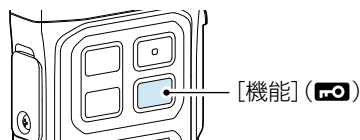
[▲]/[▼]を押して、6者同時通話のすべての相手と同じチャンネル番号(表示例：6-1A)を選択します。



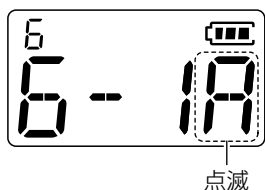
2. 各無線機を指定(A、b、C、d、E、F)する

6者同時通話の対象となる各無線機への指定(A、b、C、d、E、F)が重複しないように選択します。

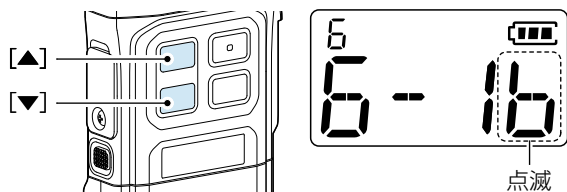
1. [機能] (機能) を短く押します。



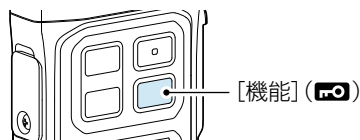
- 指定(A、b、C、d、E、F)の表示が点滅(表示例：A)します。



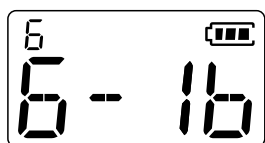
2. [▲]/[▼]を押して、各無線機への指定(A、b、C、d、E、F)が重複しないように選択します。(表示例：b)



3. [機能] (機能) を短く押します。



- 選択した各無線機への指定(A、b、C、d、E、F)が表示されます。(表示例：b)



3. 相手呼び出す

- 状態表示ランプが消灯している(6者が待ち受け)状態で、[通話]を短く押します。
 - 「ピッ」と鳴って、状態表示ランプが橙色に点滅します。
- 状態表示ランプが赤色に点灯したことを確認して、マイクに向かって、5者へ同時に呼びかけます。
※6台の中で1台でも通話圏外、または電源が入っていないなどで、接続できないときは、「ブッ」と鳴って、状態表示ランプが消灯します。



ご参考

- ◎ 下記の場合は、通話圏内でも全員が通話を開始できません。
 - 全員が同じチャンネルでも指定(A、b、C、d、E、F)が重複しているとき
 - 他局の6者同時通話と同じチャンネルのとき
- ◎ 通話には指定(A、b、C、d、E、F)が必要ですが、6者が自動応答した状態で最初に呼び出しをした本製品を使用する人が親になります。
親以外の5者の中でだれかが通話を切断したときは、一度通話は切れます。★
★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約4秒後に最初に呼び出しをした局(親機)が自動で再接続して6者同時通話を開始します。(P.5-6)
- ◎ 自局の周囲の騒音などで、相手が聞き取りにくいときは、[通話]を短く押すと、自局が返答するまでのあいだマイクをOFF(状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅)にできます。応答するときは、再度[通話]を短く押すと、マイクがON(状態表示ランプが赤色に点灯)になります。
- ◎ 電波干渉や受信環境により、状態表示ランプが赤色と緑色が交互に点滅する場合があります。
- ◎ 状態表示ランプが赤色に点灯している状態でも、電波干渉やノイズにより、6者同時通話が継続できていない場合があります。
自分の通話音声がいやホンから聞こえない、またはいやホンからビーブ音が聞こえるときは、一度通話を切断して、再接続を試みてください。

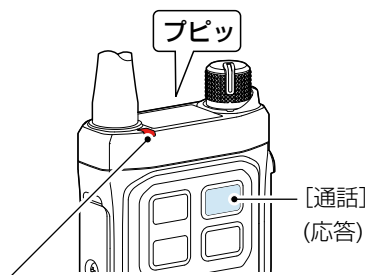
4 通話のしかた

■ 6者同時通話モードで通話する

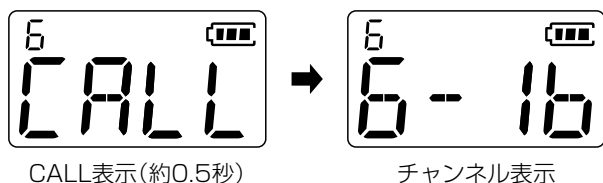
4. 呼び出しに応答する

呼び出しを受けると、呼び出しを受けた本製品の表示が下図のように変化します。(b局の表示例：6-1b)

状態表示ランプが赤色に点灯して、全員が自動的に送信状態になりますので、マイクに向かって、話しかけます。



通話：■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(マイクOFF時)
応答：■ 赤色に点灯(マイクON時)



ご参考：応答するときのマイク操作

呼び出しを受けると同時に、マイクがONになるように変更が必要な場合は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

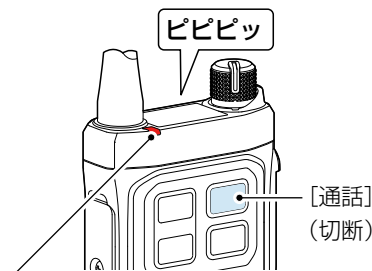
5. 通話を切断する

◎ 呼び出した局(親機)が操作をしたとき

状態表示ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押します。

・状態表示ランプが消灯し、6者の通話が同時に切れます。

※通話を切ったあと、約2秒は送信できません。



通話：■ 赤色に点灯(マイクON時)
■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(マイクOFF時)
切断：■ に点灯するまで[通話]を押すと、□ 消灯(切断)

※親機以外同士で通話中の場合も通話が切断されます。

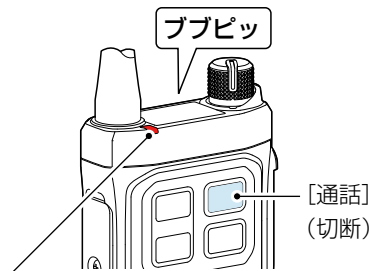
※OPC-636/OPC-2277/VS-2SJ(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)を使用している場合についても子機との通話の切断は、無線機本体の[通話]の操作が必要です。

◎ 呼び出した局以外の5者(子機)が操作をしたとき

親局と同様の操作をすると、一度通話は切れます。★

★詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)が「on」に設定されているため一度通話は切れますが、約4秒後に呼び出した局(親機)が自動で再接続を開始します。(P.5-6)

※応答した局は、自動的に通話状態(マイクOFF)に戻ります。



通話：■ 赤色に点灯(マイクON時)
■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(マイクOFF時)
切断：■ に点灯するまで[通話]を押すと、□ 消灯(切断)後に
■ 赤色と■ 紫色(2回)に交互点滅(再接続)

4 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

◇ マイクとイヤホンの接続

通話には、別売品の接続が必要です。(P.1-2)

※接続ケーブルにマイクスイッチがあるときは、本製品の[通話]と同じ操作ができます。

※Bluetooth対応ヘッドセットをご使用の場合は、あらかじめBluetooth機能の設定(P.6-9)とペアリングの操作(P.5-1)が必要です。

※マイクに向かって話すときは、マイクと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。

マイクを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

◇ 通話範囲

通話距離の目安(10mW出力、中継装置を使用しない場合)

- ・見通しのよい場所：約2km
- ・郊外：約2km
- ・高速道路：約500m
- ・市街地：約100～200m

※周囲の状況(建物や山など)により異なります。

通話範囲であっても、建物のかげなどに入ると、相手の声が聞こえにくくなることがあります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

◇ 混信防止(キャリアセンス)機能

交互通話(単信)モードの場合、送信しようとするチャンネルで先に通話している局があると送信を禁止します。

[通話]を押しても、「ブップッ…」と鳴って、送信できない場合は、他局の通話が終了してから送信しなおしてください。

◇ 通話時間の制限

送信出力が10mWの場合、連続して通話できる時間は、送信と受信を合わせて「3分」です。



自局、または相手局のいずれかが連続送信となる場合、以下の通りすべてのモードで連続通話(送信)時間は3分に制限されます。

◎ 中継交互通話(半復信)/中継装置モード(Ch19～Ch27)

送信出力(10mW)を変更できないため、3分に制限されます。

◎ 交互通話(単信)モード

送信出力(10mW)を変更できないため、3分に制限されます。

◎ 2者同時通話(復信)/送信専用モード(Ch19～Ch27)

送信出力を1mWで使用する場合でも、3分に制限されます。

※3分の10秒前になると、「ピッ」と鳴ります。

※2者同時通話(復信)モードでは、3分が経過すると、「ブブピッ」と警告音が鳴り、自動的に通話が切れます。

※3分が経過により通話が切れると、約2秒は送信できません。2秒経過してから[通話]を押してください。

自動再接続が「on」に設定されている場合、3分で通話が切れると一度通話は切れますが、約2秒後に自動で再接続を開始します。

◇ 電波干渉

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとにチャンネルの組み合わせを適切に設定することで、電波干渉を防止できます。

5 その他の機能

■ Bluetooth機能

Bluetooth対応ヘッドセットを本製品に登録(ペアリング)することで、本製品とBluetoothで接続できます。

◇ ペアリングの前に

あらかじめ、設定モードでBluetooth機能(表示:bt)が「on」に設定されていると、本製品とのペアリング操作ができるようになります。(P.6-9)

※本製品と接続したBluetoothヘッドセットなどの機器から通話(呼び出しや応答)操作ができます。

※本製品は、最大7台までのBluetooth機器を登録できます。Bluetooth機器を複数登録しても、接続できるのは1台だけです。

※Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

ご注意

- ◎ 本製品の音量を上げすぎないようにご注意ください。
マイクロホンと接続されているイヤホンが本製品のコネクタに接続されている場合(P.1-2)、Bluetooth機器の電源を切るなどしてBluetooth接続を切断すると、本製品と接続されたイヤホンから音が出るように切り替わります。
- ◎ 本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあり、すべての動作を保証するものではありません。
- ◎ Bluetoothの通信においては、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけ、障害物がない状態にしてください。電子レンジやWi-Fi、ほかのBluetooth機器による電波干渉がある場合は、それらの位置を変更するか、必要に応じて一時的に使用を中止してください。

ご参考

ケーブル接続タイプのマイクロホンとイヤホンを実製品に接続しない場合は、端子を保護するため、保護カバー(付属品)を取り付けてください。(P.1-1)

◇ ペアリングのしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器と本製品をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。

本製品と一度ペアリングしたBluetooth機器は、それ以降ペアリングする必要はありません。

※複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検索できないことがあります。

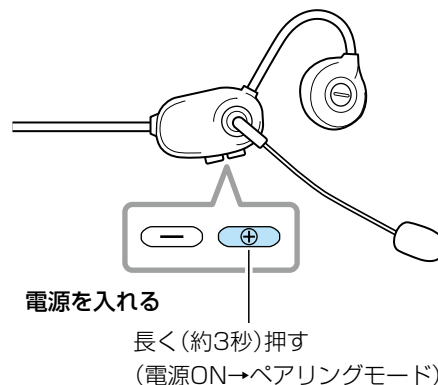
このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

※本書では、一般的な接続方法を例に説明しています。ご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。

1. Bluetooth機器をペアリングモードにする

電源を切った状態でBluetooth機器を装着し、[電源/音量(+)]を長く(約3秒)押します。

- 電源が入ると、ペアリングモード(赤色と青色の交互点滅)になります。



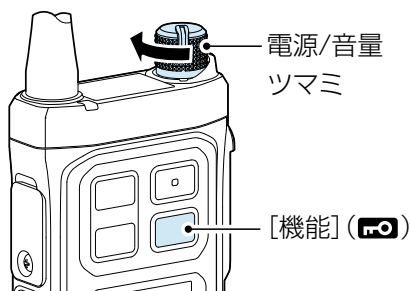
5 そのほかの機能

■Bluetooth機能

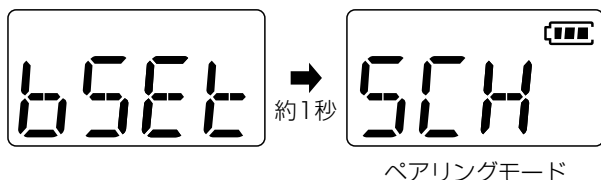
◇ペアリングのしかた

2.本製品をペアリングモードにする

電源を切った状態で、[機能] () を押しながら電源を入れます。



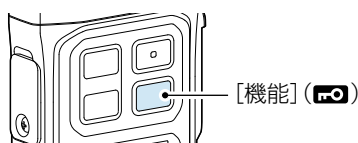
- ・「ピピッ」と鳴り、「bSet」が表示(約1秒)されたあと、ペアリングモード(表示: SCH)に移行します。



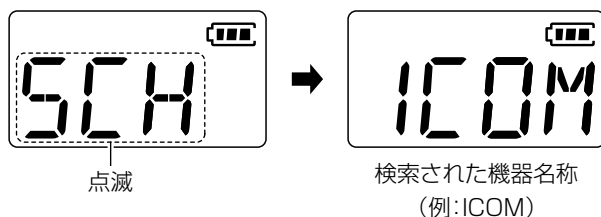
※ペアリングモードに移行されないときは、設定モードでBluetooth機能(表示: bt)が「on」に設定されていることを確認してください。(P.6-9)

3.Bluetooth機器の検索を開始する

[機能] () を短く押します。



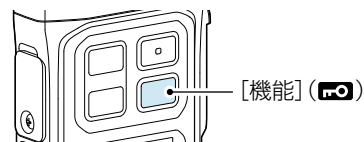
- ・検索が開始され、検索中は「SCH」が点滅します。



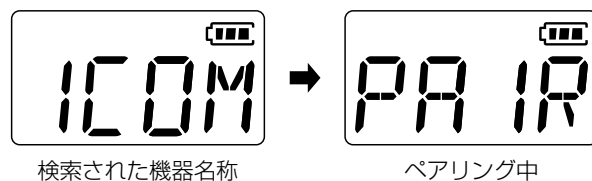
※約15秒しても接続機器が検索できないときは、検索前の状態(手順2)に戻りますので、ご使用のBluetooth機器がペアリングモード(手順1)になっていることを確認してください。
※検索を中断するときは、[機能] () を短く押します。

4.ペアリングを開始する

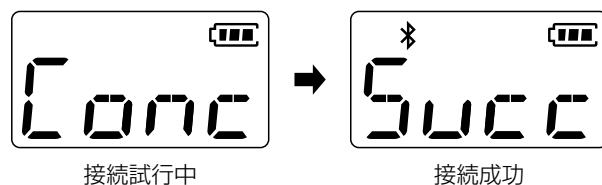
[機能] () を短く押します。



- ・ペアリング中は、「PAIR」が表示されます。

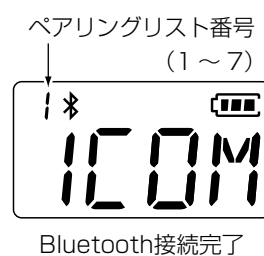


- ・接続が成功すると、「Succ」と  が表示されます。



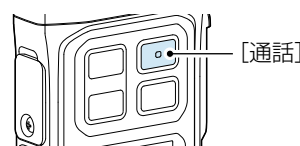
- ・接続と同時に、本製品のペアリングリストに登録(表示例: 1)されたBluetooth機器(例: ICOM)が表示されます。

※接続に失敗したときは、「FAIL」(約1秒)を表示後、ペアリングリスト表示に戻ります。



5.本製品のペアリングモードを解除する

[通話] を押します。



- ・ペアリングモードが解除され、本製品が待ち受け状態に戻るとBluetooth機器と自動で接続されます。

ペアリング後の動作について

以前にペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

下記の条件を満たしている場合、自動で接続されます。

- ◎ 本製品の電源が入っているとき
- ◎ すでにペアリングリストに登録されているとき
- ◎ 本製品の設定モードでBluetooth機能(表示: bt)が「on」に設定されているとき

※ 以前に登録した複数台のBluetooth機器の電源が入っているときは、ペアリングリスト番号が一番小さい機器に接続されます。

5 そのほかの機能

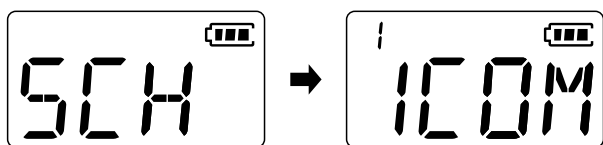
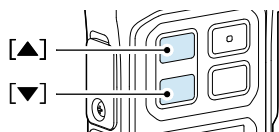
■Bluetooth機能

◇ペアリングリストから接続するには

以前に本製品でペアリングしたBluetooth機器は、ペアリングリストに登録されています。(P.5-1)

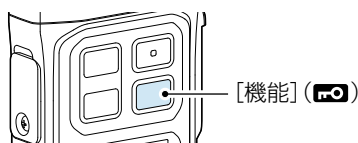
自動接続されないときなど、リストからBluetooth機器の名称を指定して再接続ができます。

1. Bluetooth機器をペアリングモードにします。
2. 本製品をペアリングモードにします。(P.5-2)
3. [▲]/[▼]を繰り返し押して、接続するBluetooth機器(例：ICOM)をペアリングリストから選択します。

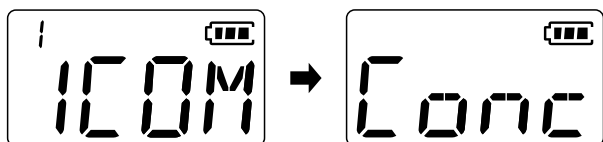


登録された機器名称

4. [機能] (機能) を短く押します。



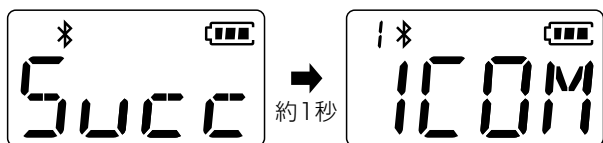
- 接続試行中は、「Conc」が表示されます。



登録された機器名称

接続試行中

- 接続されると、「Succ」(約1秒)、「*」が表示されます。



接続成功

Bluetooth接続完了

5. 接続後は、[通話]を押すと、本製品のペアリングモードが解除されます。

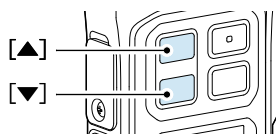
- ペアリングモードが解除され、本製品が待ち受け状態に戻るとBluetooth機器と自動で接続されます。

◇Bluetoothオプション

ペアリングリストに登録されたBluetooth機器の詳細設定です。

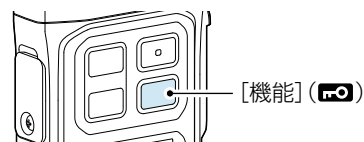
マイク感度や音声出力の調整、ペアリングリストの初期化などができます。

1. 本製品をペアリングモードにします。(P.5-2)
 - 「SCH」が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、設定する項目を選択します。

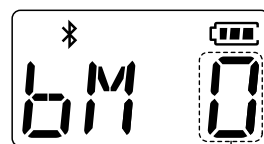


- 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。
※設定項目は、ペアリングリストの次に表示されます。

3. [機能] (機能) を短く押します。



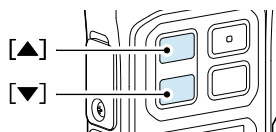
- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。



点滅

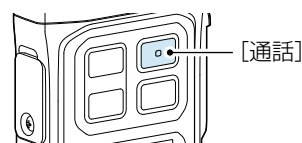
- ※Bluetooth機器が接続されていると、「*」が表示されます。

4. [▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。



- ※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (機能) を短く押して設定値を確定後に、手順1～3を繰り返します。
※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

5. 設定を終了するときは、[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。
※各設定項目については、次ページで説明しています。

5 そのほかの機能

■ Bluetooth機能

◇ Bluetoothオプション

Bluetoothマイク入力選択

(初期設定：bt)

Bluetoothヘッドセットと接続時、使用するマイクを設定します。



- AU：自動判別

- ◎ Bluetoothヘッドセットの通話スイッチを押したときは、Bluetoothヘッドセットのマイクが有効

- ◎ 下記の条件では、コネクター(本製品の側面)に接続しているマイクロホンのマイクが有効

- 本製品の[通話]操作で送信
 - 接続ケーブルのマイクスイッチで送信
 - 同時通話で自動送信(応答)時

- ※2者同時通話(複信)モードの1対1(ペア)同時通話、多者同時通話(3者/4者/6者)で使用するときは、「ot」や「bt」に設定することをおすすめします。

- ot：Bluetoothヘッドセット接続時でも、送信状態になると、コネクター(本製品の側面)に接続しているマイクロホンのマイクだけが有効

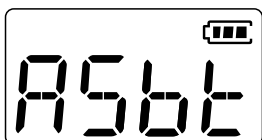
- bt：マイクロホンをコネクター(本製品の側面)に接続時でも、送信状態になるとBluetoothヘッドセットのマイクだけが有効

AF出力設定

(初期設定：bt)

Bluetoothヘッドセットと接続時、受信した音声の出力先を設定します。

- bt：Bluetoothヘッドセットに音声出力
- bo：コネクター(本製品の側面)に接続しているイヤホンに音声出力



Bluetoothマイクレベルオフセット

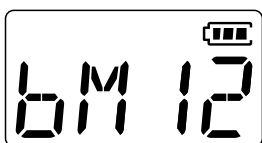
(初期設定：12)

マイクの感度を設定します。

- 選択範囲：0～24(1dB刻み)

※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。



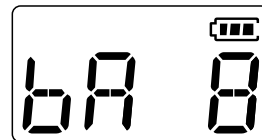
Bluetooth AFレベルオフセット

(初期設定：8)

スピーカーの出力レベルを設定します。

- 選択範囲：0～12

※本製品の音量を上げてても小さく聞こえるときは、大きな値に設定します。



Bluetoothパワーセーブ

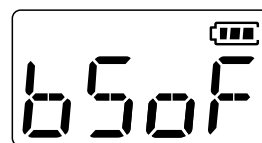
(初期設定：oF)

弊社製Bluetooth機器(生産終了品：VS-3)接続中の電力消費を抑えます。

- oF：使用しない
- on：使用する

※何も操作しない(受信もしない)状態が2分を超えたとき動作します。

※市販のBluetooth機器では動作しません。

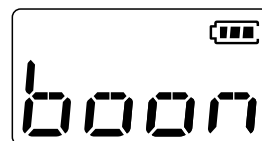


Bluetooth電源

(初期設定：on)

Bluetooth機器と未接続のとき、本製品のBluetooth回路への電源供給を停止して電力消費を抑えます。

- oF：電源供給を停止する
- on：電源を供給する



※「oF」に設定されている場合でも、Bluetooth機能(P.6-9)が「on」に設定されていれば、Bluetooth機器のペアリングや検索をすると、「on」になります。

5 そのほかの機能

■ Bluetooth機能

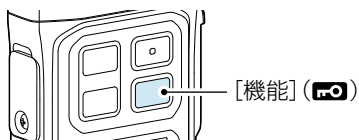
◇ Bluetoothオプション

Bluetoothリセット

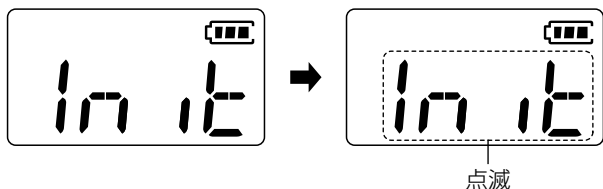
本製品のペアリングリストやBluetoothオプション設定の各設定内容を初期化します。

【リセット操作のしかた】

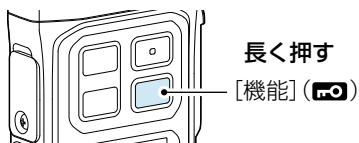
1. [機能] (F) を短く押します。



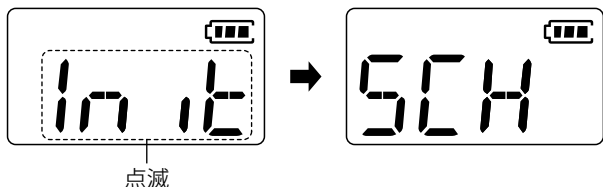
- 「Init」が点滅します。



2. 「ピピッ」と鳴るまで、[機能] (F) を長く押します。



- 設定内容が初期化され、「SCH」が表示されます。



3. [機能] (F) を短く押すと、あらためてBluetooth機器の検索が開始できます。

■ ロック機能

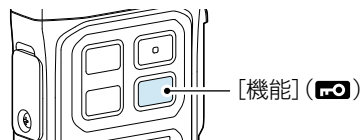
不用意に本製品の各キーに触れても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[機能] (F) を「ピピッ」と鳴るまで長く押します。

- 「F」が表示されます。

※解除するときは、同じ操作をします。



【ロック中にできる操作】

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ [通話] (呼び出し/応答) の操作
- ◎ 音量の調整
- ◎ 電源の「入」/「切」

■ オートロック機能

操作をしない状態が30秒間経過すると、自動的にロック機能が動作する設定です。

※詳細設定モードのオートロック機能(P.6-7)を「on」に設定したとき、動作する機能です。

※設定されていると、電源を入れたときから、ロックされた状態になります。

※ロックを解除するときは、[機能] (F) を「ピピッ」と鳴るまで長く押します。

※オートロックされるまでの時間を変更されたい場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ロック中にできる操作は、ロック機能動作中と同じです。

■ オートパワーオフ機能

中継装置以外の通話(通信)モードに設定(P.6-4)した本製品で、何も操作しない状態(音量調整を除く)が設定した時間つづくと、自動的に電源が切れます。

電源の切り忘れによる電池の消耗を防止できます。

※詳細設定モードのオートパワーオフ(P.6-6)で電源が切れるまでの時間を設定したとき、動作する機能です。

※設定された時間になると、「ピピピピピ」と鳴って、電源が切れます。

自動で電源が切れたあとに電源を入れると、オートパワーオフは再開しますので、使用しないときは、設定を「oF」に変更してください。

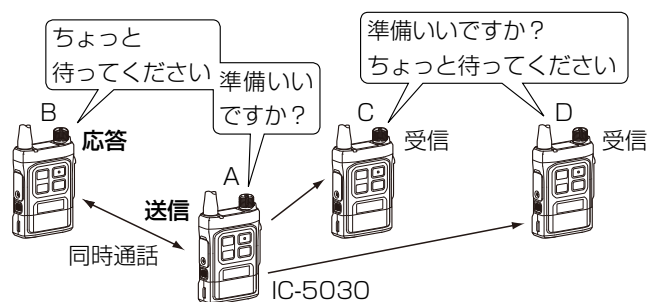
5 そのほかの機能

■ 疑似3者通話機能

2者同時通話(複信)モードに設定(P.6-4)した本製品で、同時通話中の両者(A、B)の音声、一斉呼び出しを受信中のほかの相手(C、D)でも聞けるようになります。

※詳細設定モードの1対N(複数)同時通話(P.6-5)を「n」に設定したとき、使用できる機能です。

※双方向で3者同時通話をする場合は、3者同時通話モードをご使用ください。(P.2-4)

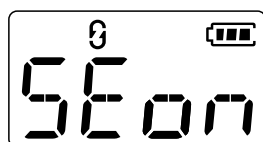


■ 秘話機能

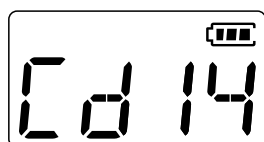
4者同時通話、6者同時通話以外の通話(通信)モードに設定(P.6-4)した本製品で、秘話機能が設定されていない本製品を使用しているほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

※詳細設定モードの秘話機能(表示例: SE on)と秘話コード(表示例: Cd 14)を設定(P.6-6)したとき、使用できる機能です。

※秘話機能の設定と秘話コードは、相手の無線機と同じ設定にしてください。



秘話機能 on



秘話コード 14

※設定を終了(待ち受け状態)に戻すと、「9」が表示されます。

※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ 自動再接続機能

本製品(送信側)の通話(通信)モードを2者同時通話(複信)、3者同時通話、4者同時通話、6者同時通話に設定(P.6-4)した本製品で、相手局が圏外になって通話が切れたり、通話時間の制限(3分間)(P.4-24)により通話が切れたりしたとき、約2秒後に自動で再接続を開始する機能です。

※詳細設定モードの自動再接続(P.6-7)を「on」に設定したとき、動作する機能です。

※自動再接続の設定が「on」で、詳細設定モードの1対N(複数)同時通話(P.6-5)が「1」(1対1)で通話している場合、応答側の本製品が「通話」を押したときも自動再接続されます。

※OPC-636(P.7-7)を使用時は、通話終了後も赤色のスイッチを押しつづけるか、白色のスイッチを押し込まれた状態にすると、自動再接続機能が動作します。

※VS-2SJ(P.7-7)を使用時は、通話終了後もノンロック(未固定)式スイッチを押しつづけるか、スライド式スイッチを上側にスライドさせた状態にすると、自動再接続機能が動作します。

■ パワーON自動接続機能

通話(通信)モードを2者同時通話(複信)、3者同時通話(子機を除く)に設定(P.6-4)した本製品で、特定の人(1対1)とだけ同時通話するような場合など、本製品の電源を入れるだけで、通話相手を自動で呼び出して接続するとき設定します。

※詳細設定モードのパワーON自動接続(P.6-7)を「on」に設定したとき、使用できる機能です。

※本製品の電源を入れると、自動で電源を切る直前の設定で呼び出しを開始します。

あらかじめ、通話相手となる本製品の電源が入っていないときは、しばらくすると待ち受け状態に戻ります。

※OPC-636(P.7-7)と併用する場合の操作

赤色のスイッチの場合は、押しながら本製品の電源を入れてください。

白色のスイッチの場合は、押し込まれた状態にしてから本製品の電源を入れてください。

※VS-2SJ(P.7-7)と併用する場合の操作

ノンロック(未固定)式スイッチの場合は、押しながら本製品の電源を入れてください。

スライド式スイッチの場合は、上側にスライドさせてから本製品の電源を入れてください。

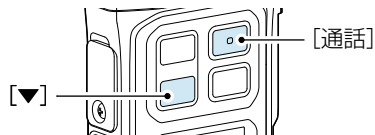
5 そのほかの機能

■呼び出しベル機能

本製品(送信側)の通話(通信)モードを交互通話(単信)、中継交互通話(半複信)、送信専用を設定(P.6-4)した本製品で、ベル音を相手に送出して呼び出す機能です。

【操作のしかた】

本製品の[通話]を押しながら、[▼]を押しているあいだけベル音が送出されます。



※詳細設定モードのベル音設定(P.6-8)を「on」に設定したとき、動作する機能です。

※[▼]を押しているあいだ送出されるのは、最大10秒です。

※通話相手にも同じベル音が鳴りますが、ベル音を受信しても音量が0のときは、聞こえません。

■LCDバックライト

本製品の[▼]、[▲]、[機能] (P.6-10)のいずれかを押す、または電源を入れたとき、表示部の照明を自動点灯させる機能です。

※設定モードのLCDバックライト(P.6-7)を「on」に設定したとき、使用できる機能です。

※[通話]や音量調整の操作では、自動点灯しません。

※何も操作しない状態で5秒経過すると、消灯します。

■受信専用機能

中継装置、送信専用以外の通話(通信)モードに設定(P.6-4)した本製品での呼び出しや応答操作により送信状態になることを禁止できます。

※詳細設定モードの受信専用(P.6-6)を「on」に設定したとき、動作する機能です。

※本製品に接続している接続ケーブルやBluetoothヘッドセットのマイクスイッチ、または本製品の[通話]を操作すると、「OnLy」と表示されます。



■一時音量切り替え機能

中継装置、送信専用以外の通話(通信)モードに設定(P.6-4)した本製品で、周囲の状況に応じて、通話を聞き取りやすくするとき、通話が終了するまでのあいだ、設定した音量に切り替えます。

【操作のしかた】

通話中、および待ち受けや受信中に、[通話]を短く0.5秒以内に2回押します。



• 「ピピッ」と鳴り、受信音量が切り替わります。

※設定モードの一時音量切り替え機能(P.6-10)を「-3」～「3」に設定したとき、動作する機能です。

※操作時のピープ音は、変化しません。

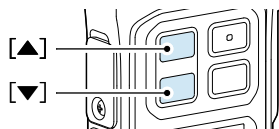
■ レストア(設定の保存と復元)

あらかじめ、「設定モード」や「詳細設定モード」から変更した設定内容を本製品に保存することで、本製品をリセット(初期化)操作(P.8-1)しても元の設定内容に戻せます。(P.6-11)

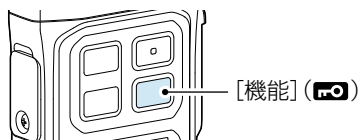
【設定を保存するには】

下記の手順で、設定内容を本製品に保存します。

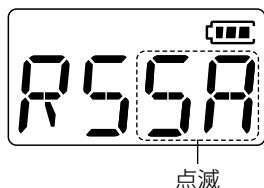
1. 詳細設定モードに移行します。(P.6-3)
2. [▲]/[▼]を押して、レストア(表示：RS)を選択します。(P.6-11)



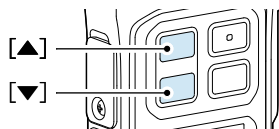
3. [機能] (機能) を短く押します。



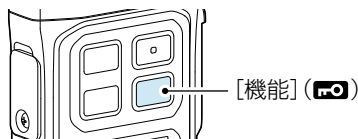
- 選択肢(SA、Ld、dE)が表示(点滅)します。



4. 「SA」が表示(点滅)されていない場合は、[▲]/[▼]を押して選択します。

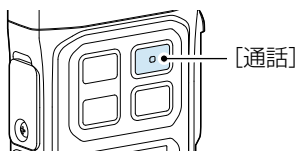


5. 「ピッ」と鳴るまで[機能] (機能) を長く押します。



- 各設定値が本製品に保存されます。

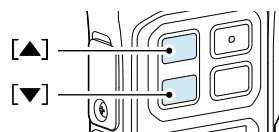
6. [通話] を押して、詳細設定モードを解除します。



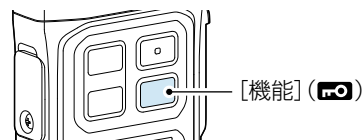
【設定を復元するには】

下記の手順で、本製品をリセットする直前の設定内容に戻します。

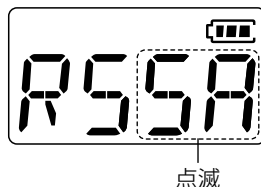
1. 詳細設定モードに移行します。(P.6-3)
2. [▲]/[▼]を押して、レストア(表示：RS)を選択します。(P.6-11)



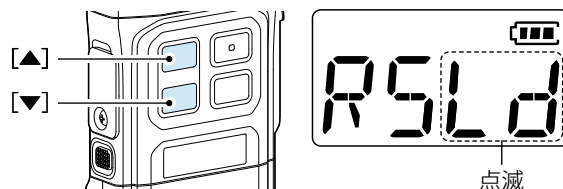
3. [機能] (機能) を短く押します。



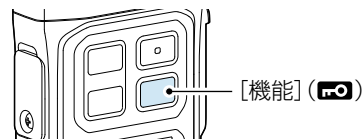
- 選択肢(SA、Ld、dE)が表示(点滅)します。



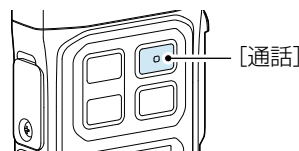
4. [▲]/[▼]を押して、「Ld」(点滅)を選択します。



5. 「ピッ」と鳴るまで[機能] (機能) を長く押します。



6. [通話] を押して、詳細設定モードを解除します。



- 通話(通信)モードなどの設定が復元されます。

■各通話モードに対応する設定項目一覧

各通話(通信)モードは、「設定モード」や「詳細設定モード」から選択できます。

選択した通話(通信)モードで使用できる各機能が「設定モード」や「詳細設定モード」の設定項目として表示されます。

以下の一覧表を参考に、ご使用いただく用途に応じて必要な項目の設定を変更してください。

※ 欄は、「設定モード」からでも変更できる設定項目です。

※一覧表内の★1～★8の補足説明は、次ページをご覧ください。

※各設定項目の表示変更をご希望の場合は、設定が必要になりますので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

○：設定できる項目 ×：設定できない項目

項目名称	項目表示	通話(通信)モード(設定値表示)								初期設定	選択肢	参照
		S	I	dU	3	4	6	SE	RP	tO		
通話(通信)モード	Md	○	○	○	○	○	○	○	○	dU	SI、dU、3、4、6、SE、RP、tO	P.6-4
反転表示	dP	○	○	○	○	○	○	○	○	N	N、R	P.6-4
マイク感度	Mc	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1～5	P.6-4
接続ケーブル	Cb	○	○	○	○	○	○	○	○	St	St、SW	P.6-4
送信出力切り替え	Po	×	○	×	×	×	○	○	○	1★1	1、10	P.6-4
スケルチレベル	Sq	○	○	○	○	○	○	○	×	2	0～5	P.6-4
複信時の個別呼び出し	lc	×	○	×	×	×	×	×	×	oF	oF、on	P.6-5
自局番号★2	ld	×	○	×	×	×	×	×	×	01	01～99	P.6-5
自局グループ番号	Gr	×	○	○	○	○	×	×	×	01	00～99	P.6-5
疑似3者通話	P3	×	○	×	×	×	×	×	×	oF	oF、on	P.6-5
複信チャンネル	Ch	×	○	×	×	×	×	×	×	18	18、27、M	P.6-5
1対N(複数)同時通話	ln	×	○	×	×	×	×	×	×	1	1、n	P.6-5
受信専用	Ro	○	○	○	○	○	○	×	×	oF	oF、on	P.6-6
秘話機能	SE	○	○	○	×	×	○	○	○	oF	oF、on	P.6-6
秘話コード★3	Cd	○	○	○	×	×	○	○	○	14	01～16	P.6-6
コンパンダ	Co	○	○	○	○	○	○	○	○	AU	AU★4、oF、on	P.6-6
オートパワーオフ	At	○	○	○	○	○	○	×	○	oF	oF、1H、2H、4H、8H	P.6-6
自動再接続	Ac	×	○	○	○	○	×	×	×	on	oF、on	P.6-7
パワーON自動接続	Pc	×	○	★5	×	×	×	×	×	oF	oF、on	P.6-7
チャンネル非表示	dS	○	○	○	○	○	○	○	○	oF	oF、on	P.6-7
LCDバックライト	Lc	○	○	○	○	○	○	○	○	on	on、oF	P.6-7
状態表示ランプ	LA	○	○	○	○	○	○	○	○	on	oF、on	P.6-7
オートロック	AL	○	○	○	○	○	○	○	○	oF	oF、on	P.6-7
ビープ機能切り替え	bP	○	○	○	○	○	○	○	○	on	oF、on	P.6-7
ブザー設定★6	bZ	○	○	○	○	○	○	○	○	on	on、oF	P.6-7
ポケットビープ	Pb	★6	★7	★7	×	×	★6	×	×	oF	oF、b1、b2、b3、b4	P.6-8
終話ビープ	EP	○	×	×	×	×	○	×	○	oF	oF、on	P.6-8
ベル音設定	bL	○	×	×	×	×	○	×	○	oF	oF、01～10	P.6-8
モニター機能	Mo	○	○	○	○	○	○	○	×	oF	oF、on	P.6-8
送信音モニター	to	○	★8	★8	×	×	○	×	○	oF	oF、on	P.6-8
断線検出	CR	○	○	○	○	○	○	○	○	oF	oF、on	P.6-9
中継装置スピーカー出力設定	SP	×	×	×	×	×	×	○	×	oF	oF、ot、bt、bo	P.6-9

6 各種機能の設定

■ 各通話モードに対応する設定項目一覧

各通話(通信)モードは、「設定モード」や「詳細設定モード」から選択できます。

選択した通話(通信)モードで使用できる各機能が「設定モード」や「詳細設定モード」の設定項目として表示されます。

以下の一覧表を参考に、ご使用いただく用途に応じて必要な項目の設定を変更してください。

※ 欄は、「設定モード」からでも変更できる設定項目です。

※一覧表内の★9、★10の補足説明は、下表の下をご覧ください。

※各設定項目の表示変更をご希望の場合は、設定が必要になりますので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

○：設定できる項目 ×：設定できない項目

項目名称	項目表示	通話(通信)モード(設定値表示)								初期設定	選択肢	参照
		SI	dU	3	4	6	SE	RP	tO			
VOX機能	oc	○	×	×	×	×	○	×	○	oF	oF、ot、bt	P.6-9
VOX感度★9	oL	○	×	×	×	×	○	×	○	3	1～5	P.6-9
VOXディレイタイマー★9	dE	○	×	×	×	×	○	×	○	3	1～5	P.6-9
Bluetooth機能	bt	○	○	○	○	○	○	○	○	oF	oF、on	P.6-9
外部電源	Ec	○	○	○	○	○	○	○	○	AU	AU、oF、on	P.6-10
ワンタッチPTT	Pt	○	×	×	×	×	○	×	○	oF	oF、on	P.6-10
一時音量切り替え機能	qL	○	○	○	○	○	○	×	×	oF	-3～-1、oF、1～3	P.6-10
トーンバースト	tb	○	×	○	×	×	○	○	○	on	oF、on	P.6-10
CTCSS一致時間遅延	dL	○	×	○	×	×	○	○	×	oF	oF、on	P.6-10
ハングアップ時間	Hn	×	×	×	×	×	×	○	×	0	0、1、3、5	P.6-11
パワーセーブ	PS	○	○	○	×	×	○	×	○	oF	oF、Ec★10、on	P.6-11
レストア	RS	○	○	○	○	○	○	○	○	-	SA、Ld、dE	P.6-11

★1 通話(通信)モード(表示：Md)が「dU」(2者同時通話(複信))、「tO」(送信専用)の初期設定は1mW、「SE」(中継交互通話(半複信))、「RP」(中継装置)の初期設定は10mWです。

※Ch19～Ch27に設定時、「SE」(中継交互通話(半複信))、「RP」(中継装置)は、設定が10mWに固定されます。

※「SI」(交互通話(単信))のときは設定が10mW(連続通話時間：3分(送信と受信の合計))に固定、「3」、「4」、「6」(多者同時通話(3者/4者/6者))のときは設定が1mWに固定されます。

★2 複信時の個別呼び出し(表示：lc)が「on」に設定されているとき、表示される項目です。

★3 秘話(表示：SE)が「on」に設定されているとき、表示される項目です。

★4 コンパンダ(表示：Co)を「AU」(AUTO)に設定時、通話(通信)モード(表示：Md)が「dU」(2者同時通話(複信))、「3」(3者同時通話)、「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)のときは、「on」で動作、それ以外の通話(通信)モードに設定されているときは「oF」で動作しますので、自動で切り替わらないようにするときは、「AU」以外を設定します。

★5 通話(通信)モード(表示：Md)が「3」(3者同時通話)のときは、親機として動作する本製品だけが動作します。

★6 ビープ機能切り替え(表示：bP)が「on」に設定されているとき、表示される項目です。

★7 ビープ機能切り替え(表示：bP)が「on」、およびお買い上げの販売店で着信表示機能が「ON」に設定されているとき、表示される項目です。

★8 通話(通信)モード(表示：Md)が「dU」(2者同時通話(複信))で、1対N(複数)同時通話(表示：ln)を「n」に設定された子機、またはグループや全体呼び出しされた子機、「3」(3者同時通話)の子機、「4」、「6」(多者同時通話(4者/6者))、「RP」(中継装置)の場合は動作しません。

★9 VOX機能(表示：oc)が「ot」、「bt」に設定されているとき、表示される項目です。

★10 パワーセーブ(表示：Ps)が「Ec」(エコモード)が選択できるのは、通話(通信)モード(表示：Md)が「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)のときだけです。

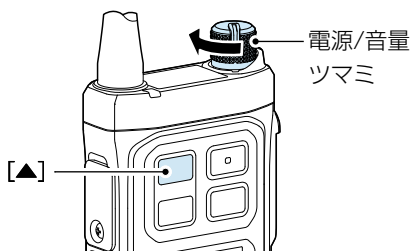
6 各種機能の設定

■設定モードに移行するには

◇設定モードの移行操作

電源を切った状態で、[▲]を押しながら電源を入れます。

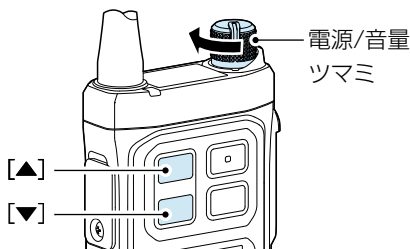
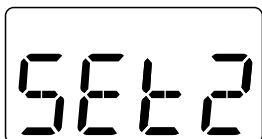
- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 1」が表示(約1秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



◇詳細設定モードの移行操作

電源を切った状態で、[▲]と[▼]を押しながら電源を入れます。

- 「ピピッ」と鳴り、「SEt 2」が表示(約1秒)されたあと、設定モードに移行すると、設定名称が表示されます。



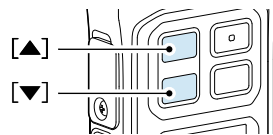
ご参考

ロック機能設定時は、設定モード、詳細設定モードが表示されませんので、ロック機能を解除してください。(P.5-5)

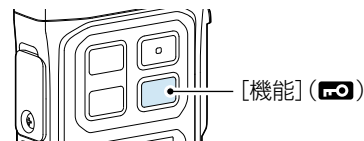
■設定を変更するには

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で設定を変更できます。

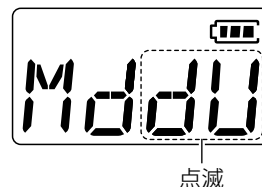
1. [▲]/[▼]を押して、設定する項目を選択します。
 - 最後と最初の項目表示では、「ピピッ」と鳴ります。



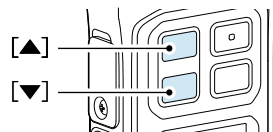
2. [機能] (M-O) を短く押します。



- 設定が変更できる状態となり、設定値が点滅します。



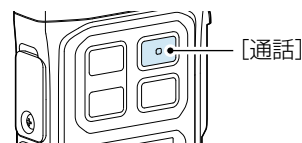
3. [▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。



※ほかの設定項目も変更するときは、[機能] (M-O) を短く押して設定値を確定後に、手順1～3を繰り返します。

※設定値が点滅したままで電源を切ったときは、その項目の設定値は変更されません。

4. 設定を終了するときは、[通話]を押します。



- 設定値が確定され、待ち受け状態に戻ります。

※各設定項目については、次ページで説明しています。

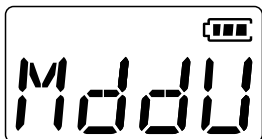
6 各種機能の設定

■ 設定項目

通話モード (初期設定：dU)

本製品の通話(通信)モードを設定します。

- SI：交互通話(単信)
- dU：2者同時通話(複信)
- 3：3者同時通話
- 4：4者同時通話
- 6：6者同時通話
- SE：中継交互通話(半複信)
- RP：中継装置
- tO：送信専用



※「RP」(中継装置)、「tO」(送信専用)以外は、通話相手と同じ通話モードに設定します。

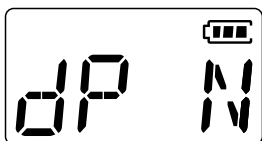
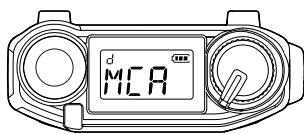
※「RP」(中継装置)は、「SE」(中継交互通話(半複信))用のレピータとして運用できます。

※「tO」(送信専用)に設定したときは、受信機として半複信モードに設定された弊社製無線機(IC-4350/IC-4400/IC-4120など)を使用できます。

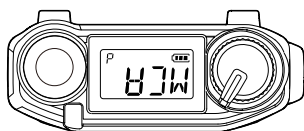
反転表示 (初期設定：N)

本製品を腰などにかけたとき、表示部に表示される内容を、上下反転させて見やすくします。

- N：反転しない



- R：反転する



マイク感度 (初期設定：3)

本製品のコネクタに接続されたマイクの感度を設定します。

- 選択範囲：1(低)～5(高)



※周囲の騒音が大きい場所の場合

低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

※周囲の雑音小さい場所の場合

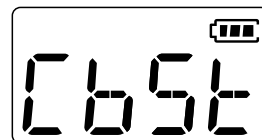
高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

※Bluetooth接続のマイクを使用している場合は、Bluetoothオプション(P.5-3)で設定できます。

接続ケーブル (初期設定：St)

マイクロホンの接続ケーブル(別売品)に取り付けられたマイクスイッチの動作を有効にすると設定します。

- St：本製品の「通話」の動作を有効にする
※OPC-661(接続ケーブル：(マイクスイッチなし))を接続するとき選択します。



- SW：本製品の「通話」の動作を無効にする
※OPC-636/OPC-2277/VS-2SJ(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)を接続するとき選択します。
※設定を終了するときの「通話」操作は有効です。

送信出力切り替え

(初期設定：1mW(dU、tO時)、10mW(SE、RP時))
送信出力を切り替えます。

- 1：1mW
- 10：10mW



※通話(通信)モード(表示：Md)の設定が「dU」(2者同時通話(複信))、「tO」(送信専用)の場合は、全チャンネル(Ch01～Ch27)で有効な設定です。

なお、「dU」(2者同時通話(複信))モードでCh01～Ch18を使用する場合は、送信出力の設定が異なる相手との通話はできません。また、Ch19～Ch27を使用する場合は、送信出力の設定が異なる相手とも通話はできますが、通話相手となるすべての無線機で同じ送信出力★に設定することを推奨します。

※通話(通信)モード(表示：Md)の設定が「SE」(中継交互通話(半複信))、「RP」(中継装置)の場合は、Ch01～Ch18に設定したときに有効な設定です。

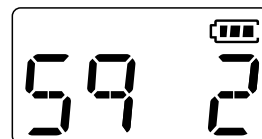
通話相手となるすべての無線機で同じ送信出力★に設定することを推奨します。

★送信出力の設定が異なる場合、10mW側は連続通話時間が最大3分に制限されたり、通話距離が異なるため通信が不安定になったりする場合があります。

スケルチレベル (初期設定：2)

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチレベルを設定します。

- 選択範囲：0(オープン)、1(浅い)～5(深い)



※通話(通信)モード(表示：Md)を「tO」(送信専用)以外に設定したとき有効な機能です。

※設定値が小さい(浅い)ときは弱い信号でも受信できますが、設定値が大きい(深い)ときは強い信号だけを受信します。

6 各種機能の設定

■ 設定項目

複信時の個別呼び出し (初期設定：oF)
グループに所属する複数の相手の中から、呼び出したい相手だけを個別に呼び出すとき設定します。

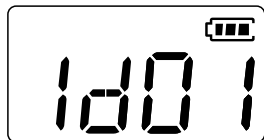
- oF : 使用しない
- on : 使用する



※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))に設定したとき有効な設定です。

自局番号 (初期設定：01)
複信時の個別呼び出しで使用する無線機に割り当てる個別番号(2桁)の設定です。

- 選択範囲：01～99



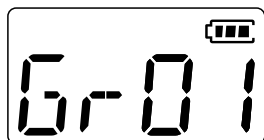
※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))、複信時の個別呼び出し(表示：lc)を「on」に設定したとき表示される項目です。

※設定した自局番号は、個別呼び出しを受けた相手の無線機に表示されます。

※設定した自局番号と異なる番号への呼び出しには、着信しません。

自局グループ番号 (初期設定：01)
グループ呼び出しで使用する無線機に割り当てる自局グループ番号の設定です。

- 選択範囲：00～99



※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))、「3」(3者同時通話)、「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)に設定したとき有効な設定です。

※通話相手と同じグループ番号に設定された相手と通話できません。

※通話(通信)モード(表示：Md)を「3」(3者同時通話)、「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)に設定したときは、自局グループ番号が異なる相手とは通話できません。
自局と異なるグループ番号の選択には、通話相手のグループ番号を呼び出し先グループ番号に追加する必要がありますので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

疑似3者通話 (初期設定：oF)
親機(呼び出した局)と子機(応答した局)の通話を、通話エリア内のほかの子機でも聞けるようにするとき、呼び出しに使用する無線機(親機)に設定します。

- oF : 通話エリア内のほかの子機は、親機の通話内容だけが聞ける
- on : 通話エリア内のほかの子機は、親機と子機の通話内容が聞ける

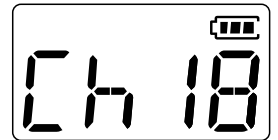


※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))に設定したとき有効な設定です。

※1対N(複数)同時通話(表示：ln)が、「n」に設定された無線機で使用できます。

複信チャンネル (初期設定：18)
選択できるチャンネル数の設定です。

- 18 : Ch01～Ch18、MCA
- 27 : Ch01～Ch27、MCA
- M : MCA



※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))に設定したとき有効な設定です。

※複信時の個別呼び出し(表示：lc)が「on」に設定されているときは、この設定に関わらず、MCAで動作します。

1対N(複数)同時通話 (初期設定：1)
特定の人(1対1)とだけ同時通話するか、複数の人(1対N)が一斉に呼び出されたとき、応答した人とだけ同時通話するかを設定します。

- 1 : 1対1(ペア)同時通話
- n : 1対N(複数)同時通話



※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))に設定したとき有効な設定です。

※1対N(複数)同時通話では、応答した人が通話を切るまで、グループのほかの人は応答できません。

※通話相手となるすべての無線機と同じ設定にしてください。
設定が異なる相手とは、通話できません。

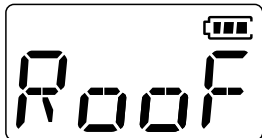
6 各種機能の設定

■ 設定項目

受信専用 (初期設定：oF)

本製品を受信専用にする設定です。

- oF：受信専用にしない
- on：受信専用にする



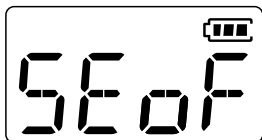
※通話(通信)モード(表示：Md)を「RP」(中継装置)、「tO」(送信専用)以外に設定したとき有効な機能です。

※「dU」(2者同時通話(複信))、「3」(3者同時通話)、「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)モードで使用している場合、呼び出しを受けても、他局(受信専用が設定されていない本製品)が応答するまで、受信状態になりません。

秘話機能 (初期設定：oF)

ほかの相手に、通話内容を聞かれないようにする機能の設定です。

- oF：使用しない
- on：使用する



※通話(通信)モード(表示：Md)を「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)以外に設定したとき有効な機能です。

※通話するすべての無線機に、秘話機能を設定してください。

※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できません。

秘話コード (初期設定：14)

秘話機能で通話する相手の無線機と同じ秘話コードを設定します。

- 選択範囲：01～16



※秘話機能の設定が「on」のとき表示されます。

※通話するすべての無線機に同じ秘話コードを設定してください。

※秘話コードは、工場出荷時の値から変更して使用することをおすすめします。

コンパンダ (初期設定：AU)

音声のめいりょう度を上げる機能の設定です。

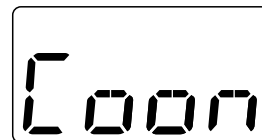
- AU：自局の通話(通信)モードに応じて、初期設定を自動(oF/on)で適用する



※自局の通話(通信)モードが交互通話(単信)、中継交互通話(半複信)、中継装置、送信専用のいずれかで動作する場合は「oF」、2者同時通話(複信)、3者同時通話、4者同時通話、6者同時通話で動作する場合は「on」で動作します。

- oF：動作しない
- on：動作する

※「on」に設定したときは、電源を入れた直後、右図のように表示されます。



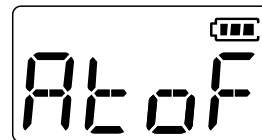
※交互通話(単信)、中継交互通話(半複信)、中継装置、送信専用のいずれかの通話(通信)モードで、グループ番号(CTCSS：01～38)で通話している場合、受信しているあいだのノイズが気になる場合は、「on」に設定してご使用ください。

※通話相手となるすべての無線機と同じ設定にしてください。

オートパワーオフ (初期設定：oF)

待ち受け状態で何も操作しない状態(音量調整を除く)がつづくとき、オフタイマーが開始され、自動的に本製品の電源が切れる時間を設定します。

- oF：使用しない
- 1H：1時間後に切る
- 2H：2時間後に切る
- 4H：4時間後に切る
- 8H：8時間後に切る



※通話(通信)モード(表示：Md)を「RP」(中継装置)以外に設定したとき有効な機能です。

※オフタイマーが動作中に、呼び出しを受けたり、途中で操作(音量調整を除く)したりすると、時間をリセットしてオフタイマーを再開します。

6 各種機能の設定

■ 設定項目

自動再接続 (初期設定：on)
電波が届かなくなったなどで、通話が切れたり、連続通話時間(3分間)の制限により通話が切れたりしたとき、2秒後に、自動で再接続する設定です。

- oF : 使用しない
- on : 使用する



※本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))、「3」(3者同時通話)、「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)に設定したとき有効な設定です。

パワーON自動接続 (初期設定：oF)
本製品の電源を入れるだけで、通話相手を自動で呼び出して接続するとき設定します。

- oF : 使用しない
- on : 使用する



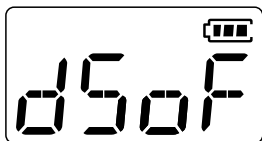
※特定の人(1対1)とだけ同時通話するような場合などに使用します。

※通話(通信)モード(表示：Md)を「dU」(2者同時通話(複信))、「3」(3者同時通話)に設定したとき有効な設定です。

※「3」(3者同時通話)のときは、親機として動作する本製品だけが動作します。

チャンネル非表示 (初期設定：oF)
何も操作しない(音量調整操作を除く)状態が5秒経過すると、電池残量表示だけに切り替わる設定です。

- oF : 動作しない
- on : 動作する



※[▼]、[▲]、[機能] (機能) のいずれかを押すと、元の表示に戻ります。

※[通話]や音量調整の操作、受信状態では元の表示に戻りません。

LCDバックライト (初期設定：on)
[▼]、[▲]、[機能] (機能) のいずれかを押す、または電源を入れたとき、表示部の照明を自動点灯させる設定です。

- oF : 自動点灯しない(常に消灯)
- on : 自動点灯する



※[通話]や音量調整の操作では、自動点灯しません。

※何も操作しない状態で5秒経過すると、消灯します。

状態表示ランプ (初期設定：on)
本製品の状態表示ランプの発光(赤/緑/橙)を抑えたい場所で使用するときなど、強制的に消灯させる設定です。

- oF : 点灯しない(常に消灯)
- on : 点灯する



※充電中は、設定に関わらず発光(青)します。

オートロック (初期設定：oF)
何も操作しない(音量調整操作を除く)状態が30秒経過すると、自動的に本製品の[通話]以外の操作を無効にする設定です。

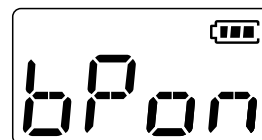
- oF : 使用しない
- on : 使用する



※オートロックまでの時間を変更されたい場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

ビープ機能切り替え (初期設定：on)
キー操作や通話ビープ、ブザー設定のなどのビープを同時に無効にする設定です。

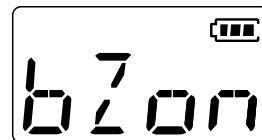
- oF : 無効にする
- on : 有効にする



※すべてのビープを鳴らさないときは、「of」にします。

ブザー設定 (初期設定：on)
[▼]、[▲]、[機能] (機能) のいずれかを押したときのビープ音(操作音など)を鳴らさないようにする設定です。

- oF : 鳴らさない
- on : 鳴らす



※設定できるのは、ビープ機能切り替えの設定が「on」のときです。

※「oF」に設定すると、キーがロックなどの操作禁止音は、本製品からは聞こえませんが、接続されているイヤホンには聞こえます。

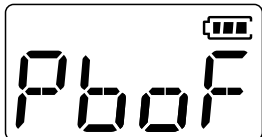
6 各種機能の設定

■ 設定項目

ポケットビープ (初期設定：oF)

呼び出しを受けたとき、着信音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。

- oF : ポケットビープを鳴らさない
- b1 : 「ピロピロ」音が30回連続で鳴る
- b2 : 「ピロピロ」音が3回連続で鳴る
- b3 : 「ピロピロ」音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに同じ音で1回鳴る
- b4 : 「ピロピロ」音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに同じ音で1回鳴る



※設定できるのは、ビープ機能切り替えの設定が「on」のときで、本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)の設定によって有効になる条件が異なります。

- ◎「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))に設定したとき有効な機能です。
- ◎「dU」(2者同時通話(複信))、「3」(3者同時通話)に設定したときは、お買い上げの販売店で、着信表示機能が有効に設定されているときだけ有効になる機能です。

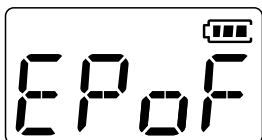
※「dU」(2者同時通話(複信))で使用时、1対N(複数)同時通話で通信する本製品で使用できます。

※呼び出した相手が通話を切ったあとも、ポケットビープを継続します。
どれか1つキーを押すと、ポケットビープを停止します。

終話ビープ (初期設定：oF)

送信が終了したことを通話相手にビープ音で知らせるための設定です。

- oF : 送信が終了しても、通話相手にビープ音を鳴らさない
- on : 送信が終了すると、通話相手にビープ音を「ピッ」と鳴らす

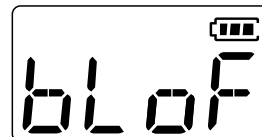


※本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

ベル音設定 (初期設定：oF)

呼び出しベル機能で送出するベル音を10種類の中から設定します。

- 選択範囲：oF、01～10



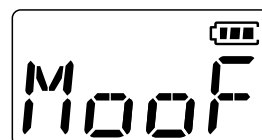
※通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

※設定したベル音の送出操作は、「呼び出しベル機能」をご覧ください。(P.5-7)

モニター機能 (初期設定：oF)

本製品に接続しているイヤホンで、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するときなどに使用する設定です。

- oF : 使用しない
- on : 使用する



※通話(通信)モード(表示：Md)を「tO」(送信専用)以外に設定したとき有効な機能です。

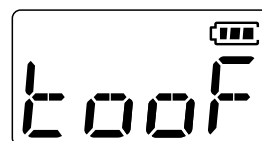
※「on」に設定しているあいだけ音が出て、状態表示ランプが緑色に点灯します。

※ほかの設定項目のような設定値ではありませんので、[機能] (Fn) を押すか、ほかの設定項目に移動すると、「oF」に戻ります。

送信音モニター (初期設定：oF)

本製品を通話状態にして発声したとき、自身の音声が発着されたイヤホンから聞こえるようにする設定です。

- oF : 使用しない
- on : 使用する



※「on」にすると、自身の音声が発着されたマイク(別売品)から正しく入力されているかを確認できます。

※本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

※通話(通信)モード(表示：Md)が「dU」(2者同時通話(複信))で、1対N(複数)同時通話(表示：In)を「n」に設定された子機、またはグループや全体呼び出しされた子機、「3」(3者同時通話)の子機、「4」、「6」(多者同時通話(4者/6者))、「RP」(中継装置)の場合は動作しません。(P.6-1、P.6-2)

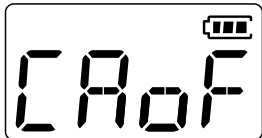
6 各種機能の設定

■ 設定項目

断線検出 (初期設定：oF)

電源を入れたとき、ヘッドセット(別売品)のスピーカー一部が断線していないかを確認する機能の設定です。

- oF : 使用しない
- on : 使用する

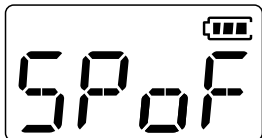


※断線が検出されると、「SPER」を表示(約1秒)後、通常表示に戻ります。

中継装置スピーカー出力設定 (初期設定：oF)

通話(通信)モードが「RP」(中継装置)に設定された本製品から受信した音声を出力するときの設定です。

- oF : 使用しない
- ot : 本製品のコネクタに接続したイヤホン(別売品)から出力する
- bt : 本製品とBluetooth接続されたヘッドセット(別売品)から出力する
- bo : 本製品のコネクタ、およびBluetoothで接続されたイヤホンから出力する

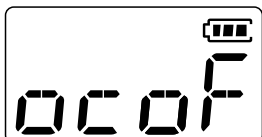


VOX機能 (初期設定：oF)

本製品の「通話」を押さなくても、接続されたマイクからの音声によって送受信を自動的に切り替える設定です。

話すのをやめると、受信に切り替わります。

- oF : 使用しない
- ot : 本製品に接続したマイク(別売品)でVOX機能を使用する



- bt : BluetoothヘッドセットでVOX機能を使用する

※本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

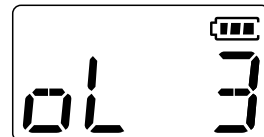
※VOX機能を設定した場合、無線機本体に衝撃が加わると、通話状態になることがあります。故障ではありません。

VOX感度 (初期設定：3)

感度を高く設定(数値を大きく)すると、小さな声で通話状態になりますが、周囲の雑音でも通話状態になりやすくなります。

感度を低く設定(数値を小さく)すると、周囲の雑音では通話状態になりにくくなりますが、通話状態にするには大きな声で話す必要があります。

- 選択範囲：1～5



※本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

VOXディレイタイマー (初期設定：3)

VOX機能使用時に、発声を止めてから、待ち受け受信状態に切り替わるまでの時間を設定します。

時間を長く設定すると、発声が途切れた場合でも送信をつづけますが、受信状態になるまでの時間が長くなります。

- 1 : 0.1秒
- 2 : 0.2秒
- 3 : 0.5秒
- 4 : 1秒
- 5 : 2秒

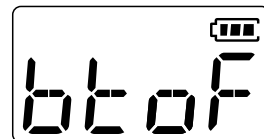


※本製品(送信側)の通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

Bluetooth機能 (初期設定：oF)

本製品をペアリングモードに移行する操作を許可する設定です。

- oF : 操作を許可しない
- on : 操作を許可する



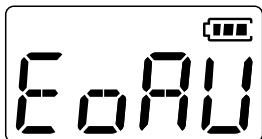
※「on」にすると、本製品の電源を切った状態で、「機能」(機能アイコン)を押しながら電源を入れる操作(ペアリングモードに移行)ができます。(P.5-2)

6 各種機能の設定

■ 設定項目

外部電源 (初期設定：AU)
マイクロホンとイヤホンの接続にも使用する無線機側面のコネクタ(P.1-2)にある外部電源端子(出力電圧の初期値)を設定します。

- oF : GND(OV:外部電源OFF)になる
- on : +3Vが出力される



- AU : 外部電源が必要なケーブル(別売品のVS-2SJやOPC-2277など)が接続されているときは「on」(+3V)、接続されていないときは、「oF」(OV)に自動設定される

※お買い上げの販売店で設定した時間が経過すると、外部電源が必要なケーブルが接続されていても、「oF」(OV)になります。

ご注意

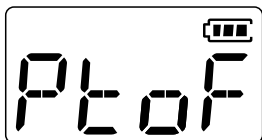
外部電源端子の出力電圧がお買い上げの販売店で設定した時間が経過後に切り替わっても、本製品の電源を入れなおすと、「外部電源」で設定した設定値に戻ります。

ワンタッチPTT (初期設定：oF)

[通話]を押すごとに、送信と受信が切り替わるようにする設定です。

交互通話のときなど、[通話]を押しながら発声する必要がありません。

- oF : 使用しない
- on : 使用する



※通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「SE」(中継交互通話(半複信))、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

ご参考：下記の通話(通信)モードでは、ワンタッチPTTの設定にかかわらず下記の動作となります。

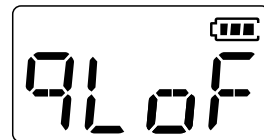
- ◎ 多者同時通話(3者/4者/6者)の場合
[通話]を短く押すと送信に切り替わり、長く押すと受信に切り替わります。
- ◎ 中継装置モードの場合
[通話]を押しているあいだ送信、はなすと受信に切り替わります。

一時音量切り替え機能 (初期設定：oF)

電源/音量ツマミで設定した音量を基準として、一時的な受信音量の変化量を設定します。

周囲の状況に応じて、聞き取りやすくなる変化量に調整します。

- 選択範囲：-3~-1、oF、1~3



※通話(通信)モード(表示：Md)を「RP」(中継装置)、「tO」(送信専用)以外に設定したとき有効な機能です。

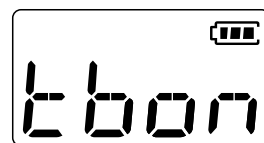
※操作時のピープ音は、変化しません。

※操作方法は、「一時音量切り替え機能」(P.5-7)をご覧ください。

トーンバースト (初期設定：on)

こちらが[通話]をはなして受信状態に戻ったとき、通話相手のイヤホンから「ザッ」というノイズ(雑音)が一瞬間こえるのを抑える機能です。

- oF : 使用しない
- on : 使用する

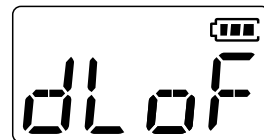


※通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「3」(3者同時通話)、「SE」(中継交互通話(半複信))、「RP」(中継装置)、「tO」(送信専用)に設定したとき有効な機能です。

CTCSS一致時間遅延 (初期設定：oF)

グループ番号(CTCSS：01~38)が一致する信号を受信したとき、トーンスケルチが開くまでの時間を遅らせ、ノイズが多い環境でもスケルチのバタつきを抑制するとき設定します。

- oF : トーンスケルチが開く時間を遅らせない
- on : トーンスケルチが開く時間を遅らせる



※音声途切れそうになりながらもスケルチが開いて受信できていた環境で使用すると、受信できなくなることがあります。

※通話(通信)モード(表示：Md)を「SI」(交互通話(単信))、「3」(3者同時通話)、「SE」(中継交互通話(半複信))、「RP」(中継装置)に設定したとき有効な機能です。

6 各種機能の設定

■ 設定項目

ハングアップ時間 (初期設定：0)

通話(通信)モードが「RP」(中継装置)に設定された本製品で信号を受信時、信号が途切れた状態でも送信(中継)を継続する時間を設定します。

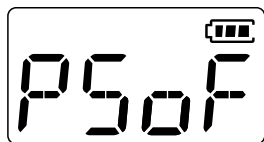
- 0 : 0秒
- 1 : 1秒
- 3 : 3秒
- 5 : 5秒



パワーセーブ (初期設定：oF)

電池の消耗を抑えるパワーセーブ機能を動作させるときに設定します。

- oF : 使用しない
- Ec : エコモードで使用する
- on : 使用する



※「on」に設定すると、待ち受け状態で何も操作しない状態が3秒を超えると動作します。

※「Ec」は、休止時間が「on」より約4倍長くなります。

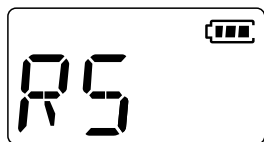
※通話(通信)モード(表示：Md)を、「4」(4者同時通話)、「6」(6者同時通話)、「RP」(中継装置)以外に設定したとき有効な機能です。

レストア

あらかじめ各設定を本製品に保存することで、本製品の設定を工場出荷時の状態に戻す操作(リセット)をしても、レストア操作で復元するときに使用します。

[機能] (🔊) を短く押すと、選択肢が表示(点滅)されます。

- SA : 各設定値を本製品に保存や上書きをする
- Ld : 各設定値が復元される
- dE : 本製品に保存した各設定値を消去する



※[▼]、[▲]を押して、「SA」(保存)、「Ld」(復元)、「dE」(消去)のいずれかを選択し、「ビピッ」と鳴るまで[機能] (🔊) を長く押すと実行されます。

※レストアで選択できるのは、レストア内容の選択肢(SA、Ld、dE)で、ほかの設定項目のような設定値ではありません。

7 別売品とその使いかた

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をご使用ください。弊社指定以外の別売品を使用された場合に生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■別売品一覧

本製品の別売品は、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

バッテリー関係

- BP-319★¹ : リチウムイオンバッテリーパック(付属品と同一)
BP-318★² : アルカリ乾電池ケース(単3形乾電池×2本用)

充電する

- BC-275 : 連結可能充電器(USB出力ポート付き)
BC-216 : ACアダプター(BC-275単体用の電源)
BC-228 : ACアダプター(BC-275同士連結時の電源)
BC-258 : ACアダプター(USB Type-A : DC5V/2A)
※OPC-2480と併せてご用意ください。
※BC-275のACアダプターには使用できません。
OPC-2480 : USBケーブル(Type-A to Type-C : 1m、2A)
※BC-258を使用したUSB給電用

無線機を保護する

- LC-206 : キャリングケース(付属品と同一)

肩にかける

- MB-57L : ショルダーストラップ
※キャリングケース(LC-206)と併用できます。

腰にかける

- MB-96FL : ベルトハンガー(革製)
※MB-104Aと併せてご用意ください。
MB-104A : ベルトクリップ
※キャリングケース(LC-206)と併用できません。

スピーカー関係

- EH-11 : イヤーパッド型スピーカー(プラグ : φ2.5mm)
※HS-92と併せてご用意ください。

イヤホン関係

- EH-13 : 耳かけ型イヤホン(プラグ : φ2.5mm)
※HS-92、HM-123、HM-149のいずれかでのご使用ができます。
EH-14 : オープンエア型イヤホン(プラグ : φ2.5mm)
※HM-104、HM-104A、HM-123、HM-149、HM-163Aのいずれかでのご使用ができます。
EH-15 : イヤホン(灰色、プラグ : φ2.5mm)
※EH-15Bは、黒色です。
※HM-104、HM-104A、HM-149、HM-163Aのいずれかでのご使用ができます。

マイクロホン/ヘッドセット関係

- VS-2SJ★³ : VOXユニット
※7-7ページと併せてご覧ください。
HS-94★⁴ : イヤーフック型ヘッドセット
HS-95★⁴ : ネックアーム型ヘッドセット
HS-97★⁴ : 咽喉マイクロホン
HS-99★⁴ : 耳かけ式イヤホンマイクロホン
HM-104 : 単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
※EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれか、およびOPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでご使用できます。
HM-123 : 本体取り付け型マイクロホン(EH-15B付属)
※7-6ページと併せてご覧ください。
HM-149★⁵ : タイピン型マイクロホン(防水コネクタ付き)
※EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれかでご使用できます。
HM-163A★⁵ : 接話タイピン型マイクロホン(防水コネクタ/金属取り付けクリップ付き)
※7-6ページと併せてご覧ください。
HS-88A : ヘッドセット
※OPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでご使用できます。
HS-92 : ヘルメット取り付け型マイクロホン(ワニ口クリップでヘルメットに固定)
※7-8ページと併せてご覧ください。
OPC-636★⁷ : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック式)
※7-7ページと併せてご覧ください。
OPC-661★⁷ : 接続ケーブル(マイクスイッチなし)
※7-7ページと併せてご覧ください。
OPC-2277★^{6★7} : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル

- ★1 : IP67の防塵/防水性能があります。
★2 : IP54の防塵/防水性能があります。
★3 : IPX4の防水性能があります。
★4 : VS-2SJと併せてご用意ください。(P.7-7)
★5 : IPX7の防水性能(コネクタ部分のみ)があります。
★6 : IP54の防塵/防水性能(スイッチ部分のみ)があります。
★7 : HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかと併せてご用意ください。

※防塵/防水性能の説明は、「IP表記」(P.iv)をご覧ください。
※別売品を組み合わせて使用したときは、防塵/防水性能の低いものに制限されます。

7 別売品とその使いかた

■ 運用時間と充電時間の目安

下記の運用時間や充電時間は目安です。
ご使用になる通話(通信)モードや充電機器などによって異なります。

BP-319(リチウムイオンバッテリーパック)

電池の種類	リチウムイオン、【11NR19/50】
電池の容量	2200mAh min.(2350mAh typ.)
出力電圧	3.6V
運用時間	約16時間30分 【条件】2者同時通話(複信)モード、 連続通話(送信出力1mW)時
充電時間★	約3時間30分 【条件】周囲温度：25℃ 充電機器：BC-258にOPC-2480を 接続して使用時
	約2時間10分 【条件】周囲温度：25℃ 充電機器：BC-275(BC-216)使用時

★充電時間は、バッテリーパックの残量がなく、本製品の電源を切った状態、または無線機からBP-319をはずして充電した場合です。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパックの特性と寿命

- ◎ バッテリーパックは、消耗品です。
充電できる回数は、300回～500回が目安です。
- ◎ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎ 劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。
- ◎ 充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。
無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。

電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

◎ バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。

なお、満充電した直後に再充電しないでください。

◎ 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。長期間バッテリーパックを保管する場合は、残量表示がの状態になるまで使用し、無線機から取りはずした状態で保管してください。

◎ 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電機器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。

以下の充電機器は、次の環境下での充電を推奨します。

BC-275(連結可能充電器)：10～40℃

BC-258(OPC-2480接続)：10～40℃

◎ 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

■ バッテリーパックの膨張

下記のような環境や条件で使用をつづけるとバッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

- ◎ 頻繁に充電している
- ◎ 満充電直後でも再充電している
- ◎ 高温な場所で使用・保管している
- ◎ 本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命です。使用を中止し、新しいものと交換してください。

7 別売品とその使いかた

■ 充電のしかた

お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上使用しなかったときは必ず充電してください。

△ 危険

- ◎ 指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
- ◎ バッテリーパックを充電するときは、必ず本製品に対応した充電機器(本書や弊社ホームページに掲載)をご使用ください。
- ◎ 指定以外のACアダプターやUSBケーブルを充電機器に接続しないでください。
- ◎ 指定以外の充電機器を使用しないでください。

△ 警告

無線機本体やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。
無線機やバッテリーパック、または充電機器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電すると、充電完了後すぐに充電が再開されることがありますが、故障ではありません。

◇ BC-258(ACアダプター)で充電するには

バッテリーパック(付属品)を無線機に装着した状態で充電します。

充電中、状態表示ランプは青色に点灯、充電が完了すると消灯します。

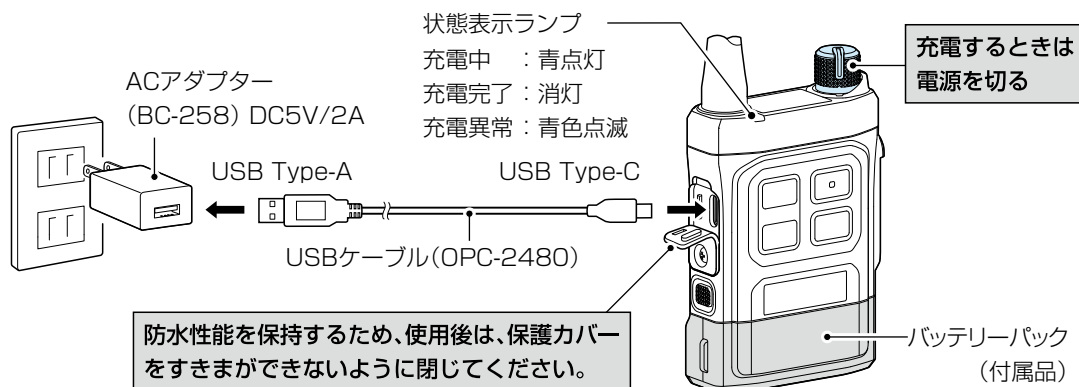
※状態表示ランプが青色点滅(充電異常時)したときは、下図の接続を確認し、充電しなおしてください。

※ACアダプターと無線機をUSBケーブル(OPC-2480)で接続してください。

電力の供給能力が低いACアダプター、パソコンのUSBポートなどに接続すると、充電できないことがあります。

※充電中の運用はできません。ACアダプターを接続して運用するときは、バッテリーパックを取りはずしてください。

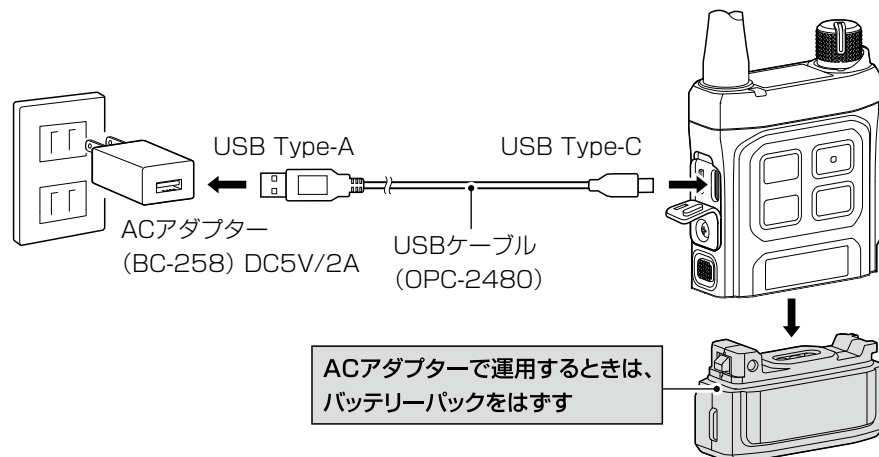
※ACアダプターを使用しないときは、ACコンセントから抜いてください。



◎ 給電しながら運用するときは

運用中の充電はできませんので、バッテリーパック(付属品)を取りはずした状態で、ACアダプターと無線機をUSBケーブル(OPC-2480)で接続してください。

※電力の供給能力が低いACアダプター、パソコンのUSBポートなどに接続して運用すると、送信時に電源が切れることがあります。



7 別売品とその使いかた

■ 充電のしかた

◇ BC-275(連結可能充電器)を1台で充電するには

充電中は充電ランプが青色に点灯し、消灯すると充電完了です。

下図のように、ACアダプター(BC-216)をBC-275に使用する場合は、バッテリーパック(BP-319)を単体、または無線機に装着した状態で、充電器に差し込んでください。

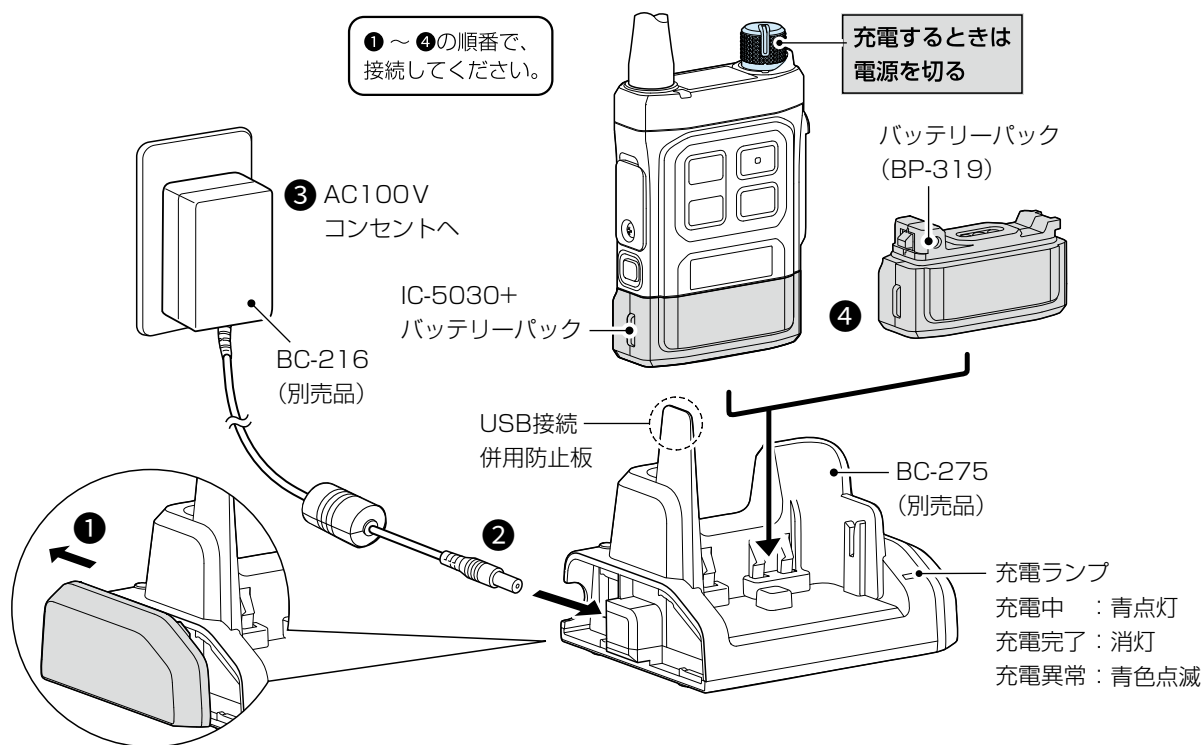
※複数のバッテリーパック(最大4個)を同時に充電する場合は、BC-228(ACアダプター)が必要です。

BC-228を使用したBC-275との接続や充電器の連結方法は、7-5 ページをご覧ください。

※状態表示ランプが青色点滅(充電異常時)したときは、下図の接続を確認し、充電しなおしてください。

※充電後は、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

※USB接続併用防止板により、バッテリーパックを装着した無線機を充電器に差し込んだ状態で、USBケーブル(OPC-2480)を無線機本体のUSBポートに接続できない構造になっています。



◎ マイクハンガーの使いかた

付属のマイクハンガーは、充電器後部の穴へ右図の矢印の方向に差し込みます。

※充電中は、本製品に接続されたマイクロホン(例: HM-149)とイヤホン(例: EH-15)のハンガーとして使用できます。

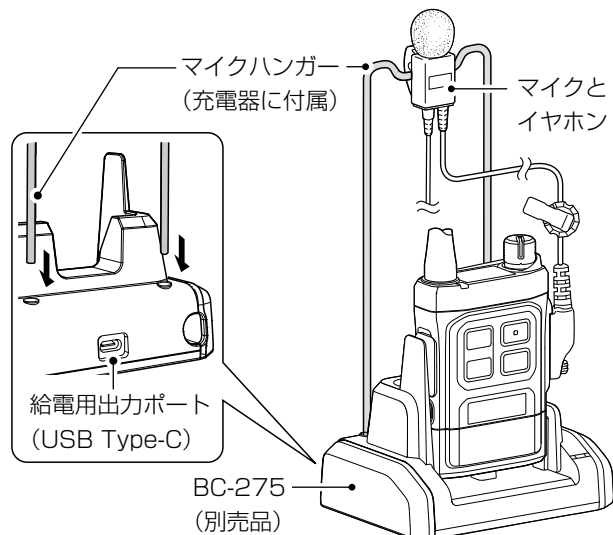
◎ 給電用出力ポートの使いかた

Bluetoothヘッドセットなどの外部機器の充電に使用できる給電用出力(USB Type-C、DC5V/0.5A)ポートです。

△ 注意

次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- ◎ 電力の供給能力が不足するため、バッテリーパックを無線機に装着して充電したり、無線機へ電源供給したりしないでください。
- ◎ 給電用出力ポートには、パソコンやACアダプター(別売品: BC-258)を接続しないでください。



7 別売品とその使いかた

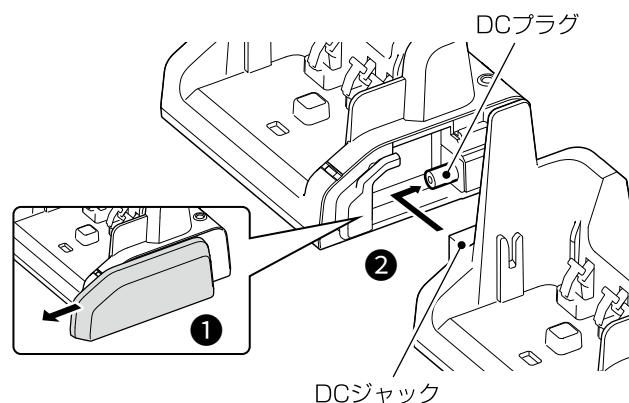
■ 充電のしかた

◇ BC-275(連結可能充電器)を連結して充電するには

下図のように、BC-275のACアダプターにBC-228を接続することで、最大4台まで連結して同時に充電できます。
充電器を連結してから、バッテリーパック(付属品)を単体、または無線機に装着した状態で、充電器に差し込んでください。
※USB接続併用防止板により、バッテリーパックを装着した無線機を充電器に差し込んだ状態で、USBケーブル(OPC-2480)を無線機本体のUSBポートに接続できない構造になっています。(P.7-3)

【連結のしかた】

1. 充電器右側面のカバーを取りはずします。(①)
2. 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。(②)



△ 警告

下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、故障の原因になります。

BC-275を5台以上連結して充電しないでください。

◎ BC-275を連結できるのは、4台までです。

※5台以上連結して充電しないでください。

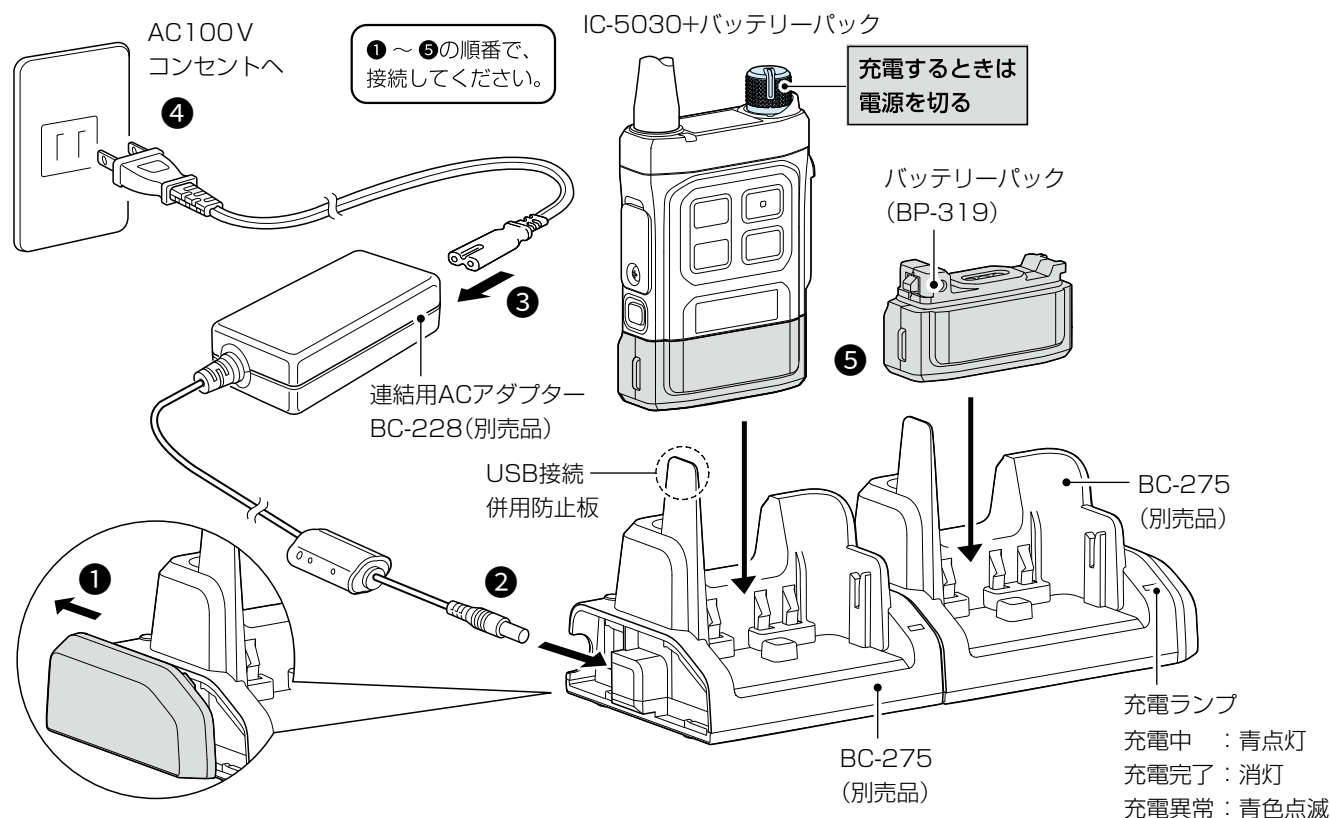
◎ BC-275を複数台連結する場合、電源は必ず連結用ACアダプターBC-228をご使用ください。

【連結充電のしかた】

充電中は充電ランプが青色に点灯し、消灯すると充電完了です。

※状態表示ランプが青色点滅(充電異常時)したときは、下図の接続を確認し、充電しなおしてください。

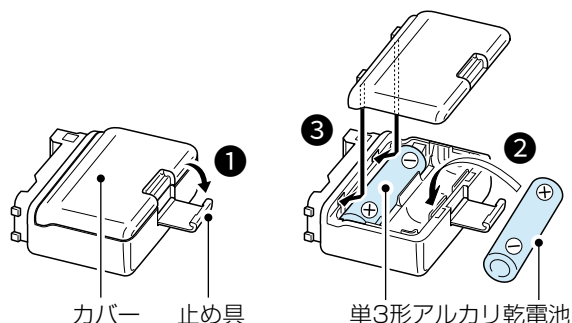
※充電後は、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。



7 別売品とその使いかた

■BP-318(アルカリ乾電池ケース)

下図を参考に、単3形アルカリ乾電池(2本)をアルカリ乾電池ケースに入れたあと、カバーを止め具で固定します。



◇アルカリ乾電池ケースの正しい使いかた

△危険

アルカリ乾電池ケース(BP-318)は、単3形アルカリ乾電池専用です。
マンガン乾電池や単3形の充電式電池は、使用しないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

△警告

電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。
破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

△注意

アルカリ乾電池ケースを使用しないときは、アルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

- ◎アルカリ乾電池ケースは、IP54の防塵/防水性能があります。
- ◎単3形アルカリ乾電池の⊕(プラス側)と⊖(マイナス側)の極性を間違えないように入れてください。
- ◎アルカリ乾電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電池が切れます。
- ◎アルカリ乾電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎アルカリ乾電池の種類により、運用時間が異なることがありますので、ご注意ください。
- ◎低温では、使用時間が短くなります。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

◇アルカリ乾電池ケース使用時の運用時間

送信出力	1mW	約10時間30分
【条件】2者同時通話(複信)モード、連続通話状態		

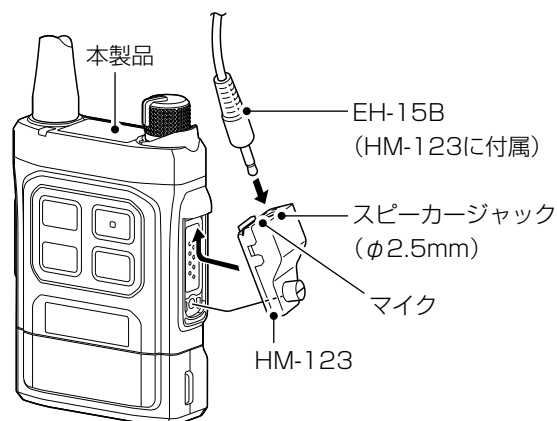
※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。

また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■HM-123(本体取り付け型マイクロホン)

HM-123には、イヤホン(EH-15B)が付属されています。

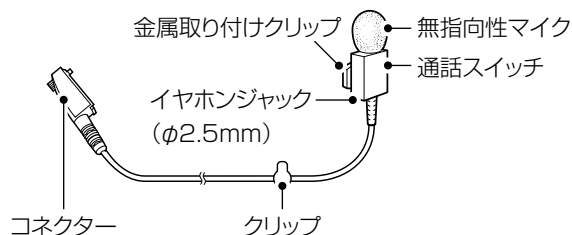
※別売品のEH-13、EH-14でも使用できます。



■HM-163A(接話タイピン型マイクロホン)

無指向性マイク(防水コネクター/金属取り付けクリップ)

※EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれかで使用できます。



7 別売品とその使いかた

■ OPC-636(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)/ OPC-661(接続ケーブル)

HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかで
使用できます。

◎ OPC-636の場合

2者同時通話(複信)モード、交互通話(単信)モード(P.1-4)
に設定された本製品での操作です。

※OPC-636使用時の自動再接続機能やパワーON自動接続機
能の動作については、5-6 ページをご覧ください。

赤色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)ときに使用できます。

- ・  : 押しているあいだけ、呼び出し、または応答で
きる
- ・  : 呼び出した局は、はなすと通話が切れる
応答した局は、はなすと呼び出しを受けたとき
の状態に戻る

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無
効です。

- ・  : 押し込む(入)と、呼び出し、または応答できる
- ・  : 呼び出した局は、出ている(出)と通話が切れる
応答した局は、出ている(出)と呼び出しを受け
たときの状態(状態表示ランプが緑色で点灯)に
戻る

◎ OPC-661の場合

マイクスイッチが付いていない接続ケーブルです。

※通話は、無線機本体の[通話]を使用します。

各通話(通信)モードでの[通話]の操作は、「4章 通話のしか
た」の該当ページをご覧ください。(P.4-1)

■ VS-2SJ(VoXユニット)

2者同時通話(複信)モード、交互通話(単信)モード(P.1-4)
に設定された本製品での操作です。

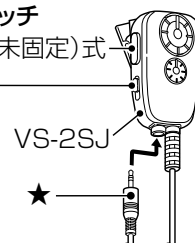
※VS-2SJ使用時の自動再接続機能やパワーON自動接続機能
の動作については、5-6 ページをご覧ください。

※[通話]スイッチ以外の説
明は、VS-2SJに付属の
説明書をご覧ください。

★HS-94、HS-95、HS-97、
HS-99のいずれかを接続
できます。

[通話]スイッチ

ノンロック(未固定)式
スライド式



ノンロック(未固定)式

押しているあいだけ、呼び出し、または応答できます。

※呼び出した局は、はなすと通話が切れます。

応答した局は、はなすと呼び出しを受けたときの状態(状態
表示ランプが緑色で点灯)に戻ります。

スライド式

上にスライドさせると、呼び出し、または応答できます。

※呼び出した局は、スライドを戻すと通話が切れます。

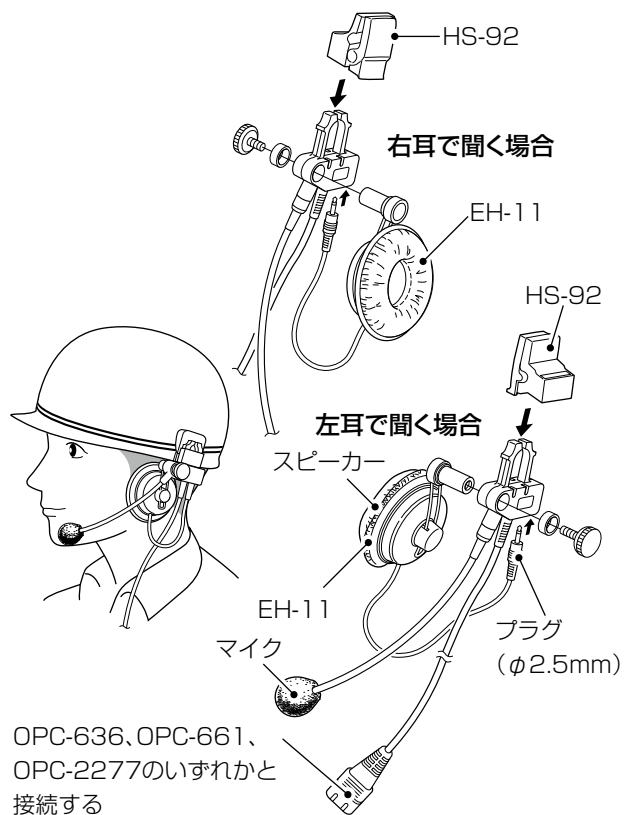
応答した局は、スライドを戻すと呼び出しを受けたときの状
態(状態表示ランプが緑色で点灯)に戻ります。

ご参考：多者同時通話(3者/4者/6者)で通話を切断するには
子機との同時通話を切断するときは、無線機本体の状態表示
ランプが赤色から緑色点灯に変わるまで[通話]を押してくだ
さい。

OPC-636/OPC-2277/Vs-2SJ(マイクスイッチ内蔵型接
続ケーブル)のスイッチが使用できるのは、同時通話中のマ
イクの切り替え(ON/OFF)だけです。

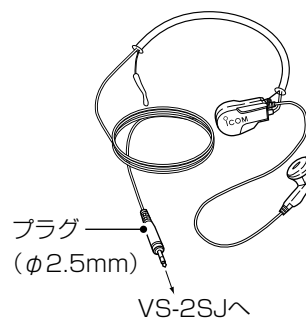
7 別売品とその使いかた

■ HS-92(ヘルメット取り付け型マイクロホン)と EH-11(イヤープッド型スピーカー)の組み立て



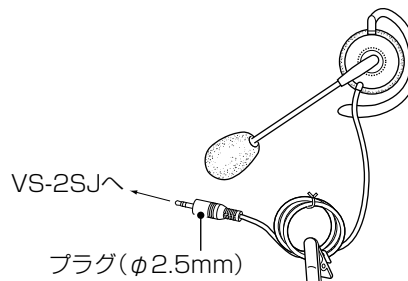
■ HS-97(咽喉マイクロホン)

VS-2SJ(VOXユニット)と併せてご用意ください。



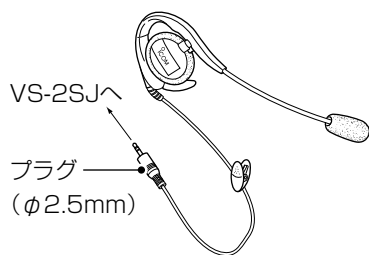
■ HS-99(耳かけ式イヤホンマイクロホン)

VS-2SJ(VOXユニット)と併せてご用意ください。



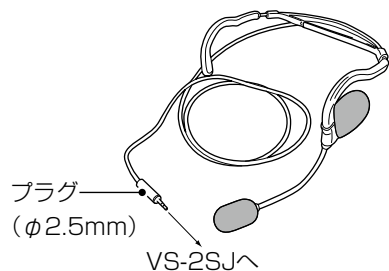
■ HS-94(イヤーフック型ヘッドセット)

VS-2SJ(VOXユニット)と併せてご用意ください。



■ HS-95(ネックアーム型ヘッドセット)

VS-2SJ(VOXユニット)と併せてご用意ください。



■ 日常の保守と点検

- ◎ ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
また、バッテリーパック(BP-319)やアルカリ乾電池ケース(BP-318)を取りはずしたときは、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎ 無線機本体、充電器(BC-275)、バッテリーパック、アルカリ乾電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎ 使用する前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(P.1-3)を確認してください。
また、アルカリ乾電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。
- ◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎ 音量が最小に調整されていないか、確認してください。

■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守

バッテリーパック(BP-319)、保護カバー(USBポート、9ピンコネクター)を正しく取り付けられた状態でIP67の防塵/防水性能があります。

保証期間については、保証書をご覧ください。

この防塵/防水性能を維持するためにも、保証書に記載の保証期間経過後は、定期点検(年1回)の実施をおすすめします。

また、防塵/防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しています。

※定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 従来製品との相互使用

ご使用の弊社製従来機種や通話モード、各種機能の設定によりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

※3者同時通話、4者同時通話、6者同時通話は、弊社製従来機種との互換性がありません。

■ リセット(初期化)のしかた

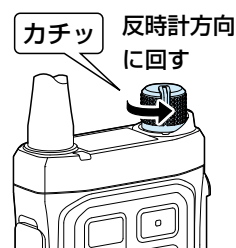
無線機本体から変更できる設定を初期設定に戻すときの操作です。

ご注意: リセット操作の前に

- ◎ レストア(P.6-11)操作をして設定を保存することをおすすめします。
あらかじめ、本製品の設定がお買い上げの販売店で書き込まれている場合は、レストアであらためて設定を上書き保存することなく、お買い上げ時の設定に復元できます。
- ◎ 「Err」が表示され、「ピー」と鳴っているときは、リセット操作をせずに、お買い上げの販売店にご相談ください。
リセット操作をすると、レストアで保存した設定など、すべてが消去され通話できなくなります。

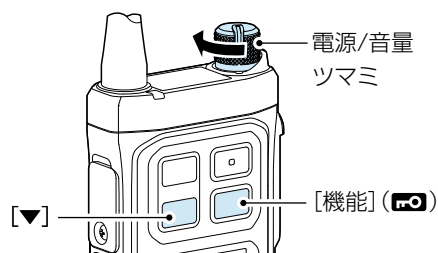
1. 電源を切る

電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

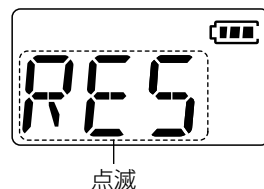


2. リセットモードに移行する

[▼]と[機能] (F)を押しながら電源を入れます。

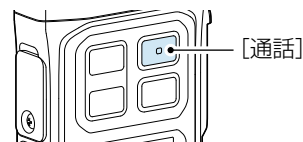


- ・リセットできる状態になり、「RES」が点滅します。



3. リセットする

[通話]を押します。



- ・「ピピッ」と鳴り、「RES」を表示後、再起動されます。

■故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.8-4)までお問い合わせください。

〈現 象〉充電中に連結可能充電器(BC-275)の充電ランプ、または無線機の状態表示ランプが青色点滅になる

※下記の処置で充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

〈原因1〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置：無線機の電源を切った状態で充電する

〈原因2〉乾電池を入れたアルカリ乾電池ケース

(BP-318)を無線機に装着したままで、USBケーブル(OPC-2480)でACアダプター(BC-258)と無線機を接続している

処置：付属のバッテリーパックを無線機に装着する

〈現 象〉連結可能充電器(BC-275)の充電ランプ、または無線機の状態表示ランプが消灯(充電完了)しない

〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置：無線機の電源を切った状態で充電する

〈現 象〉電源が入らない

〈原因1〉アルカリ乾電池の極性を間違えている

処置：アルカリ乾電池ケース(BP-318)に入れた電池の極性を確認して入れなおす

〈原因2〉USBケーブル(OPC-2480)がACアダプター(BC-258)や無線機本体のUSBポートに接続されていない

処置：ACアダプター(BC-258)やUSBポートとの接続を確認する

〈原因3〉バッテリーパック(BP-319)、またはアルカリ乾電池ケースの接触不良

処置：電池端子を清掃する

〈原因4〉バッテリーパックやアルカリ乾電池の消耗

処置：バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ乾電池ケースの場合は新しいアルカリ乾電池と交換する

〈原因5〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している

処置：無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる

〈現 象〉表示部の表示が変化しない

〈原因〉ロック機能が動作している

処置：ロック機能を解除する(P.5-5)

〈現 象〉イヤホンから音が聞こえない

〈原因1〉音量が最小に調整されている

処置：ツマミの位置を確認する(P.1-2)

〈原因2〉無線機のコネクター(接続端子)やイヤホンのプラグとの断線や接触不良

処置：コネクターの接触不良や接続ケーブルの断線を確認する(P.1-2)

〈原因3〉Bluetoothヘッドセットを使用時、本製品とBluetoothで接続されていない

処置：Bluetoothと接続されている場合は、Bluetooth AFレベルオフセットの設定を確認する(P.5-1、P.5-4)

〈現 象〉設定モード/詳細設定モードに移行できない

〈原因〉ロック機能が動作している

処置：ロック機能を解除する(P.5-5)

〈現 象〉リセット(初期化)できない

〈原因〉ロック機能が動作している

処置：ロック機能を解除する(P.5-5)

〈現 象〉設定を復元(レストア)できない

〈原因〉設定を無線機に保存し忘れている

処置：無線機の設定後、レストア機能で設定を保存する(P.6-11)

〈現 象〉送信できない(送信すると、「ブツ」と鳴る)

〈原因1〉通話時間の制限(3分)が過ぎたとき(P.4-24)

処置：約2秒後、もう一度、呼び出しをする

〈原因2〉ほかの局が同じチャンネル番号で送信している

処置：混信防止機能(P.4-24)が動作していますので、他局の通話が終了してから送信するか、チャンネル番号を変更してから送信する

〈原因3〉[通話]を押すと、「OnLy」が表示される

処置：受信専用機能(P.6-6)の設定を「oF」に変更する

■故障かな?と思ったら

〈現象〉通話できない(各通話モード共通)

〈原因1〉相手局が不在、または電源を切っている

処置：相手局の状態を確認する

〈原因2〉相手局と距離がはなれすぎている

処置：場所を移動してから通話する

〈原因3〉相手局と通話モードが異なっている、または通話モードの設定を間違えている

処置：通話モードの設定を確認する(P.3-1)

〈原因4〉相手局が秘話機能を使用している(P.5-6)

処置：秘話機能を設定し、相手局と同じ秘話コードに設定する

〈原因5〉送信専用モードになっている(P.6-4)

処置：相手局と同じ通話モードにする

〈現象〉通話できない(2者同時通話(複信)モード)

〈原因1〉チャンネル番号が相手局と異なっている

処置：チャンネル番号(MCA、Ch01～Ch27)を相手局と同じにする
(P.4-1、P.4-3)

※個別番号選択モードの場合は、相手局の自局番号(MC01～MC99)と同じ個別番号(Sc01～Sc99)を選択する
(P.4-5)

※呼び出し先グループ番号(Gr01～Gr99)が選択できるように設定されている場合は、相手局の自局グループ番号設定と同じ番号を選択する
(P.4-5)

〈原因2〉送信出力の設定が相手局と異なる(P.6-4)

処置：送信出力の設定を同じにする

〈原因3〉1対N(複数)同時通話の設定が相手局と異なる
(P.6-5)

処置：1対N同時通話の設定を同じにする

〈現象〉通話できない(交互通話(単信)モード)

〈原因〉チャンネル番号(01～20)やグループ番号(CTCSS：01～38)が異なっている

処置：相手局と同じ番号にする

(P.4-9、P.4-10)

〈現象〉通話できない(中継交互通話(半複信)モード)

〈原因〉チャンネル番号(01～27)やグループ番号(CTCSS：01～38)が相手局と異なっている

処置：相手局と同じ番号にする

(P.4-12、P.4-13)

〈現象〉中継できない(中継装置モード)

〈原因1〉中継交互通話(半複信)モードの相手局とチャンネル番号(01～27)やグループ番号(CTCSS：01～38)が異なっている

処置：相手局と同じ番号にする

(P.4-12、P.4-13)

〈原因2〉他の中継装置が、本製品と同じチャンネル番号を使用している

処置：他局と異なるチャンネル番号(周波数)に変更する

〈現象〉通話できない(3者同時通話モード)

〈原因1〉チャンネル番号(3-1～3-9)が異なっている

処置：相手局と同じチャンネル番号にして、親機(A)、子機(b、C)の指定は解除する
(P.4-15)

〈原因2〉親機(A)、子機(b、C)を指定している場合は、指定されていない局や指定が重複している局がある

処置：チャンネル番号が同じ相手局と指定(A、b、C)が重複しないようにする
(P.4-17)

〈原因3〉親機(A)、子機(b、C)を指定している場合、親機(A)が不在、または電源を切っているか、子機(b、C)と距離がはなれすぎている

処置：相手局の状態を確認したり、場所を移動したりする

〈原因4〉状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅している(マイクOFFの状態)

処置：状態表示ランプが赤色に点灯していないときは、[通話]を短く押して、マイクをONにする

■故障かな?と思ったら

〈現象〉通話できない(4者同時通話モード)

〈原因1〉4者の中で不在、または電源を切っているか距離がはなれすぎている局がある

処置：相手局の状態を確認したり、場所を移動したりする

〈原因2〉チャンネル番号(4-1～4-9)が異なっている

処置：相手局と同じチャンネル番号にする
(P.4-20)

〈原因3〉各局の指定(A、b、C、d)が重複している局がある

処置：チャンネル番号が同じ相手局と指定(A、b、C、d)が重複しないようにする
(P.4-20)

〈原因4〉状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅している(マイクOFFの状態)

処置：状態表示ランプが赤色に点灯していないときは、[通話]を短く押して、マイクをONにする

〈現象〉通話できない(6者同時通話モード)

〈原因1〉6者の中で不在、または電源を切っているか距離がはなれすぎている局がある

処置：相手局の状態を確認したり、場所を移動したりする

〈原因2〉チャンネル番号(6-1～6-4)が異なっている

処置：相手局と同じチャンネル番号にする
(P.4-22)

〈原因3〉各局の指定(A、b、C、d、E、F)が重複している局がある

処置：チャンネル番号が同じ相手局と指定(A、b、C、d、E、F)が重複しないようにする
(P.4-22)

〈原因4〉状態表示ランプが赤色と紫色(2回)が交互に点滅している(マイクOFFの状態)

処置：状態表示ランプが赤色に点灯していないときは、[通話]を短く押して、マイクをONにする

■アフターサービスについて

「■故障かな?と思ったら」(P.8-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

■保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

■保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

・保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

・弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：https://www.icom.co.jp/

9 定格

■一般仕様

使用温度範囲：－10～＋50℃(BP-319使用時)
10～40℃(BC-258(USB給電)使用時)
湿度：95% RH(結露状態を除く)
外形寸法：58(W)×62.6(H)×23.1(D)mm(無線機本体のみで、突起物を除く)
重量：約150g(BP-319装着時)
電源電圧：DC3.6V±10%(BP-319装着時)、
DC5V(BC-258(USB給電)使用時)

■Bluetooth®部

対応バージョン：Bluetooth Ver.5.3準拠
送信出力：Class1
対応プロファイル：HFP(Ver.1.8)、HSP

■BC-258 ACアダプター(別売品)

使用温度範囲：10～40℃
出力電圧：DC5V(USB Type-A)★
出力電流：最大2A(USB Type-A)★
外形寸法：37(W)×23.5(H)×46.4(D)mm(突起物を除く)
重量：約40g
★別売品のOPC-2480(Type-A to Type-C)を使用して無線機(IC-5030)と接続します。

■BC-275 連結可能充電器(別売品)

使用温度範囲：10～40℃
入力電圧：DC15V±0.75V(BC-228(ACアダプター)使用時)
DC12V±0.6V(BC-216(ACアダプター)使用時)
給電用出力電圧：DC5V±0.25V(USB Type-C)
給電用出力電流：最大0.5A(USB Type-C)
外形寸法：106(W)×83.7(H)×77.8(D)mm(突起物を除く)
重量：約148g

※ 定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。



アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

A7885-2J-1

© 2026 Icom Inc.

202609